

2025年度（令和7年度）

教 育 要 項
学 生 便 覧



愛知医科大学大学院 医学研究科

2025年度（令和7年度） 大学院教育要項 目次

1 建学の精神	1
2 学是	1
3 教育研究上の目的, 教育理念, 教育目標	2
4 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	2
5 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	3
6 学位論文審査に係る評価の基準	4
7 授業科目の履修方法等について	8
8-1 共通基礎科目	11
選択セミナー	12
共通基礎科目	13
8-2 研究方法特論・臨床医学特論	15
特別講義・プレFD	16
研究方法特論 I・II	17
臨床医学特論 I・II	19
9-1 授業科目, 授業項目及び単位数表	22
9-2 授業内容等	28
細胞生物学 (生物学)	29
解剖学	31
生理学	33
生化学	37
薬理学	39
病理学	41
感染・免疫学	43
衛生学	45
公衆衛生学	47
法医学	49
医学・医療教育学	51
加齢医科学	53
神経病態・幹細胞生物学	55
分子医科学	57
内科学	59
精神科学	77
小児科学	79
外科学	81
脳神経外科学	93
整形外科学	97
皮膚科学	99
泌尿器科学	101

産婦人科学	103
眼科学	107
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	109
放射線医学	111
麻酔科学	113
総合医学	115
形成外科学	117
救急集中治療医学	119
リハビリテーション医学	121
臨床感染症学	123
病理診断学	125
統合疼痛医学	127
口腔外科学	129
睡眠医学	131
救命救急医学	133
輸血・細胞治療医学	135
新生児学	137
がん治療学	139
緩和・支持医療学	141
災害医学	143
造血細胞移植・細胞治療情報管理学	145
10-1 特別開設科目及び単位数表	148
10-2 特別開設科目授業内容	151
1 細胞生物学セミナー	151
2 解剖学セミナー	151
3 生理学セミナー	151
4 生化学セミナー	151
5 薬理学セミナー	152
6 分子病理学セミナー	152
7 免疫学セミナー	152
8 健康増進・疾病予防セミナー	152
9 臨床疫学セミナー	153
10 情報科学セミナー	153
11 法医学セミナー	153
12 神経病理セミナー	153
13 神経病態・幹細胞生物学セミナー	154
14 分子医科学セミナー	154
15 消化管セミナー	154
16 肝・胆・膵セミナー	154
17 循環器学セミナー	155

18	呼吸器疾患病態セミナー	155
19	内分泌・代謝学 臨床遺伝セミナー	155
20	糖尿病学セミナー	155
21	神経疾患先行研究セミナー	156
22	血液内科大学院生セミナー	156
23	精神医学研究セミナー	156
24	小児神経学セミナー	156
25	消化器外科学セミナー	157
26	循環器外科学セミナー	157
27	血管外科学セミナー	157
28	乳腺内分泌外科学セミナー	157
29	腎移植外科学セミナー	158
30	脳神経外科学セミナー	158
31	脳血管内治療実践セミナー	158
32	整形外科学セミナー	158
33	皮膚感染症セミナー	159
34	泌尿器科学セミナー	159
35	産婦人科学セミナー	159
36	産婦人科（生殖・内分泌）学セミナー	159
37	眼科学セミナー	160
38	臨床頭頸部外科セミナー	160
39	総合画像診断セミナー	160
40	放射線治療セミナー	160
41	麻酔科学セミナー	161
42	救急集中治療医学セミナー	161
43	嫌気性菌感染症セミナー	161
44	病理診断学セミナー	161
45	疼痛医学セミナー	162
46	輸血・細胞治療医学セミナー	162
47	がん治療セミナー	162
48	悪液質・サルコペニアセミナー	162
11-1	学生生活関係	166
11-2	施設案内	180
12	愛知医科大学大学院学則	192
13	愛知医科大学学位規程	204
14	愛知医科大学大学院医学研究科における学位審査委員会委員の選出に関する規程	210
15	愛知医科大学大学院医学研究科履修規程	211
16	履修計画表	216

建学の精神

本学は、新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成することを目的とする。

そのため、医学を中心とした広汎な基礎的知識を授け、深い専門的技術を教授研究し、心身ともに健康なる医師を養育し、その知的、道徳的能力及び社会的有用性の向上を期している。

なお、私学の特性に鑑み、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立医科大学の健全なる発展を図り、社会福祉、殊に地域医療に貢献するとともに、東南アジアその他発展途上国の医療の進歩、向上に協力せんとする。

本学の修業年限は6年で、その間の教育に一貫性を期するとともに、研究の交流を図るために、その組織を基礎科学、基礎医学、臨床医学の各部門にわかち、それぞれの緊密なる連携を図ることにした。この点本学が新しい構想のもとに企画したところであり、本学の特色とするところである。かくして新しい「カリキュラム」をもって人間形成及び創造性の啓発を図り、人命の尊厳を守り、ヒューマニズムに徹し、各自の自主的、自発的勉学を尊重し、人間としての自覚にたった医学教育を目指しているのである。

学是 『具眼考究（ぐがんこうきゅう）』

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。

「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

教育研究上の目的

国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること。

教 育 理 念

愛知医科大学医学研究科は建学の精神に則り、最新の豊かな学識と研究能力を身に付け、医学研究及び医師育成に指導的な役割を担う国際的医学研究者を養成することにより、医学・医療の発展を通して社会に貢献することを目指す。

教 育 目 標

- 1 自ら研鑽に励み、各専門分野の先端的な知識・技術を習得し、専門性や社会性を身に付け、独力で研究プロジェクトを立案・遂行できる人材を育成する。
- 2 国際的な視野に立ち、先駆的な研究の展開を目指す人材を育成する。
- 3 チームのリーダーとしてふさわしいコミュニケーション能力を身に付け、医学研究・医療分野の指導的な役割を担うことができる人材を育成する。
- 4 研究倫理について十分に理解して、それを遵守でき、見識を持って社会的貢献に努めようとする人材を育成する。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学研究科の標準修業年限は4年間で、1・2年生で、基礎医学系を専攻する学生は課題解決に向けた技術的方法論を学ぶ研究方法特論を、臨床医学系を専攻する者は研究指導が行える臨床研究者に必要な専門知識と研究方法を学ぶ臨床医学特論を履修する。また、両専攻系において、共通基礎科目、必修科目及び選択科目を履修し、研究に関する基礎的知識・技術、専門分野、関連分野の知見を広めたいうで、3・4年生において研究指導を受ける。

特に研究方法特論及び臨床医学特論では、各人の専攻にかかわらず、これから行う研究活動の基礎的知識・技術を身に付けるため、生命情報分析、動物実験に関する内容や、英文論文を円滑に作成するための講義などを受講する。また、共通基礎科目では、先行して研究活動を行っている博士課程の修了予定者の研究内容の報告を聴き、この内容を検討するディスカッションに積極的に参加することにより、具体的な研究活動に繋げていくことを目的とする。

一方、各学生が専攻する科目では、専門分野の知識・技術を習得し、大学院学生としての専門性や社会性を確保するとともに、博士論文の立案、作成の基盤となる知識、技術、方策を習得する。

また、学問の多様化に対応するよう、本研究科に複数の履修コースを設け、研究指導を行う。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

医学研究科の単位としては博士課程前半の2年間において、講義8単位、演習6単位、実験研究16単位以上を履修し、計30単位以上を修得する。

これらの内容をすべて修得し、研究指導を受けた上で学位論文を作成、提出して最終試験を受け、これに合格すれば課程を修了したと認定して、博士（医学）の学位を授与する。

期待される学習成果

本学大学院医学研究科では、本研究科の課程を修了することにより、次に掲げる成果を得ることを目指しています。

- 各専門分野の先端的な知識・技術を習得し、専門性や社会性を身に付け、独力で研究プロジェクトを立案・遂行できる。
- 国際的視野に立った研究を遂行できる。
- チームのリーダーとしてふさわしいコミュニケーション能力を身に付け、医学研究における指導的な役割を担うことができる。
- 研究倫理について十分に理解して、それを遵守できる。

医学研究科における研究指導計画



学位論文審査に係る評価の基準

<学位論文が満たすべき水準>

- 審査を受けようとする者が主体的に立案・遂行した研究である。
- 論理的で明解に記述されている。
- 研究の方法と内容に新規性があり，国際的に評価される水準に達している。
- 研究倫理について配慮している。

<審査方法>

公開による学位審査発表会（口頭試問）

<審査項目>

- 各専門分野の先端的な知識・技術を習得していること。
- 研究プロジェクトを独力で立案・遂行する能力を有すること。
- 国際的視野に立った研究を遂行できること。
- 研究課題の今後の発展について，明確な展望を有すること。
- 十分なコミュニケーション能力を有し，医学研究において指導的な役割を担うことができること。
- 研究倫理について十分に理解し，遵守していること。

教 務 関 係

授業科目の履修方法等について

1 授業科目について

- (1) 必修科目は、基礎医学専門研究者養成コースの場合は研究方法特論Ⅰ及びⅡ、先端的臨床研究者養成コース及び次世代がん医療コースの場合は臨床医学特論Ⅰ及びⅡ、各コース共通の科目として共通基礎科目及び各学生の専攻科目等（主科目・副科目）の授業となります。

必修科目の単位数は、講義が8単位（研究方法特論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学特論Ⅰ・Ⅱを含む。）、演習が6単位（共通基礎科目を含む。）、実験研究が16単位の合計30単位です。

- (2) 専攻科目（主科目）以外にも研究指導教授の指導を受けて、研究上有益と認める科目を選択科目（副科目）として履修してください。選択科目を履修するときは、履修しようとする科目の担当教授の許可を得なければなりません。

修得した選択科目の単位は、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位を限度にして専攻科目の単位数に充てることができます。

- (3) 次世代がん医療コースの場合は、専攻科目（主科目）の他、主科目と重複しないよう、放射線医学、病理診断学、統合疼痛医学、がん治療学、緩和・支持医療学から授業科目を選択（複数可）し、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位以上を副専攻科目（副科目）として必ず履修します（選択的必修科目）。

- (4) 授業科目には、必修科目及び選択科目のほかに、特別開設科目を開設します。

特別開設科目の単位は、次のとおり取り扱います。

- ① 当該学生の研究指導教授を責任者とするものは、必修科目の単位数に充てます。
 - ② その他のものは、選択科目の修得単位として必修科目の単位数に充てることができます。
- (5) 共通基礎科目の単位認定については、11～14ページを参照してください。
- (6) 研究方法特論及び臨床医学特論の単位認定については、15～20ページを参照してください。

※履修計画表は、必ず所定の期日までに医学部事務部教務課へ提出してください。

2 修了要件等について

本研究科を修了するためには、次の(1)～(3)のとおり授業科目を履修の上、標準修業年限（4年）在学し、学位論文を大学へ提出の上所定の審査を受け、及び同審査に合格することが必要となります。

(1) 本研究科においては、授業科目の単位を次のとおり30単位以上修得しなければなりません。

○ 基礎医学専門研究者養成コース（基礎医学系専攻）

基礎医学系専攻者は、基礎医学専門研究者養成コースとして、高度の専門的知識の習得及び研究能力の育成を行うため、課題解決に向けた技術的方法論を学ぶ研究方法特論を履修し、研究初学者が身につけるべき内容の講義を受講します。

- ・ 研究方法特論Ⅰ及びⅡ 2単位（Ⅰ・Ⅱ各1単位）
- ・ 専攻科目等（主科目・副科目）26単位以上
- ・ 共通基礎科目 2単位（1学年・2学年各1単位）

○ 先端的臨床研究者養成コース（臨床医学系専攻）

臨床医学系専攻者の内、先端的臨床研究者養成コースを履修する者は、臨床研究に特有な基本的知識及び態度を育成するため、研究指導が可能な臨床研究者養成に必要な専門知識と研究方法を学ぶ臨床医学特論を履修し、研究初学者が身につけるべき内容の講義を受講します。

- ・ 臨床医学特論Ⅰ及びⅡ 2単位（Ⅰ・Ⅱ各1単位）
- ・ 専攻科目等（主科目・副科目）26単位以上
- ・ 共通基礎科目 2単位（1学年・2学年各1単位）

○ 次世代がん医療コース（臨床医学系専攻）

臨床医学系専攻者の内、次世代がん医療コースを履修する者は、臨床医学系の多様な専門領域において、がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材の育成を行うため、臨床研究者養成に必要な専門知識と研究方法を学ぶ臨床医学特論を履修し、がん専門医療人として身につけるべき内容の講義を受講します。

- ・ 臨床医学特論Ⅰ及びⅡ 2単位（Ⅰ・Ⅱ各1単位）
- ・ 専攻科目（主科目）14単位以上

※放射線医学，病理診断学，統合疼痛医学，がん治療学，緩和・支持医療学のいずれか，または内科学，外科学，耳鼻咽喉科・頭頸部外科学，口腔外科学等のがん治療を学び研究する臨床医学系の科目より選択

- ・ 副専攻科目（副科目）12単位以上

※放射線医学，病理診断学，統合疼痛医学，がん治療学，緩和・支持医療学から複数選択(主科目と重複しないこと)

- ・ 共通基礎科目 2単位（1学年・2学年各1単位）

※次世代がん医療セミナーの受講を必須

(2) 授業科目の単位は、原則として1学年及び2学年の2か年において修得しなければなりません。

(3) 授業科目の単位数は、講義及び演習は毎週1時間15週（15時間）をもって1単位、実験研究は毎週2時間15週（30時間）をもって1単位とします。

共 通 基 礎 科 目

1. メインテーマ

大学院学生のための情報解析

2. モデレーター

岩崎 靖 教授

3. 受講について

- (1) 1・2年生は全員受講する。
- (2) 3・4年生のうち、本科目単位未修得者は受講する。

4. 単位認定について

次の基準により1単位を認定する。

<p>必修セミナーと選択セミナーの出席合計が8回以上となった場合に認定する。</p> <p> 必修セミナー 区分A : 3回 必修セミナー 区分B : 3回 選択セミナー（次項）2回以上 </p> <p style="text-align: center;">} 出席8回以上</p> <p>※ 必修セミナーの 区分A の欠席分は、選択セミナー から補填ができる。</p>	
---	--

5. 必修セミナー実施スケジュール

必 修 セ ミ ナ ー			
日	時	内 容	区分
4月23日(水)	15:00 ～ 16:10	1 オリエンテーション 2 医学研究科修了予定者の研究の進捗状況報告	A
	16:30 ～ 17:40	3 統計の基礎	B
4月24日(木)	15:00 ～ 16:10	1 医学研究科修了予定者の研究の進捗状況報告	A
	16:30 ～ 17:40	2 研究倫理とコンプライアンス教育 (E-learning)	B
4月25日(金)	15:00 ～ 16:10	1 医学研究科修了予定者の研究の進捗状況報告	A
	16:30 ～ 17:40	2 講演 (文献情報検索手法について)	B

6. 場所

大学本館講義室（※開催場所調整中）

2025年度大学院医学研究科共通基礎科目に係る選択セミナー【最低2回出席必須】

1. 受講について

共通基礎科目における必修セミナーの出席に加え、選択セミナーから2回以上の出席が必要となります。

また、必修セミナーの区分[A]を欠席した場合は、代替講義になりますので、補填が必要な場合は必ず出席するようにしてください。

2. 実施スケジュール

コース名	部門名(セミナー名)	実施日		演題	備考			
先端的臨床研究者養成コース 基礎医学専門研究者養成コース	動物実験部門 (大学院セミナー)	第1回	4/28(月)	17:30-18:40	動物実験にかかる教育訓練 (動物実験の適正な実施に関する法令・基本指針など)	この内、 <u>2回以上</u> の出席を必須。		
		第2回	5/26(月)	17:30-18:40	動物実験にかかる教育訓練 (実験動物の適切な取り扱い・麻酔など)			
		第3回	6/30(月)	17:30-18:40	動物実験にかかる教育訓練 (バイオセーフティ・微生物コントロールの意義など)			
	高度研究機器部門 (大学院セミナー)	第1回	6月	17:00-18:10	フローサイトメトリー(FCM)の基礎			
		第2回	10月	17:00-18:10	FCMを用いたリンパ球サブセット解析法			
		第3回	1月	17:00-18:10	FCMを用いた細胞死の測定法			
	核医学実験部門 (大学院セミナー)	第1回	未定	時間未定	液体シンチレーションカウンタの基礎(仮題)			
	臨床研究支援センター (大学院統計セミナー)	第1回	4月	18:00-19:10	統計学の基礎			
		第2回	5月	18:00-19:10	統計的推測の仕組み			
		第3回	6月	18:00-19:10	医学研究と統計的検定			
		第4回	7月	18:00-19:10	回帰と相関			
		第5回	9月	18:00-19:10	後ろ向き研究の方法			
		第6回	10月	18:00-19:10	ロジスティック回帰			
		第7回	11月	18:00-19:10	生存時間(1)			
		第8回	1月	18:00-19:10	看護研究のための多変量解析			
		第9回	2月	18:00-19:10	生存時間(2)			
	総合学術情報センター (大学院セミナー)	第1回	未定	時間未定	英語論文執筆講座			
	次世代がん医療コース	臨床腫瘍センター (次世代がん医療セミナー)	第1回	6月	時間未定		急性疼痛と慢性疼痛の理解と対応	この内、 <u>2回以上</u> の出席を必須。 この他、任意で 上記のセミナー の参加も可。
			第2回	6月	時間未定		がんゲノムプロファイル検査用 FFPE作成の基本知識	
第3回			9月	時間未定	放射線治療の有効活用と他職種連携			
第4回			11月	時間未定	がん治療のアウトカムを向上させる 悪液質対策			
第5回			未定	時間未定	連携大学共有講義			
第6回			未定	時間未定	連携大学共有講義			

3. その他

- ・ 未定部分については決定次第、学内メール等により連絡する。
- ・ セミナーの内容・回数・順番は、予告なく変更する場合がある。

共 通 基 礎 科 目

1 担当教員名

【モデレーター】 教授 岩 崎 靖

・各セミナーの講義担当者については別途通知する。

2 教育目標

(1) ねらい

各教育研究分野が開催する大学院セミナーを受講することで、自身の研究の助けとなる基礎的知識・技能を獲得するとともに、幅広い視野と思考力を身につけ、研究を遂行するための創造力を養う。

また、当該年度修了予定の4学年次学生は、各自の研究進捗状況を報告し、医学研究科委員会運営委員会委員（各専攻系から選出された教員）から、研究遂行・論文作成へのアドバイスが受けられる。

(2) 学修の到達目標

- ① 医学研究と統計の基礎について理解する。
- ② 研究倫理とコンプライアンスについて理解する。
- ③ 文献情報の検索手法について理解する。
- ④ 動物実験の手法を理解する。
- ⑤ 英語論文の作成方法について理解する。
- ⑥ 各専門分野の先端的な知識・技術を理解する。
- ⑦ 研究プロジェクトの立案・遂行技術を理解する。

3 授業内容

大学院における初期教育として、統計学、研究手法、研究倫理、動物実験、論文作成方法などの基礎知識について演習を行う。

また、これから実行する研究のイメージを共有するため、1・2学年次は、先行して研究活動を行っている当該年度修了予定者の研究進捗状況の報告を聴講し、この内容を検討するディスカッションに参加する。

4 成績評価の方法・基準

3日間のレポート及び選択セミナーのレポートにより、評価する。

5 教科書・参考図書

適宜資料を配布する。

6 準備学習（予習、復習等）及び必要な時間

事前に関連する文献に目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

研究動機、研究態度を形成する総合演習を受講することで、論文作成に必要な基礎的知識・技能を修得できる。

8 課題（試験・レポート等）に対するフィードバック方法

レポートの内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	岩崎 靖	月～金	9:00～17:00	5号館2階 加齢医科学研究所	内線 12080

〔授業日程表〕

2025年度研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱ

1. 必修講義【6回】 ※1回70分

日時	項目	時間	内容	2025年度担当	
				所 属	担 当 者
2025.11.10 (月)	1	17:25 ～	オリエンテーション	医学研究科委員会 運営委員会委員長 (加齢医科学研究所)	教授 岩崎 靖
	2	17:30 ～ 18:40	MRIを用いた精神疾患の脳 画像研究について	精神科学講座	教授 宮田 淳
	3	18:50 ～ 20:00	研究倫理について	医学部倫理委員会 委員長 (皮膚科学講座)	教授 渡邊大輔
2025.11.11 (火)	1	17:30 ～ 18:40	生物学的研究での定量法につ いて	生理学講座	教授 増渕 悟
	2	18:50 ～ 20:00	調整中	眼科学講座	教授 瓶井資弘
2025.11.12 (水)	1	17:30 ～ 18:40	疾患モデル動物の分子遺伝学	総合医学研究機構・ 動物実験部門	准教授 松下夏樹
	2	18:50 ～ 20:00	論文投稿の実際	感染・免疫学講座	教授 高村祥子

2. 単位認定

次の基準により1単位を認定する。

研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱと大学院特別講義の出席合計が8回以上となった場合に認定する。

① 研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱ：6回（各日2回×3日間）

+
大学院特別講義 1回以上（全3回開催）

+
大学院プレFD 1回以上（全2回開催）

② 研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱの1回の欠席分は、大学院特別講義又は大学院プレFDの1回の出席で代替えができる。

③ レポートの提出をもって出席と取り扱う。

(注意点)

- ・ 11月中の3日間において集中講義として実施する。（講義の詳細は別途通知する。）
- ・ 1年次・2年次での受講を必須とする。
- ・ 3年次・4年次のうち、本科目単位未修得者は受講する。
- ・ 講義内容及び順番は、変更する場合がある。

特 別 講 義

1. 受講について

特別講義は、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱの3日間6回の出席に加え、1回以上の出席が必要となります。また、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱを欠席した場合は、特別講義が代替講義になりますので、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱに出席できない場合は必ず出席するようにしてください。

2. 実施スケジュール

	実施日	所属機関 職 名	講 師	講義内容	担当授業科目
1	2025年 10月1日(水) 18:00～19:10	大野レディスクリニック 院長	大野 泰正	妊産婦脳卒中と分娩周 辺期高血圧の治療戦略	産婦人科学
2	2025年 11月28日(金) 17:30～18:40	東京慈恵会医科大学 名誉教授	加藤 総夫	痛覚変調性疼痛が開 いた脳中心主義的痛 み観の扉	統合疼痛医学
3	調整中	調整中	調整中	調整中	がん治療学

プレFD（ファカルティ・ディベロップメント）

1. 受講について

本学医学研究科博士課程の学生は、将来的に自らの知識や技術を他者へ教授する機会が生じる見込みが高いことから、博士課程の学生を対象とした教育能力を身に付けるための取組（プレFD）を実施します。

なお、プレFDは、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱの3日間6回の出席に加え、1回以上の出席が必要となります。また、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱを欠席した場合は、プレFDが代替講義になりますので、研究方法特論Ⅰ・Ⅱ／臨床医学特論Ⅰ・Ⅱに出席できない場合は必ず出席するようにしてください。

2. 実施スケジュール

	実施日	所属機関 職 名	講 師	講義内容	担当授業科目
1	2025年 11月13日(木) 17:30～18:50	独立行政法人医薬品医療 機器総合機構 国際部長	佐藤 淳子	新規抗菌薬の開発促 進と課題	臨床感染症学
2	調整中	九州大学大学院農学研究院 代謝・行動制御学研究分野 准教授	池上 啓介	医学部出身でない医 学部教員のキャリア パスを考える（仮）	生理学

研究方法特論Ⅰ・Ⅱ

1 担当教員名

【モデレーター】 教授 岩 崎 靖

【基本的講義担当者】 教授 増 渕 悟
教授 渡 邊 大 輔
教授 岡 田 洋 平
教授(特任) 小 西 裕 之
教授(特任) 鈴 木 進
准教授 松 下 夏 樹
准教授 大 橋 渉

【専門的講義担当者】 ・基礎医学系，臨床医学系の各教授が担当する。
・詳細は，別途通知する。

2 教育目標

(1) ねらい

基礎的研究遂行と論文作成に必要な基礎的知識と技術を修得する。
研究に関する専門分野，関連分野の知見を広める。

(2) 学修の到達目標

- ① 英語論文の基本的構成、書き方を理解する。
- ② 生命科学研究に関連する統計解析を理解する。
- ③ 研究に関連する倫理規則について理解する。
- ④ 動物実験の手法を理解する。
- ⑤ 生化学的研究の手法と解析を理解する。
- ⑥ 生物学的研究の手法と解析を理解する。
- ⑦ ヒトを対象とした研究の手法と解析を理解する。

3 授業内容

基礎医学系を専攻する学生を対象に課題解決に向けた技術的方法論について講義を行う。
専門分野，関連分野への理解を深めるため，各分野の専門家を招聘した特別講義を開講することで様々な角度からの研究活動ができるような講義を行う。

4 成績評価の方法・基準

3日間のレポート及び特別講義のレポートにより，評価する。

5 教科書・参考図書

適宜資料を配付する。

6 準備学習（予習，復習等）及び必要な時間

事前に関連する文献に目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

各専攻分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力，様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題（試験・レポート等）に対するフィードバック方法

レポートの内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

- (1) 授業の内容によっては講義のみならず，討議しながら進める。
- (2) 各種研究技術の理論とその操作法を身につける。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	岩崎 靖	月～金	9：00～17：00	5号館2階 加齢医科学研究所	内線12080
教授	増 渕 悟	月火水	17：30～19：00	研究棟257号室	内線12257
教授	渡 邊 大 輔	水	17：00以降	C棟10階医局	内線22161
教授	岡 田 洋 平	月	16：00～17：00	研究棟409号室	内線12409
		金	13：00～14：00		
教授(特任)	小 西 裕 之	月	15：00～16：00	研究棟362号室	内線12362
教授(特任)	鈴 木 進		講義終了後，講義室にて	高度研究機器部門	内線11426
准教授	松 下 夏 樹	月水金	17：00～18：00	動物実験部門 (5号館実験動物 部門内)	内線12426
准教授	大 橋 涉		講義終了後，講義室にて	臨床研究支援センター	内線22950

臨床医学特論 I・II

1 担当教員名

【モデレーター】 教授 岩 崎 靖

【基本的講義担当者】 教授 増 渕 悟
教授 渡 邊 大 輔
教授 岡 田 洋 平
教授(特任) 小 西 裕 之
教授(特任) 鈴 木 進
准教授 松 下 夏 樹
准教授 大 橋 渉

【専門的講義担当者】 ・基礎医学系，臨床医学系の各教授が担当する。
・詳細は，別途通知する。

2 教育目標

(1) ねらい

臨床的研究遂行と論文作成に必要な基礎的知識と技術を修得する。
研究に関する専門分野，関連分野の知見を広める。

(2) 学修の到達目標

- ① 英語論文の基本的構成、書き方を理解する。
- ② 生命科学研究に関連する統計解析を理解する。
- ③ 研究に関連する倫理規則について理解する。
- ④ 動物実験の手法を理解する。
- ⑤ 生化学的研究の手法と解析を理解する。
- ⑥ 生物学的研究の手法と解析を理解する。
- ⑦ ヒトを対象とした研究の手法と解析を理解する。

3 授業内容

臨床医学系を専攻する学生を対象に課題解決に向けた技術的方法論について講義を行う。
専門分野，関連分野への理解を深めるため，各分野の専門家を招聘した特別講義を開講することで様々な角度からの研究活動ができるような講義を行う。

4 成績評価の方法・基準

3日間のレポート及び特別講義のレポートにより，評価する。

5 教科書・参考図書

適宜資料を配付する。

6 準備学習（予習，復習等）及び必要な時間

事前に関連する文献に目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

各専攻分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力，様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題（試験・レポート等）に対するフィードバック方法

レポートの内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

- (1) 授業の内容によっては講義のみならず，討議しながら進める。
- (2) 各種研究技術の理論とその操作法を身につける。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	岩崎 靖	月～金	9：00～17：00	5号館2階 加齢医科学研究所	内線12080
教授	増 渕 悟	月火水	17：30～19：00	研究棟257号室	内線12257
教授	渡 邊 大 輔	水	17：00以降	C棟10階医局	内線22161
教授	岡 田 洋 平	月	16：00～17：00	研究棟409号室	内線12409
		金	13：00～14：00		
教授(特任)	小 西 裕 之	月	15：00～16：00	研究棟362号室	内線12362
教授(特任)	鈴 木 進		講義終了後，講義室にて	高度研究機器部門	内線11426
准教授	松 下 夏 樹	月水金	17：00～18：00	動物実験部門 (5号館実験動物 部門内)	内線12426
准教授	大 橋 涉		講義終了後，講義室にて	臨床研究支援センター	内線22950

授業科目，授業項目及び単位数表

専攻	授業科目	指導教授	授 業 項 目	授業を 行 う 年 次	単 位 数		
					講義	演習	実験 研究
基 礎	細胞生物学 (生物学)	武内恒成	細胞間情報伝達の分子細胞生物学	1・2	2	1	4
			神経系を中心とする発生と再生機構と応用	1・2	1	1	4
			細胞接着分子と疾患に関わる細胞接着の解析	1・2	1	1	2
			組織・細胞の分子イメージング解析技術	1・2	1	1	4
			炎症制御と痛みの分子細胞生物学的解析	1・2	1		2
	解 剖 学	内藤宗和	臨床解剖学	1・2	2	1	4
			超微形態の観察法	1・2	1	1	4
			ファインバブルの医療応用	1・2	1	1	2
			生体の保存	1・2	1	1	2
			電磁場エネルギーの生物への応用	1・2	1		4
	生 理 学	増 淵 悟	病態生理学における生物時計の役割	1・2	2	1	5
			運動による転写制御機構の解析	1・2	1		2
			炎症性細胞の病態生理機能の解明と創薬研究	1・2	1	1	3
			卵巣組織内動態のライブイメージング解析	1・2	1	1	3
			生物時計による生理機能統御機構の解明	1・2	1	1	3
		佐藤元彦	循環調節機能の概説	1・2	1		5
			細胞内情報伝達機構	1・2	3	2	5
			血管リモデリング制御機構	1・2	1	1	5
	生 化 学	細川好孝	細胞癌化の分子機構	1・2	2	2	6
			細胞死（アポトーシス）の分子機構	1・2	2	1	6
エネルギー代謝の調節			1・2	2	1	4	
薬 理 学	丸山健太	薬理学総論	1・2	2		2	
		中枢神経と末梢神経の相互連関	1・2		2	4	
		末梢神経系による生体防御システム	1・2		2	4	
		感覚免疫学概論	1・2	2		4	
		薬の治療標的を同定するための研究生活ガイド	1・2	2		2	
病 理 学	笠井謙次	腫瘍性疾患の国際分類と病因病態	1・2	1	1		
		免疫組織化学染色概論	1・2	1		5	
		腫瘍性病変の形態異常とシグナル伝達異常	1・2	2	1	5	
		細胞運動能と細胞骨格制御機構	1・2	1	1	3	
		ユビキチン化と腫瘍特性	1・2	1	1	3	
感 染 ・ 免 疫 学	高村祥子	病原体認識機構	1・2	2	1	4	
		生体内リガンドの機能	1・2	1	1	3	
		抗体作製手法およびワクチンについて	1・2	1	1	4	
		脂質による免疫応答への影響について	1・2	1		3	
		寄生虫免疫学	1・2	1	1	2	
衛 生 学	鈴木孝太	社会医学概論	1・2	1		2	
		地域保健学	1・2	1	1	2	
		周産期、母子保健の疫学	1・2	2	1	4	
		産業・環境保健学	1・2	1	1	4	
		健康増進医学（ヘルスプロモーション）	1・2	1	1	4	
公衆衛生学	菱田朝陽	疫学的方法論	1・2	2	1	4	
		がんの疫学	1・2	1	1	4	
		感染性疾患の疫学	1・2	1	1	4	
		地域健康管理論	1・2	1	1	2	
		臨床疫学方法論	1・2	1		2	
法 医 学	妹尾 洋	医事法制概論	1・2	2		2	
		死体検案	1・2	1	1	4	
		法中毒学	1・2	1	1	4	
		薬毒物微量分析法	1・2	1	1	4	
		法医病理学概論	1・2	1	1	2	
医 学 ・ 医 療 教 育 学	早稻田勝久	医学教育総論	1・2	2			
		医学教育における学修者の評価	1・2	1	1	2	
		カリキュラム開発と評価	1・2	1	1	2	
		教授法と学修	1・2	1	1	2	
		医学教育の実践	1・2	1	1	10	

※ [] は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	授業項目	授業を行う年次	単位数		
					講義	演習	実験研究
基礎医学系	加齢医科学	岩崎 靖	中枢神経系の加齢形態学	1・2	2	1	3
			神経変性疾患の神経病理	1・2	1	1	4
			認知症の神経病理	1・2	1	1	3
			神経感染症の病理	1・2	1	1	3
			プリオン病の神経病理	1・2	1		3
	神経病態・幹細胞生物学	岡田 洋平	多能性幹細胞 (ES細胞・iPS細胞) の樹立と培養	1・2	1		3
			神経発生学と多能性幹細胞の神経分化誘導	1・2	1	1	3
			神経変性疾患の疾患モデル作製	1・2	1	1	3
			疾患特異的iPS細胞を用いた病態解析	1・2	2	1	4
			iPS細胞を用いた創薬開発	1・2	1	1	3
	分子医科学	[細川好孝]	細胞外マトリックスの分子生物学・生化学・形態学	1・2	1	1	4
			組織・器官の形成・再生の分子機構	1・2	1	1	3
			グリコサミノグリガンの構造と機能	1・2	1	1	3
			炎症と腫瘍における細胞外マトリックスの役割	1・2	1		3
			細胞の増殖・分化・接着・移動の制御機構	1・2	2	1	3
臨床医学系	[伊藤 理]	上部消化管疾患の診断と治療	1・2	2	1	4	
		下部消化管疾患の診断と治療	1・2	2	1	4	
		消化器内視鏡による診断と治療	1・2	1	1	6	
		消化器病理学	1・2	1	1	2	
	伊藤 清顕	肝疾患の診断と治療	1・2	2	1	6	
		胆道系疾患の診断と治療	1・2	2	1	4	
		膵疾患の診断と治療	1・2	1	1	4	
		消化器病理学	1・2	1	1	2	
	天野 哲也	動脈硬化とメタボリック症候群の因果カスケード病態解析研究	1・2	1		3	
		虚血性心疾患の病態, コロナリーインターベンション	1・2	1	1	3	
		心臓の電気生理学, 不整脈治療 (アブレーション含む)	1・2	1	1	3	
		無呼吸症候群の診断・治療	1・2	1	1	2	
		心不全の病態・治療	1・2	1	1	2	
		高血圧の病態・治療	1・2	1		3	
	伊藤 理	肺癌細胞の遺伝子発現	1・2	1		6	
		呼吸器内視鏡による診断	1・2	1	2		
		肺の免疫応答と関連蛋白	1・2	2		5	
		肺胞タンパク症の診断と治療	1・2	1	2	5	
		呼吸器アレルギー学	1・2	1			
	[伊藤 理]	内分泌疾患における分子遺伝学	1・2	2	1	3	
		間脳下垂体機能障害の病態解明	1・2	1	1	4	
		パゾプレシンを主とした内分泌代謝検査学	1・2	1	1	4	
		臨床遺伝学	1・2	1	1	2	
		内分泌代謝領域における遺伝学的解析	1・2	1		3	
	神谷 英紀	糖尿病の成因・病態・診断	1・2	2	1	2	
		糖尿病の薬物療法	1・2	1	1		
		糖尿病性合併症の成因と病態	1・2	2	1	2	
		糖尿病性合併症の新規治療法の創出	1・2	1	1	12	
	熱田 直樹	神経症候に基づく神経疾患検査・診断学	1・2	2	2	2	
		神経疾患の治療学的進歩とさらなる展望	1・2	1		2	
		神経疾患を標的とした分子病態解析学の応用	1・2	2	2		
		神経疾患克服を目的とした新奇創出研究の実践	1・2	1		12	
	石本 卓嗣	腎臓病の病態と治療	1・2	2	1	4	
		リウマチ・膠原病の病態と治療	1・2	1	1	4	
		透析療法の原理と実際	1・2	1	1	4	
		水・電解質：酸塩基平衡の病態と治療	1・2	2	1	4	
高見 昭良	造血器腫瘍の病態と治療	1・2	1	1	4		
	造血器腫瘍の増殖動態とエネルギー代謝	1・2	1	1	4		
	多発性骨髄腫発症・進展の分子メカニズム	1・2	2	1	4		
	造血幹細胞移植	1・2	2	1	4		
精神科学	宮田 淳	MRI, 脳波, 誘発電位などを用いた精神疾患の病態解明及び診断・治療法開発	1・2	1	1	4	
		臨床精神薬理学及びその周辺領域	1・2	2	1	3	
		てんかん及びてんかん性精神病	1・2	1		3	
		認知症及び高齢者に特有な精神症状・症候群の病態解明	1・2	1	1	3	
		精神病理学・精神症候学の定量的な臨床研究	1・2	1	1	3	

※ [] は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	授 業 項 目	授業を 行 う 年 次	単 位 数		
					講義	演習	実験 研究
臨 床 医 学 系	小 児 科 学	奥村彰久	小児神経疾患の神経生理学的解析	1・2	2	1	4
			小児神経疾患の画像解析	1・2	1	1	4
			小児感染症の病態解析・免疫応答解析	1・2	2	1	4
			小児感染症の分子生物学的検出法	1・2	1	1	4
	外 科 学	佐野 力	肝癌の治療選択	1・2	2		4
			膵臓癌の病態と治療	1・2	1	1	4
			消化器癌の診断と治療	1・2	1	1	4
			消化器癌に対するminimal invasive surgery	1・2	1	1	2
			消化器疾患の内視鏡外科手術	1・2	1	1	2
		松山克彦	虚血性心疾患およびその合併症に対する外科治療	1・2	2	1	6
			弁膜症の病態生理と外科治療	1・2	2	1	3
			大動脈疾患の病態生理と外科治療	1・2	1	1	2
			先天性心疾患の病態生理と外科治療	1・2	1	1	5
		児玉章朗	内臓動脈疾患の病態と治療	1・2	2	2	4
			腹部大動脈瘤の病態と治療	1・2	2	1	6
			末梢動脈疾患の病態と治療	1・2	2	1	6
		福井高幸	呼吸器外科周術期の循環動態	1・2	3	2	8
			呼吸器外科の低侵襲手術	1・2	3	2	8
		中野正吾	乳癌の外科治療と薬物療法	1・2	3	2	8
			内分泌、特に甲状腺、上皮小体および副腎腫瘍の外科治療	1・2	3	2	8
	小林孝彰	日本と世界の移植医療の違い/腎移植の現状と課題（文献考察、討論）	1・2	2	2		
		長期成績の改善/免疫抑制療法の適正化、個別化療法（サイトカイン、CFSE flow cytometry）	1・2	1	2	4	
		慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断、治療（HLA/ABO抗体とシグナル伝達解析、mRNA/miRNA解析）	1・2	1		4	
		免疫担当細胞の分化と増殖（T/B細胞培養、T-B communication解析）	1・2	1		4	
		BKV感染のリスク因子解析と対策（Real time PCR）	1・2	1		4	
	脳神経外科学	渡邊 督	脳血管障害の診断と外科的治療	1・2	2	1	3
			脳血管内治療と内視鏡手術	1・2	1	1	4
			脊椎脊髄疾患の診断と外科的治療	1・2	1	1	3
			脳腫瘍の病理と外科的治療	1・2	1	1	3
			頭部外傷の診断と治療	1・2	1		3
		原 政人	脊椎脊髄疾患の診断と外科治療	1・2	2	1	3
			末梢神経絞扼障害の診断と外科治療	1・2	2	1	3
			脊髄外傷の診断と治療	1・2	1	1	6
	整形外科学	高橋伸典	低侵襲手術に必要な手術機器開発	1・2	1	1	4
			軟骨・半月板再生・治療	1・2	1	1	4
			スポーツ障害の予防と治療	1・2	1	1	3
			関節リウマチの病態と治療	1・2	1	1	3
			骨軟部腫瘍の治療	1・2	1		2
			脊髄神経の再生誘導	1・2	1		2
	人工関節の基礎的研究と臨床応用	1・2	1	1	2		
皮 膚 科 学	渡邊大輔	膠原病と感染症	1・2	2	1	4	
		皮膚腫瘍の診断と治療	1・2	2	1	4	
		薬疹の診断と治療	1・2	1	1	4	
		皮膚疾患とアレルギー	1・2	1	1	4	
泌 尿 器 科 学	佐々直人	尿路性器腫瘍	1・2	2	2	5	
		尿石症の病態	1・2	1	1	3	
		尿路感染症の病態	1・2	2	1	5	
		排尿機構とその障害	1・2	1		3	
産 婦 人 科 学	渡辺員支	周産期に関する研究	1・2	2	1	4	
		生殖生理研究	1・2	2	1	3	
		産婦人科領域における感染症	1・2			3	
		妊産婦・胎児・新生児の管理	1・2	1	1	3	
		婦人科領域における悪性腫瘍の診断治療	1・2	1	1	3	

※ [] は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	授 業 項 目	授業を 行 う 年 次	単 位 数		
					講義	演習	実験 研究
臨 床 医 学	産婦人科学	大須賀智子	女性ホルモン分泌制御機構と疾患	1・2	2		3
			女性特有の疾患における動物モデルの作成と解析	1・2	1	1	3
			卵巣・子宮由来細胞株を用いた実験手法と解析	1・2	1	1	3
			臨床研究の立案・遂行に必要な知識・技術の習得	1・2	1	1	4
			効果的なプレゼンテーションと論文作成の基本	1・2	1	1	3
	眼 科 学	瓶井資弘	視機能及びその異常	1・2	2	1	4
			全身疾患と眼	1・2	1	1	3
			環境と視機能、網膜の生理学	1・2	1	1	3
			眼病理学	1・2	1	1	3
			神経眼科学	1・2	1		3
	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	藤本保志	頭頸部外科学概論	1・2	2		4
			嚙下障害概論—評価法と訓練法の開発	1・2	2		3
			頭頸部癌の病態	1・2	2		3
			音声障害と音声外科	1・2		2	3
			臨床耳科学	1・2		2	3
	放射線医学	鈴木耕次郎	Interventional Radiologyの開発と臨床応用	1・2	2	1	4
			三次元画像を用いた診断と計測、治療への応用	1・2	1	1	4
			核医学による生体臓器の機能と代謝の解析	1・2	1	1	4
			悪性腫瘍の高精度放射線照射と集学的治療	1・2	2	1	4
	麻 酔 科 学	[天野哲也]	人工呼吸による肺機能の変化	1・2	2		4
肺間質浮腫の成因と治療			1・2	1	1	3	
敗血症とカテコラミン			1・2	1	1	3	
ストレスと自律神経活動			1・2	1	1	3	
麻酔薬の細胞毒性			1・2	1	1	3	
総 合 医 学	前川正人	大学病院における総合診療とプライマリ・ケア	1・2	2	1	4	
		生活習慣病の病態	1・2	1	1	4	
		自律神経障害の病態	1・2	1	1	4	
		症候論・臨床推論	1・2	2	1	4	
形 成 外 科 学	古川洋志	皮膚の再生医療	1・2	1		4	
		創傷治癒の臨床と基礎	1・2	3	2	8	
		レーザー等による母斑・血管腫の治療	1・2	1	1	2	
		微小血管外科による組織移植	1・2	1	1	2	
救 急 集 中 治 療 医 学	渡邊栄三	心肺停止後症候群の病態と治療	1・2	2	2	2	
		敗血症の病態と治療戦略	1・2	1		4	
		組織酸素代謝とそのモニタリング	1・2	1	1	2	
		高サイトカイン血症の評価と対策	1・2	1		4	
		多臓器不全の病態と治療戦略	1・2	1	1	4	
リハビリテー ション医学	尾川貴洋	リハビリテーション医学・医療概論	1・2	2	1	2	
		内部障害のリハビリテーション診療	1・2	1	1	4	
		運動器疾患・脳血管障害のリハビリテーション診療	1・2	1	1	4	
		脊髄損傷のリハビリテーション診療	1・2	1	1	4	
		義肢装具療法・障害者スポーツ・社会支援におけるリハビリテーション診療	1・2	1		2	
臨 床 感 染 症 学	三鴨廣繁	感染症診断学	1・2	1	1	3	
		感染症治療学	1・2	1	1	3	
		薬物動態学・薬力学	1・2	1	1	1	
		臨床微生物学	1・2		1	4	
		臨床感染免疫学	1・2	1		2	
		感染制御学	1・2	1		3	
		東洋医学	1・2	1			
病 理 診 断 学	都築豊徳	外科病理学概論	1・2	2	1	2	
		細胞診概論	1・2	1	1	2	
		分子生物学的病理診断	1・2	1	1	6	
		アウトカムを目指した腫瘍病理学	1・2	2	1	6	
統 合 疼 痛 医 学	牛田享宏	神経系と筋・骨格系における痛みのメカニズム	1・2	1		3	
		痛みの評価法	1・2	1	1	3	
		痛みの薬理学	1・2	2	1	4	
		慢性疼痛患者の精神・心理	1・2	1	1	2	
		集学的アプローチとインターベンショナル治療	1・2	1	1	4	

※ [] は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	授 業 項 目	授業を 行 う 年 次	単 位 数		
					講義	演習	実験 研究
臨 床 医 学 系	口腔外科学	[古川洋志]	顎口腔顔面の解剖	1・2	1		2
			顎関節疾患の治療と加齢変化	1・2	2	1	4
			口腔腫瘍の治療と再建	1・2	1	1	4
			顎顔面外傷外科	1・2	1	1	3
			睡眠時無呼吸症	1・2	1	1	3
	睡眠医学	[天野哲也]	睡眠時無呼吸症候群の病態と治療	1・2	1	1	4
			睡眠ポリグラフ検査, 反復睡眠潜時検査による診断	1・2	1	1	6
			概日リズム睡眠覚醒障害の病態と光療法	1・2	1	1	2
			ナルコレプシーとその他過眠症の研究	1・2	2	1	2
			レストレスレッグス症候群とレム睡眠行動障害の診断	1・2	1		2
	救命救急医学	加納秀記	心肺蘇生法の歴史と新たなガイドライン	1・2	2	1	3
			感染症の治療と戦略	1・2	1	1	3
			災害の実例から学ぶ危機管理	1・2	1	1	4
			事態対処の基本	1・2	1	1	3
			病院前救急の基本	1・2	1		3
	輸血・細胞 治療医学	中山享之	輸血医学	1・2	2	1	3
			細胞培養法	1・2	1		3
			Cell Processing (細胞処理)	1・2	1	1	3
			血栓止血学	1・2	1	1	4
			細胞治療医学	1・2	1	1	3
新生児学	山田恭聖	新生児呼吸器疾患の呼吸生理学	1・2	2	1	4	
		超早産児の循環管理と合併症予防	1・2	1	1	3	
		超早産児の経腸および経静脈栄養管理と合併症	1・2	1		3	
		早産児・新生児の内分泌適応障害	1・2	1	1	3	
		新生児の疼痛生理学と評価と緩和法	1・2	1	1	3	
がん治療薬	久保昭仁	腫瘍学の基礎と分子生物学	1・2	2	1	4	
		本邦におけるがん対策	1・2	1		2	
		がん薬物療法と集学的治療	1・2	1	1	4	
		がんゲノム医療	1・2	1	1	4	
		チーム医療と全人的ケア	1・2	1	1	2	
緩和・支持 医 療 学	森 直治	緩和・支持医療総論	1・2	2	1	4	
		サルコペニアの臨床的意義	1・2	1		3	
		消耗性疾患の代謝応答をもたらす臨床症状とその対策	1・2	1	1	3	
		緩和・支持医療のゴール設定と全人的医療	1・2	1	1	3	
		多職種チームによる緩和・支持医療の展開	1・2	1	1	3	
災 害 医 学	津田雅庸	災害の種類と特性	1・2	1		2	
		災害医療の理論と実践	1・2	1		2	
		災害対応の大原則C S C A T T T	1・2	2	2	4	
		広域医療搬送	1・2	1	2	4	
		災害医療対応のPhase別ニーズの変化と対応	1・2	1		4	
造血細胞移植・細 胞治療情報管理学	熱田由子	臨床研究/レジストリ研究にかかる規制要件	1・2	1	1	2	
		臨床研究/レジストリ研究デザイン	1・2	2	1	4	
		臨床研究/レジストリ研究のデータ管理	1・2	1	1	4	
		生存解析	1・2	2	1	6	

※ [] は研究指導教授代理

授 業 内 容 等

細胞生物学（生物学）

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 武内恒成
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

細胞生物学は、生命の基本単位構造である細胞を中心に生体の成り立ちと機能を解き明かす学問であり、学生は分子生物学的・生化学的アプローチと生物物理学的な解析手法とくに生体イメージング技術や数理解析モデルも統合するものであることを理解する。特に医学基礎研究における、ゲノム編集技術をはじめとする先端的分生生物学的な手法とともに、顕微鏡イメージング技術を駆使した組織・細胞解析手法、発生工学的な解析を通して、医学に還元できる研究資質を得ることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 分子生物学・細胞生物学的観点からの生体機能と病態変化を説明できる
- ② 細胞機能とくに細胞間接着と細胞間シグナル伝達における基本メカニズムと病態を説明できる
- ③ 神経機能とくに分子と細胞機能における神経化学的側面と疾患との相関を指摘できる
- ④ 分子生物学的手法と細胞生物学的なイメージング解析技術を応用し実施できる
- ⑤ 最先端の学術論文の内容と方法を理解、説明するとともに、自ら論文執筆が実施できる

3 授業内容

【講義】	細胞内部構造と細胞内・細胞間情報伝達システムを論述する。がん化や疾患におけるそれらシステムの関与を講義する。神経系における分子細胞生物学手法を論述する。
【演習】	上記テーマと関連した、最近の文献の輪読と討論を行う。研究内容と方向性について議論を重ねるとともに、論文執筆能力を得る。
【実験研究】	脊髄損傷・脳虚血をはじめとする疾患に対する神経再生修復を研究する。基本的上皮構造組織の細胞接着・細胞間マトリックスの機能を研究する。発生工学的手法を駆使した神経回路形成および細胞間コミュニケーション機能を研究する。

4 成績評価の方法・基準

総合的には演習においての論文検証能力と自らの論文作成力を大きく評価する。研究・実験計画力は日々の実践を踏まえて、プレゼンテーション能力とともに評価ポイントとする。

5 教科書・参考図書

Molecular Biology of the Cell (6th edition) Garland Science, 2014
Principals of Neural Sciences (6th edition) McGraw Hill Medical

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義・演習における学修においては, 事前にテキストや論文・文献の内容事例などに目を通しておく, 1週間に7時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

神経再生修復, 基本的上皮構造組織の細胞接着・細胞間マトリックスの機能, 発生工学的手法を駆使した神経回路形成および細胞間コミュニケーション機能に関する論文作成を通して, 分子細胞生物学分野・神経科学領域での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究遂行能力, とくに専門領域でのさまざまな高度な最新知識を必要とする課題に対応できる実践的能力を取得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義・演習, 実習中に疑問点の解説, レポートおよび学修内容の評価等のフィードバックを行う。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	武内恒成	月	17:00~18:00	基礎科学棟教授室	内線 12066
		金	12:40~13:30		

解剖学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 内藤 宗和
【科目担当者】 准教授 畑山 直之

2 教育目標

(1) ねらい

形態が有るところには機能が宿り、マクロからミクロまでの構造(器官系-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子)がそれぞれに機能して初めて、生体のシステムが成り立つ。このような生命の基盤を扱う解剖分野の特性を背景に、興味のあるテーマを各自で決め、以下の目標に向かって研究を行う。

(2) 学修の到達目標

- ① 適切に文献検索を行い、論文内容を説明できる。
- ② 問題解決のための議論に参加できる。
- ③ 研究をデザインして、統計処理を実施できる。
- ④ 実験動物を用いて研究を実施できる。
- ⑤ 組織標本を作成し、研究結果を説明できる。

3 授業内容

【講義】	形態を軸とした基礎的な知識、観察法、評価の仕方を講述する。
【演習】	興味を持ったテーマに関する論文を読み、討論を行う。
【実験研究】	多様な実験動物を用いて幅広い観点から研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

情報収集能力、研究に関する感性、独創性、論文制作能力を総合判定する。

5 教科書・参考図書

特になし。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に提示された論文の事例などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

形態学に関する論文作成を通して、形態学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却し、不足している知識に関して議論を行う。理解が不十分な場合は再提出を求められることがある。

9 履修上の留意点

社会に還元できる研究を目指して取り組むこと。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	内藤 宗和	月	15:00～16:00	2号館 研究棟 254 号室 研究棟 307 号室	内線 12254 12307
		水	12:30～13:30		
		木	9:00～10:00		
准教授	畑山 直之	月・火・水	16:00～18:00	2号館 研究棟 364 号室	内線 12364

生 理 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 増 渕 悟
【科目担当者】 講師 榊 原 伊 織

2 教育目標

(1) ねらい

学生は生体には恒常性を維持するしくみがあり体温、血圧、ホルモンなどの値を制御することで生体を構成する臓器、細胞の適切な生存環境が維持されていること、これら生理学的指標の多くは1日24時間の周期で変動することを学ぶ。学生は、哺乳類の生物時計研究は1920年代に始まり歴史的にリズムの現象論(生理学レベル)、機能局在(解剖学レベル)、発振メカニズム(分子生物学レベル)の順に説明が進んだが、現在関連医科学を巻き込んだボーダレスな研究領域に発展していることを学ぶ。学生は主に生物時計研究を行うことを通して生理学的な考え方、方法論を学ぶ。

(2) 学修の到達目標

- ① 先行研究を収集、評価して研究テーマを設定することができる。
- ② 研究上必要な実験計画を作成することができる。
- ③ 必要な実験を習得する、あるいは実験系を構築することができる。
- ④ 実験結果を評価することができる。
- ⑤ 実験結果をもとに理論を構築し学会発表、論文作成を行うことができる。

3 授業内容

【講義】	生物リズムの基礎的な知識、考え方を解説・講義する。
【演習】	最新の論文を資料とし、それら研究の背景、意義、問題点につき議論を行う。この議論に基づき実験計画の立案を行う。実験の目的、意義、実現可能性につき議論を深める。
【実験研究】	演習で作成した実験計画に基づき研究を行う。実験結果の解析法を学び、データを参照しながら実験計画の修正を行う。

4 成績評価の方法・基準

研究テーマ、実験計画の立案、実験手技・技術、データ解析、学会発表、論文作成技術に関する提出資料、プレゼンテーションの内容をもとに評価する。

5 教科書・参考図書

Pittendrigh CS and Daan S: J. Comp. Physiol. 106: 223-355(1976)
本間研一、本間さと、広重 力:生体リズムの研究 北海道大学図書刊行会(1989)
石田直理雄・本間研一 編 時間生物辞典 朝倉書店(2008)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1 週間に 7 時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

研究発表及びその準備・練習を入念に行うことで, 理論的, かつ分かりやすいプレゼンテーションを行う能力を習得することができる。

論文作成, 研究発表を通して生命科学・医学の基本となる生理学の理論を構築する能力, 自立して研究を行う能力を習得することができる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートの内容について, 個別に指導する。

9 履修上の留意点

研究成果は論文の形で発表されて終わりではなく, 多くの研究者から評価を受けることとなるため自覚を持って取り組んでもらいたい。卒業後の進路の如何にかかわらず, プレゼンテーション能力, コミュニケーション能力は重要となるので, 論文作成に加えて積極的な学会発表, セミナーでの議論への参加を期待する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	増 渕 悟	月火水	17:30~19:00	研究棟 257 号室	内線 12257
講師	榊 原 伊 織	火・木	13:00~17:00	研究棟 259 号室	内線 12259

生 理 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 佐藤元彦
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、生体の外界刺激への適応がどのように達成されるのか、その生理調節機構を細胞レベルから個体レベルにおよぶ多階層で起きる事象を統合し理解を深める。学生は、様々な刺激に対する細胞レベルの適応として、細胞内情報伝達機構による調節を学ぶ。また、主に動物モデルを用いて個体レベルでの適応システムについても理解を深めていく。本教科では広い学問分野に基づく生体調節機構の統合的理解を目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 生体の恒常性維持における細胞内情報伝達系の意義を説明できる。
- ② 三量体 G 蛋白を介する情報伝達機構と生理現象を説明できる。
- ③ 細胞内情報伝達異常と疾病の関係について例を上げて説明できる。
- ④ 生理学の研究計画を立案し、実行、解析ができる。

3 授業内容

【 講 義 】	細胞内情報伝達系の概要とその調節機構、疾病との関連を講述する。また、個体レベルでの調節機序についても解説する。
【 演 習 】	細胞内情報伝達、細胞生理学に関する最近の文献の抄読および討論を行う。また、各研究者の研究成果について発表、討論を行う。
【 実験研究 】	三量体 G 蛋白活性調節因子の同定と解析、血管リモデリング制御機構の解明、細胞の低酸素応答の解析等を分子生物学的手法を用いて解析する。また、癌を含む様々な病態下でのシグナル異常について理解を深める。

4 成績評価の方法・基準

授業は、一般的な項目に関して、解説、討議しながらすすめるが、研究方法に触れる部分も重視し、少人数での実地演習も含める。評価は、課題に対して提出されたレポートと、実地演習の場における態度と課題に対する成果を総合的に判断して行う。

5 教科書・参考図書

- ① Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology, Saunders (2016)
- ② Molecular Biology of the Cell, Garland Science (2014)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に関連する文献, マニュアル等に目を通しておく。1週間に 7 時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

細胞内シグナルと疾病に関連する論文作成を通して, 生理学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートの内容については毎日の研究討論の中で指導教員と検討する。評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

本科目で修得する領域は広範囲に及ぶ。細胞内情報伝達系の理解には, 細胞生理学および分子生物学領域の基礎知識が必要となる。また, 疾患モデルの研究においては, ヒト臨床医学の知識が必要とされる。これらは必要に応じて自ら学習することが求められる。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	佐藤元彦	月	17:00~18:00	研究棟 274 号室	内線 12274
		木	11:00~12:40		

生 化 学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 細川好孝
【科目担当者】 教授(特任) 小西裕之

2 教育目標

(1) ねらい

・医学研究を展開するために必要な分子生物学・発癌の分子機構に関する基礎的・先端的な知識ならびに必要な実験技術を身につける。

・分子生物学の基礎的知識・技能を学び、研究内容を適切に発表できるプレゼンテーション能力と論文作製能力を修得し、将来独立した医学研究者ならびに指導者に成長していくことを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 分子生物学の基礎的・先端的な知識を説明できる。
- ② 発癌・細胞死の分子機構の概要を説明できる。
- ③ 専門の学会に参加し、自らの研究内容を発表できる。
- ④ 独力で新規な研究プロジェクトを立案・遂行できる。
- ⑤ PCR・マイクロアレイ等最先端の分子生物学の技術を操作できる。

3 授業内容

【講義】	1) 発癌は多段階からなる遺伝子異常の蓄積によるものである。細胞癌化に関わる複数の主要なシグナル伝達経路について講義する。 2) 細胞死について現在までに複数の経路が明らかにされている。その多岐にわたる分子経路について講義する。 3) 生命を維持する基本反応としてのエネルギー生成系の調節の分子機構、酵素反応および異常としての疾患の生化学的な機構について講義する。
【演習】	講義でのテーマと関連した文献の抄読会を行い、討論して、研究の進め方を学び、さらに研究内容の発表・討論を行う。
【実験研究】	1) プラスミドの調整やサブクローニング法など簡便な遺伝子組換え実験を学ぶ。 2) 培養細胞への遺伝子導入と Western blot 法を用いたタンパク質の検出法を学ぶ。 3) PCR 法を用いた遺伝子増幅や real time PCR 法を用いた発現解析技術を修得する。 4) マイクロアレイ法等先端的な網羅的な発現解析法を修得する。

4 成績評価の方法・基準

講義受講態度、課題レポート、講義および演習での発表等を組合わせて総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

講義の際、必要に応じてプリントを配布する。
参考図書 ワインバーグ がんの生物学 南江堂

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義: 2時間 15分/週
演習: 1時間 30分/週
実験演習: 3時間/週

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・講義・演習における発表活動を通して、医学研究者に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・シグナル伝達および癌の分子機構に関する論文作成を通して、腫瘍学の分野における高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力を発揮できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合には再提出を求めることがある。また、その内容について個別に指導する。

9 履修上の留意点

- ・講義では不明な点について積極的に質問してほしい。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	細川好孝	火水金	16:00~17:00	研究棟 361号室	内線 12361
教授(特任)	小西裕之	月	15:00~16:00	研究棟 362号室	内線 12362

薬 理 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 丸 山 健 太
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

- ① “疾患の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素”の理解を深めることを目的に、代表的な薬の作用機序を学ぶ。
- ② 薬の開発史を学ぶことで、薬理学を一種の文化として楽しめるようになることを目指す。
- ③ 感覚免疫システムによる全身の恒常性制御機構を理解する。
- ④ 薬理学にまつわる研究活動を俯瞰することで、未来の医学を創出するための方法を知る。

(2) 学修の到達目標

- ① 主要な薬物の開発された歴史的経緯を説明できる。
- ② 主要な薬物の個体・細胞・分子レベルにおける作用機序と副作用を説明できる。
- ③ 中枢神経系と末梢神経系の相互連関について説明できる。
- ④ 末梢神経系による生体防御システムを説明できる。
- ⑤ 感覚免疫学を概説できる。
- ⑥ 創薬標的を探るための研究活動について説明できる。

3 授業内容

【講義】	主要な薬物の開発された歴史的経緯と個体・細胞・分子レベルにおける作用機序を講述する。
【演習】	中枢神経と末梢神経の相互連関ならびに末梢神経系による生体防御システムに関する原著論文を精読し、討論を行う。
【実験研究】	遺伝子改変マウスや培養細胞を駆使することで、感覚免疫システムの全貌解明を目指す。

4 成績評価の方法・基準

知識習得のための授業はできるだけ双方向に行えるように配慮する。研究課題達成のための実験計画書作成については、きめ細かい指導を心がける。評価は提出されたレポートに加え、演習や実験研究における態度や技能も加味して総合的に判定する。

5 教科書・参考図書

Dancing Naked in the Mind Field (Kary Mullis 著) Vintage
Miyamoto S, Kondo T, Maruyama K. *Senso-immunology: the past, present, and future. J Biochem* 174: 305-315. 2023
Maruyama K. *Senso-immunology: crosstalk between nociceptive and immune systems. FEBS J* 289:4132-4145.2022

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に関連する文献に目を通し, 課題に対する疑問を整理しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

感覚免疫システムに関する論文作成を通して, ゼロベース思考と論理的思考力を兼ね備えた科学者の輩出をめざす。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは評価後返却されるが, 内容に不足がある場合には再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特記事項なし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	丸山健太	月	18:00~19:00	2号館研究棟 357室	内線 12357

病 理 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 笠井謙次
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

病理学は、Rudolf Virchow 以来の経験に裏付けされた形態学を基盤としつつ、最新の分子細胞生物学的知見を積極的に導入した「統合の学」であり、「病」の本質の理解を志す学問である。

本科目では、人体病理の学修を通じて疾患に対する理解を深めると共に、形態学的・分子生物学的研究を通じて、国際水準の疾患研究能力、特に腫瘍の発生・進展機構を解明する能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 主要な腫瘍性疾患の病因病態について、未解明事項を指摘することができる。
- ② 研究計画を立案できる。
- ③ 病理形態学および基本的分子生物学的研究手法を実践できる。
- ④ 研究データの解釈ができる。
- ⑤ 研究結果を発表し、議論できる。

3 授業内容

【講義】	主要腫瘍性疾患の国際分類および病因病態における問題点について概説する。また病理組織像の分子的理解のための免疫組織化学染色の理論と応用について講義する。さらに腫瘍性疾患の発生・進展に関わる分子細胞学的異常、特にシグナル伝達異常と細胞骨格制御機構・遺伝子発現制御機構の異常について、最新の知見を講義する。
【演習】	腫瘍性疾患に関する最新文献の抄読を、特に critical reading を意識して行う。
【実験研究】	免疫組織化学染色、共焦点顕微鏡を用いた形態解析、FFPE 組織・培養細胞を用いた発現解析、遺伝子組み換え技術を用いた遺伝子・蛋白機能解析を行う。

4 成績評価の方法・基準

講義・演習での議論、実験研究でデータ発表と解釈、議論を通じて評価する。

5 教科書・参考図書

1. WHO Classification of Tumours.
2. Cancer: Principles & Practice of Oncology
by Vincent T. DeVita Jr., Theodore S. Lawrence and Steven Rosenberg. 2023.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に教科書の該当範囲あるいは別途指示する参考文献による準備学習をすること。
(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

腫瘍性疾患に関する論文作成を通じて, 人体病理学・分子病理学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

データの解釈, 議論が不十分な場合, 必要に応じ実験研究のやり直しや教科書・文献による再学修を求められることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	笠井謙次	火水木	16:00~17:00	研究棟 265号室	内線 12265

感 染 ・ 免 疫 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 高 村 祥 子
【 科 目 担 当 者 】

2 教育目標

(1) ねらい

本科目では生体の病原体認識機構について正しく理解する。次に同じ病原体認識機構が生体内成分にも反応し恒常性維持センサーとしても機能していることについて理解を深める。さらに病原体認識機構による活性化シグナルが疾患発症に大きく関与している仕組みに関して理解を深める。学生は本教科において病原体認識機構と生体調節機構との密接な関係に関しての統合的理解を深めることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① Toll-like Receptor をはじめとする病原体認識機構の機能を理解できる。
- ② Toll-like Receptor を介した危険情報伝達機構と細胞活性化機構を説明できる。
- ③ 免疫学研究において必要な培養系、動物系での実験手法を実施できる。
- ④ “生体内リガンド”と言われるタンパクや脂質による免疫賦活作用や免疫制御機構を理解し表現できる。
- ⑤ Toll-like Receptorを介する活性化機構のワクチン応用について理解できる。

3 授業内容

【 講 義 】	病原体認識機構の概要と機構を歴史的変遷をまじえて講述する。また生体内に存在するタンパク・脂質が病原体認識機構を活性化させる“生体内リガンド”になりうることについても講述する。
【 演 習 】	生体にとって何が“危険”を知らせるきっかけになるのかについて文献の抄読・討論を行う。実験計画の立て方を学ぶと同時に実験的手法や考察の仕方についても討論を行う。
【 実験研究 】	基礎的な免疫機構解析手法を習得する。マウスなどの動物を用いた実験手法や、モノクローナル抗体作製方法なども習得する。病原体と宿主との相互作用を理解するための基礎研究も行う。

4 成績評価の方法・基準

授業は一般的な項目に関する説明や討議のほか、研究手法に関する部分や病原体認識機構の総論に関する部分の集中講義や、少人数での実地演習も含まれる。評価は、実験に取り組む態度や実験で得られた成果に対するもののほかに、研究結果の定期討論会での参加態度などによって行う。

5 教科書・参考図書

必要な論文、文献に関して適宜指示していく。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

指示した文献に関して, あらかじめ目を通しておく。(1週間に7~8時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

病原体認識機構や生体内リガンドに関する論文作製を通して, 免疫分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説を行う。レポートは評価後返却するが, 内容に不備があれば再提出を求める。

9 履修上の留意点

研究テーマに関して情熱をもって取り組むことが必須である。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	高村祥子	月~金	15:00~19:00	研究棟 366号室 研究棟 310号室	内線 12366 12310

衛 生 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 鈴木 孝 太
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

社会における医学・医療の位置づけについて理解するとともに、集団における健康状態を客観的に記述し、評価するために、疫学・生物統計学の基本を身につけることを目標とする。さらに、その結果として抽出される健康問題に対して、個人レベル、また集団レベルでの健康増進（ヘルスプロモーション）、疾病予防を目的に、現実的な対策およびその対策の評価を計画できることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 国内外におけるさまざまな健康問題を説明できる。
- ② 集団における健康状態を客観的に記述し、評価できる。
- ③ 記述統計、記述疫学で用いられているさまざまな指標を説明できる。
- ④ 集団における健康問題の分析と対策を計画できる。
- ⑤ 衛生行政、産業保健、国際保健について説明できる。

3 授業内容

【講義】	社会医学全般について講義するとともに、地域における医学・医療の位置づけ、疫学研究の中でも、周産期、母子保健における研究、環境・産業保健、ヘルスプロモーションの理論などについて、最近の研究内容などをもとに講義を実施する。
【演習】	1. さまざまな健康問題に関する、特に集団を対象とした疫学論文などを広く抄読し議論する。 2. 医学研究のデザインや、統計解析の手法など、研究に必要なスキルを身につける。
【実験研究】	人間集団を対象とした、健康関連データを用いた研究を進める。特に、地域や職域のデータ、臨床のデータなどを用いた共同研究を実施し、国際的に意義があり、それぞれの集団に還元できるような研究を実施する。

4 成績評価の方法・基準

研究を実施するにあたり必要な、疫学、生物統計学の知識を習得しているか。
自らの研究のみならず、関連する他の文献についても適切に評価することができるか。
以上を踏まえて、質の高い論文を執筆できているかについて評価する。

5 教科書・参考図書

それぞれの研究テーマに沿って指示する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に関連するテキスト、論文などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・毎回の発表活動を通して、専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・健康増進と疾病予防を目的とした、人の集団を対象とした論文作成を通して、社会医学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ・本講義の学修を通して、社会の諸問題を理解し、社会医学分野の研究に精通することで、国際的視野に立った研究を遂行できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。
- ・講義、実習中に疑問点の解説、レポート内容の評価等フィードバックを行う。
- ・レポートの内容について、個別に指導する。

9 履修上の留意点

地域や職域などでの調査、研究が含まれるため、現状に即して、授業時間および研究指導計画の変更が行われることがある。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	鈴木孝太	水	17:00～18:00	研究棟 369 号室	内線 12369

公衆衛生学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 菱田朝陽
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

疫学・臨床疫学研究のデザインができる。
データの質について評価ができる。
疫学・臨床疫学研究のデータを分析・解釈できる。
統計学を研究に応用できる。
疫学・臨床疫学研究における倫理的な事項を理解し、倫理に則り研究を遂行できる。

(2) 学修の到達目標

- ① バイアスを除いた形で疫学・臨床疫学研究のデザインができる。
- ② いくつかの研究デザインの得失を正しく評価できる。
- ③ データの質を評価でき、それに応じた分析ができる。
- ④ 統計学の手法をデータの分析に適切に応用できる。
- ⑤ 分析結果を科学的に解釈できる。
- ⑥ 疫学・臨床疫学研究において生じる、倫理的な問題を説明できる。

3 授業内容

【講義】	公衆衛生学の基本的な方法論である疫学・臨床疫学的方法論，地域および職域における健康管理論について講義を行う。
【演習】	実際に疫学・臨床疫学の研究計画を立案する過程を，少人数討論を通じて実践する。この過程で，講義の復習する，必要事項を調べるなど，自主的な学習も行う。
【実験研究】	演習で立案した研究計画に基づいて，実際にデータの収集（既存データの場合は必要なデータの出力），データの分析，結果の解釈を行い，論文化する。

4 成績評価の方法・基準

演習や実験研究における討論を通じて，知識や技能，研究に対する姿勢を評価する。
さらに，受講態度，授業での発表，提出物等を組み合わせ，複合的に評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定しない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

卒前教育などを通じて既に習得している知識・技能によるが, 予習・復習・検索・プレゼンテーションの準備などを合わせて, 平均週 5-6 時間が必要。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

必要な知識の講義, 演習・実験研究を通じて, 実際の研究計画立案, 研究実施, 論文作成を行い, 学位論文を作成する。学習目標に到達していないと, この過程をこなすことができない。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

演習・実験研究の討論の時に, 次回までの課題を与え, 次回にはその課題の報告に基づいて討論を行うという形で進める。討論がそのまま, フィードバックとなる。

9 履修上の留意点

パーソナル・コンピューターの WORD, EXCEL を常時使用するので, これら(もしくはこれらに代わるソフトウェア)を使用できることを前提にして授業を行う。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	菱田朝陽	月	16:00~17:00	研究棟 372 号室	メールにて 要事前連絡
		火	16:00~17:00		

※質問等については, 講義終了後、又はEmail(a-hishida@aichi-med-u.ac.jp)で問い合わせすること。

法 医 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 妹尾 洋
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

法医学とは、法律上問題となる医学的事項を検査、研究し法的解決に寄与することを目的とする学問である。法医実務は医療関連死等臨床医学にも大いに関連する事項が多い。そのため、学生が公正で偏りのない判断ができるようになることを目的とする。中毒学研究に関しては法医実務に直接関係する機器分析の理論と実際を理解し、学生自身で分析を行うことができることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 法医実務に関する用語(異状死体, 死体検案, 司法解剖等)を説明できる。
- ② 法医実務に直接関係する薬毒物分析手法を説明できる。
- ③ 法律的根拠に基づいて死者および遺族に対応できる。
- ④ 死体検案, 司法解剖の実務を実施できる。
- ⑤ 薬毒物分析に用いる HPLC/MS, GC/MS を操作できる。

3 授業内容

【講義】	1 法医実務概論と解説 2 法中毒学, 特に薬毒物分析の理論と実際
【演習】	1 死体検案, 司法解剖等の実務について, 指導者のもとで修得 2 法医学及びその関連領域の内外の文献の抄読と討論
【実験研究】	1 HPLC/MS, GC/MS等研究に必要な各種機器分析法を修得し, 薬毒物の分析, 有機薬毒物代謝物の分析に関する研究を行う。 2 死体検案, 司法解剖等, 法医実務に関わる諸問題の研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

研究に真摯に取り組む姿勢と、実務における客観的な考察能力等を総合的に見て評価する。
さらに、試験、小テスト、課題レポート、授業での発表、提出物等を組み合わせ、複合的に評価する。

5 教科書・参考図書

Knight's Forensic Pathology. Pekka Saukko. et al (Arnold; 4版, 2015)
Clarke's Analysis of Drugs and Poisons. Anthony C. et al (Pharmaceutical Press; 4版, 2011)
Drugs and Poisons in Humans. Osam Suzuki. et al (Springer; 2015版)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に14時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

法医学に関する論文作成を通して、法医学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

法医学は医学だけに偏らない広い分野での知識が必要となる。そこで、社会的側面なども考慮した上での公正で的確な判断を望まれることとなる。また、薬毒物分析には化学の知識と、大型分析器の操作も必要となる。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	妹尾 洋	月～木	10:00～16:30	研究棟 268 号室	内線 12268

医学・医療教育学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 早稲田 勝久
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

医学教育における基本的な学修理論，教授方法，評価方法を理解し，実際の教育にその知識を応用するスキルを身につける。

本学の建学の精神・学是を実現するための理想となる教育を目指し，教育プログラムの評価・改善をすることが出来る。

(2) 学修の到達目標

- ① 医学教育における学修理論を説明出来る。
- ② 様々な教授法(問題基盤型教育，シミュレーション教育などのアクティブラーニング)について説明，および実施が出来る。
- ③ 社会の要請に応えられる教育プログラムの立案ができる。

3 授業内容

【 講 義 】	教育プログラム開発・評価方法，学習者評価，教授法について講義をする。
【 演 習 】	授業評価などのアンケート結果を分析し，問題点を抽出する。
【 実験研究 】	基本的な教育技法を活用し，教育に関するFaculty developmentを立案・実施する。

4 成績評価の方法・基準

各講義後に提出するレポート・口頭試問にて評価する

医学教育者として資質(プロフェッショナリズム，コミュニケーションなど)のみならず，教育プログラムの企画力を評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定しない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの関連箇所を読み, 内容を把握しておく。

1 週間に 7 時間程度の予習と復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

医学教育に関する論文作成を通じ, 医学教育におけるプログラム開発・評価, 学習者評価, 教授法を自身で活用できるのみならず, 他の教員に対しても指導できる力を修得する。つまり, 医学教育に関する理解と実践が出来ることで学位を授与する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは確認後返却をするが, 内容によっては再提出を求める。

9 履修上の留意点

修得した知識, 技能を自ら実践できるようにする。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	早稲田勝久	水	13時から15時	医学教育センター	PHS 88293
		木	10時から13時		

加 齢 医 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 岩 崎 靖

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

1. 様々な神経疾患の臨床病理像を理解する。
2. 神経系の発生, 発達, 成熟, 加齢に伴う形態学的変化を理解する。
3. 生理的加齢による脳・脊髄の病理学的変化と, 神経変性疾患などによる病的な変化の指標を理解し, 客観的に記述し, 理解できる。
4. 神経変性疾患の病理を理解し, 認知症の病態を理解できる。

(2) 学修の到達目標

- ① 様々な神経疾患の臨床病理像を説明できる。
- ② 神経系の発生, 発達, 成熟, 加齢に伴う形態学的変化を説明できる。
- ③ 生理的な加齢による脳・脊髄の病理学的変化と, 神経変性疾患などによる病的な変化の違いを指摘できる。
- ④ 認知症の原因や病態を説明できる。

3 授業内容

【講義】	1. 神経変性疾患の病理学 2. 神経感染症, プリオン病の神経病理学 3. 認知症の神経病理学
【演習】	1. 神経病理解剖を担当し, 肉眼的所見の評価, 組織学的所見の把握, 診断を行い, 臨床病理検討会で発表し, 討論し, 症例を総括してまとめる。 2. 神経変性疾患, 認知症の診断を通じて, 神経細胞の変性過程や異常蛋白の発現や分布を把握し, 病態機序を考察する。
【実験研究】	タウやシヌクレイン, TDP-43, プリオンなどの主要な蛋白を, 形態や分子生物学的特徴から分析して, 組織学的手法を駆使して研究を発展させる。

4 成績評価の方法・基準

臨床病理検討会や加齢研の研究発表会での発表内容, 課題のレポートにより神経病理学の基本的知識を習得しているかを評価する。

学術論文の内容が, 方法論, 結果の解釈や考察について科学的思考過程を習得しているかについて評価する。

5 教科書・参考図書

Neuropathology, A reference text of CNS Neuropathology David Ellison, Mosby, 2013

神経病理学の基本的事項から, 疾患の解説まで遺伝子, 分子病理学を交えて, 豊富な図とともにわかりやすく解説されている。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

準備学習(予習・復習等)には, 30 時間を必要とする。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

神経病理学に関する論文作成を通して, 神経病理学での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

研究発表会での発表内容, 課題のレポート, 学術論文については個別に指導する。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	岩崎 靖	火・水・木	9:00~17:00	5号館2階加齢医科学研究所	内線 12080

神経病態・幹細胞生物学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 岡田 洋平
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

多能性幹細胞であるiPS細胞は、体を構成する全ての細胞へと分化することができるため、神経変性疾患をはじめとする様々なヒト疾患において、病態解明や治療開発における疾患モデルとして必要不可欠なものとなっている。学生は、ヒトiPS細胞について理解し、その培養法や分化誘導法を修得する。また、ヒトiPS細胞を用いた疾患解析、特に神経変性疾患の病態解析や治療開発に関する研究計画を自ら立案、実施し、神経変性疾患の病態を理解し、治療開発のストラテジーを修得することを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 多能性幹細胞(ES細胞・iPS細胞)の作成方法とその性質,分化誘導と個体発生との関係を説明できる。
- ② ヒトiPS細胞の樹立,維持培養,分化誘導等を実施できる。
- ③ 疾患特異的iPS細胞を用いた疾患解析の意義を理解し,神経変性疾患の病態解明,治療開発研究を立案,実施できる。
- ④ 関連論文を理解し,自らの研究結果を考察し,神経変性疾患の病態を説明できる。
- ⑤ 自らの研究結果をもとに,学会発表や論文執筆を行うことができる。

3 授業内容

【講義】	1. ヒトiPS細胞の性質,ヒトES細胞との類似点・相違点について概説する。 2. 多能性幹細胞の神経分化誘導と神経発生との関係を概説する。 3. 疾患特異的iPS細胞を用いた疾患解析や創薬研究について概説する。
【演習】	1. 文献検索等により,標的となる疾患の既知の病態を理解し,未解明の課題を抽出して自らの研究課題を設定する。 2. 病態解析や治療開発に資する疾患モデルと解析手法を検討する。 3. 検討項目について,プレゼンテーションとディスカッションを行う。
【実験研究】	1. ヒトiPS細胞の樹立,維持培養,および分化誘導等の技術を修得する。 2. 疾患特異的iPS細胞を用いた病態解析,治療開発研究を実施する。 3. モデル動物や患者における知見と対比し,得られた知見の妥当性を検証する。

4 成績評価の方法・基準

日々のディスカッション,研究室におけるプレゼンテーション,学会発表,および論文執筆等により評価する。特に能動的な研究遂行能力を高く評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定しない。

6 準備学習(予習・復習)

関連論文の通読, 研究計画の立案・修正, 修得項目の復習, データ考察等に一日3時間程度の予習, 復習が必要である。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

講義, 演習, 実験研究等を通して, 医学研究者に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し, 研究における指導的な役割を担うことができる。iPS細胞を用いた神経変性疾患の病態解明, 治療開発に関する論文作成を通して, 幹細胞や神経変性疾患の分野における高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

研究室において課題に関するプレゼンテーションを行い, ディスカッションを通してフィードバックを行う。必要に応じて個別に指導を行う。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	岡田 洋平	月	16:00~17:00	研究棟409号室	内線12409
		金	13:00~14:00		

分子医科学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 細川好孝（代理）
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

研究テーマの分野の知識を獲得と共に、研究遂行のための実験技術を習得し、研究を遂行し、その成果を論文発表する。これら一連の作業を通じて、論理的思考力と研究遂行能力を涵養する。

(2) 学修の到達目標

- ① 研究テーマに関連する論文等の情報を的確に獲得し、知識を体系として構築できる。
- ② 研究遂行に必要な実験技術とその背景にある知識を身につけ、実験を遂行できる。
- ③ 仮説を立て、その仮説の正しさを検証するための一連の研究行程を立案できる。
- ④ 実験データからその意義を正確に解釈し、これを基に次の実験計画を練ることができる。
- ⑤ 論文を執筆し、投稿できる。

3 授業内容

【講義】	英文論文の構造について説明し、効率的な論文の読み方、書き方を指導する。 学会発表の技術について説明し、データの効果的なプレゼンテーション法を指導する。
【演習】	必修セミナーを行う。
【実験研究】	分子生物学的、生化学的、細胞生物学的実験を行う

4 成績評価の方法・基準

関連論文を読み込んで、十分な知識を得ているか否かを口頭試問する。
研究の進捗度を評価する。その際、各実験が的確に行われているか否かを審査する。
実験結果に関する直接指導者とのディスカッションを通じて、研究計画の立案能力を評価する。
論文執筆内容に基づいて評価する。

5 教科書・参考図書

細胞の分子生物学 第6版 中村桂子, 松原謙一 監訳 (2017)
必要に応じてプリントを配布する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義 15 時間に対して 15 時間の予習と 15 時間の復習
実験研究 22 時間 30 分に対して 45 時間の復習

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・毎回の発表活動を通して、専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力と、プレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・分子医科学、分子病態学に関する論文の執筆と投稿を通じて、同分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ・本講義の学修を通して、社会の諸問題を理解し、分子医科学、分子病態学分野の研究に精通することで、国際的視野に立った研究を遂行できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

各課題に対しては文書あるいは口頭にてフィードバックする。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先

内 科 学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 伊藤 理 (代理)
【科目担当者】 教授(特任) 佐々木 誠人

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、臨床において最も頻度の高い疾患の一つである消化管疾患の病態について、学生はさまざまな手法を用いて研究するとともに、新たな治療法につながる独創的なアイデアを具現可能な技術と思考能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は消化管疾患の病態生理が説明でき、診断・治療ができる
- ② 学生は文献の収集ができる
- ③ 学生は研究計画が策定できる
- ④ 学生はデータの収集、解析ができる
- ⑤ 学生は成果をプレゼンテーションできる
- ⑥ 学生は英語で論文を書くことができる

3 授業内容

【講義】	消化器病学とくに消化管腫瘍、炎症性腸疾患、消化性潰瘍、胃食道逆流症、機能的消化管障害などの病態生理、診断、治療法に関する講義を行う。
【演習】	消化管疾患に対する診断と治療法について消化器内視鏡手技を合わせて演習する。また、最新の知見につき文献を収集、解析を行なう。
【実験研究】	消化管疾患に対する病態解明のための実験的研究を行うとともに、臨床研究のための研究計画の策定、データの収集、解析を行う。

4 成績評価の方法・基準

独創的思考能力、論理的思考能力、問題解決力、コミュニケーションとプレゼンテーション能力などをディスカッションや論文作成を通じて総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

週7時間程度の準備学習時間を設け、事前にプリントなどに目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

発表活動を通して、専門的職人に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を習得し、研究における指導的な役割を担うことができる。さらに、消化器病学に関する論文作成を通して、消化管分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポート内容について個別に指導し、評価後、返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

学究的な思考能力の向上のみならず倫理的配慮を忘れないこと。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授(特任)	佐々木誠人	火	11:00~12:00	D棟3階医局	内線 23487

内 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 伊 藤 清 顕
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生が臨床において最も頻度の高い疾患の一つである消化器疾患の中の肝胆膵疾患の病態についてさまざまな手法を用いて研究するとともに、独創的で具現可能な新たな治療法と診断法に繋がる研究を理解する。

(2) 学修の到達目標

- ①学生が肝胆膵疾患の病態を説明できる。
- ②学生が肝胆膵疾患の診断法における問題点を指摘できる。
- ③学生が肝胆膵疾患における治療法の問題点を指摘できる。
- ④学生が肝胆膵疾患の病態，診断，治療に関する資料を収集できる。
- ⑤学生が研究を一緒に行う他の研究者と研究の方針や手法について良好にディスカッションができる。
- ⑥学生が研究に必要な実験機器や測定機器を適切に操作できる。

3 授業内容

【 講 義 】	消化器病学とくに慢性肝疾患，ウイルス性肝炎，代謝障害関連脂肪性肝疾患，肝臓悪性腫瘍，胆道系悪性腫瘍，慢性膵炎，膵癌などの病態生理，診断，治療法に関する講義を行う。
【 演 習 】	消化器疾患に対する診断と治療法について腹部超音波検査，消化器内視鏡検査手技と合わせて演習する。また，最新の知見に関する文献を収集，紹介し討論する。
【 実験研究 】	消化器疾患に対する病態解明及び創薬のための実験的研究を行うとともに，臨床研究のための研究計画の策定，データの収集，解析を行う。

4 成績評価の方法・基準

独創的思考能力，論理的思考力，問題解決力，コミュニケーションとプレゼンテーション能力などをディスカッションや論文作成を通じて総合的に評価する。

適宜小テストを行い理解度を評価する。

テーマを与えて英語論文の収集を行わせて資料の収集能力を評価する。

5 教科書・参考図書

必要に応じてプリントを配付する

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にプリントの事例などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

肝胆膵疾患に関する論文作成を通して、肝胆膵分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

学究的な思考能力の向上のみならず倫理的配慮を忘れないこと。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	伊藤清顕	木	16:00~17:00	D棟3階教授室	内線 23767

内 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 天 野 哲 也

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は循環器分野の知識・技術を習得し専門性、社会性を確保する。

(2) 学修の到達目標

- ① 知識: 学生は循環器疾患の病態, 診断, 予防, 治療に関して最先端まで知識を深め, 応用できる。
- ② 態度: 学生は自ら問題点を整理し解決できる。
- ③ 技能: 学生は実験の計画, 実施, 結果の的確な分析ができる。

3 授業内容

【講義】	循環器学領域における各種疾患の病態生理, 診断, 治療に関する講義, 特に最近の進歩, 問題点について講述する。
【演習】	一般内科学並びに循環器疾患に関する文献の抄読, 症例の検討, 及び各種疾患患者の診断, 治療の実習を行う。
【実験研究】	循環器病学に関する基礎的, 臨床的研究を行わせ, その成果を発表させる。

4 成績評価の方法・基準

出席, 研究論文で評価する。

5 教科書・参考図書

各種の専門誌を用いる。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

学術論文を読み研究方法等を整理しておく。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

循環器分野の論文の作成を通して, 高度な専門知識と論理的思考が養われる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

内容が不十分であった場合, 最小限の指示を与えた後に再度提出とする。

9 履修上の留意点

各自の興味ある臨床及び基礎的疑問点より個々に相談の上研究テーマを決める。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	天野 哲也	水金	9:00~17:00	血管内治療センター	内線 35410
		木	14:00~17:00	D棟3階教授室	PHS 88268

内 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 伊 藤 理
【 科目担当者 】 教授 久 保 昭 仁

2 教育目標

(1) ねらい

学生が呼吸器病学で臨床的に価値の高い仮説を、臨床データと基礎的検討を統合した形で立証する知識と技術を習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生が呼吸器疾患診療において重要な臨床的課題のうち、未報告であったり、報告はあるが結論が得られていない課題を特定できる。
- ② 学生が上記課題で何が核心的に検討すべき事象であるかを特定できる。
- ③ 学生が上記を解明するために、どのような評価ないし測定指標が適切であるか指摘できる。
- ④ 学生が患者情報ないし試料を用いる場合には、適切な研究計画書を作成し倫理審査の申請ができる。
- ⑤ 学生が必要な技術的課題を特定し、それを実施できる。
- ⑥ 学生が得られた結果を統計学的に解析し、適切に解釈できる。

3 授業内容

【 講 義 】	各種の呼吸器疾患に関して最近の進歩を俯瞰するとともに、他臓器の病態に影響されることの多い臓器としての呼吸器疾患の特性に関して理解が深まる内容とする。それらを通して、未解明でありながら臨床的に重要な事項を把握することを促す。
【 演 習 】	症例検討会を通して上述の未解明事項を実感するとともに、それを解決するためにどのような研究計画を立案することが必要かを考察させる。抄読会で優れた論文を読むことにより、そこで用いられている方法について理解を深め、実行可能か否かを検討させる。できるだけ <i>in vitro</i> の知見とヒトの病態との関連が明確になるよう研究計画を立てられるようにする。
【 実験研究 】	上記過程で立案した研究計画に基づき、一定の期日までに達成すべき目標を設定して、実験ないし検査や測定を行わせる。研究データの精度管理を行うために、実験手法が完全に確立してから多数検体の測定を行わせる。 <i>in vitro</i> データはできるだけ蛋白発現、遺伝子発現、転写活性、転写因子測定など生命現象の各階層を含めるように計画させる。必要な統計法を選択し、解析できるよう指導する。

4 成績評価の方法・基準

評価は課題達成のための関連文献の収集と理解度、臨床データの収集、実験データの充実度、統計解析の達成度で一次評価を行う。最終評価は英語論文の医学雑誌掲載決定等、本学の基準をもって合格とする。

5 教科書・参考図書

指定教科書はない。参考図書として下記など。

1. Dani S. Zander et al, Molecular Pathology of Lung Diseases (Molecular Pathology Library), Springer, 2016.
2. Lauren Pecorino, et al., Molecular Biology of Cancer: Mechanisms, Targets, and Therapeutics, Oxford University Press, 2016.
3. Akin Eraslan Balci, et al., Lung Cancer: Clinical and Surgical Specifications, Bentham Science, 2018.
4. Robert Kotloff, Francis X. McCormack, Rare and Orphan Lung Diseases, An Issue of Clinics in Chest Medicine, Elsevier, 2016.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に講義テーマに即して、関連のある文献を読了し、そこで自分が理解できない点などを特定し、講義時の質問などで解決するように心がける。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

呼吸器病学の先端的な知識・技術を習得し、適切な志向的倫理規範のもと、独力で研究プロジェクトを立案・遂行できるようになり、論文掲載決定後に最終試験を受けて合格すれば課程を修了したと認定して、博士(医学)の学位を授与する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

提出された論文原稿、レポートは詳細に点検して返却する。

9 履修上の留意点

研究活動において根幹となるのは自主性であることに特に留意すること。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	伊藤 理	月	17:00~18:00	D棟3階教授室	内線 23050
教授	久保 昭仁	木	12:40~13:30	C棟7階教授室	内線 87323

内 科 学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 伊藤 理 (代理)
【科目担当者】 教授(特任) 高木 潤子

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、体内における内分泌代謝のシステムおよび、臨床遺伝学を理解し、内分泌代謝疾患の病態を、分子生物学的および生物学的、生理学的、解剖学的、また組織学的手法を用いて、研究できる技術と思考方法を習得できる。

(2) 学修の到達目標

- ① 内分泌代謝の機序を、総論的に、かつ各論的に説明する知識を習得できる。
- ② 臨床遺伝学の概要を、内分泌代謝疾患の研究に応用する知識を習得できる。
- ③ スタッフと共に内分泌代謝疾患の症例の実習を受け、臨床的問題点を挙げ、解決するための思考行程を習得できる。
- ④ スタッフと協力して臨床研究に参加し、勉強や研究の成果を表現できる技術を習得できる。
- ⑤ Radioimmunoassay を含む各種臨床検査、DNA 抽出から sequencing による変異検出の技術を習得できる。

3 授業内容

【講義】	内分泌・代謝学を中心とした、内科学領域の各種疾患の病因、病態、診断、治療及び臨床遺伝に関する講義を行い、今後の内分泌学の展望を提示する。
【演習】	内分泌領域の症例の診断、治療の実習、学内外における発表を行う。
【実験研究】	分子生物学的、臨床検査学的研究を行う。内分泌代謝疾患に関する、病態解明に寄与する目的の研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

内分泌代謝疾患の診断・治療に必要な、知識と技術を修得しており、症例報告ができる。
内分泌代謝疾患の研究に必要な、知識と技術を習得しており、研究成果を報告できる。
研究成果を、関連学会および関連雑誌にて発表できる。

5 教科書・参考図書

Endocrinology, 7th ed. J.L.Jameson & L.J.De Groot 2016.

The Cell 細胞の分子生物学第6版 Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 2017.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に, テキストの当該箇所に通すために, 週 7 時間程度の時間を要する.
発表の準備のための時間を, 適時要する.

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

講義, 実習, 実験研究を通じて, 内分泌代謝学における診断治療を実践し, かつ臨床における課題に取り組み, 内分泌代謝疾患の解明に還元できる成果を挙げる事を, 課程修了の方針とする. また, その成果を関連雑誌に掲載する事を, 学位授与の方針とする.

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価の後に返却し, 必要時には再提出を求める. 発表は, その場においてスタッフにより評価し, 指導する.

9 履修上の留意点

研究方法の取得と, 研究を進める思考の過程に, 重点を置く.

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授(特任)	高木潤子	月	10:00~11:30 (第1月曜除く)	D棟2階医局	内線 23511
		金	10:00~11:30		

内 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 神 谷 英 紀

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、糖尿病および糖尿病性合併症の成因および病態を理解し、新たな治療法の創出に向けた研究手技を修得し、糖尿病の臨床医としてのみならず研究者として次代の糖尿病学を担う人材となりうる能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は糖質・脂質・蛋白質代謝の意義を説明できる。
- ② 学生はインスリンの分泌・作用メカニズムを説明できる。
- ③ 学生は各種糖尿病治療薬の作用メカニズムを説明できる。
- ④ 学生は糖尿病合併症の成因を説明できる。
- ⑤ 学生は研究計画を立案し、実施できる。

3 授業内容

【 講 義 】	糖尿病診療の基盤となる知識の習得を目指し、糖尿病の病態・診断・薬物療法および糖尿病性合併症の病態・診断・治療に関する詳細を講義する。同時に、研究マインドの涵養に繋がるべく、糖尿病に関する様々な基礎的および臨床的最新の研究について概説する。
【 演 習 】	講義から習得した知識をもとに様々な症例を経験し、臨床データの収集と解析および学会発表を通じ、研究課題を創出するとともに研究計画を構築する。同時に、研究の遂行に必要な研究手技を習得する。
【 実験研究 】	講義および演習によって構築された研究計画を遂行し、糖尿病および糖尿病合併症の新たな治療法の確立に繋げる。

4 成績評価の方法・基準

糖尿病の病態・診断・薬物療法および糖尿病性合併症の病態・診断・治療に関しては、レポートおよび症例検討会でのプレゼンテーションをもとに評価し、研究に関しては研究に取り組む日々の姿勢と定期的で開催する研究発表および研究成果をもとに評価する。糖尿病の臨床医としてのみならず研究者として次代の糖尿病学を担う人材となり得たか否かを評価の基準とする。

5 教科書・参考図書

必要に応じて配布する資料および当該領域の学術論文、実験手技のマニュアルに関する各種出版物

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に教科書および参考資料に目を通しておく。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

糖尿病学に関する論文作成を通して糖尿病学分野での高度な知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートの内容について, 個別に指導する。

9 履修上の留意点

常に前向きで, 新たな治療法を創出するという気概を持つこと。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	神谷英紀	月	16:30~17:30	C棟5階教授室	内線 22354
		火	10:00~12:00		
		木	14:00~15:00		

内 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 熱田直樹
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、学問の多様化に対応した国際水準の先端的神経研究の遂行に必要な神経内科学の専門知識と研究技術、および研究者としての態度を習得し、神経研究における指導的役割を担う能力を自己確立する。すなわち、臨床においては神経内科専門医としての標準化された神経学的診療技術を学修するとともに、各種神経疾患に対する専門的診療の網羅的実践を通して高度な臨床応用力を研鑽する。研究においては、トランスレーショナルリサーチを目標とした新奇性の高い研究のデザイン・実践を通して医学研究者としての学術探求的視点を涵養し、より上級のphysician scientistならびに次代の神経内科学教育を担う指導者／教育者としてのコンピテンスを習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 知識;学生は神経研究の遂行に必要な国際水準の先端的知识を駆使して、神経内科臨床に還元可能な研究プロジェクトを立案できる。
- ② 技能;学生は自己の研究プロジェクト遂行に必要な研究方法・技術を駆使することができる。
- ③ 態度;学生は普遍的研究倫理および自己の研究プロジェクト遂行に必要な研究倫理を遵守できる。
- ④ 技能;学生は習得した研究技術を応用して、立案した研究プロジェクトを遂行することができる
- ⑤ 態度;学生は自らが遂行した研究の成果を神経内科臨床に還元することができる。

3 授業内容

【講義】	高度な神経疾患診療の基盤構築を目的として、神経症候学、神経学的臨床検査診断学、神経治療学に関する詳細かつ最新知識を概説する。神経疾患克服を標的とした研究アプローチの方略を模索する能力の涵養を目的として、神経疾患の分子病態に関する最新の知見を概説する。
【演習】	講義により習得した臨床および研究に関する知識基盤を拡大し、さらに自己能力化することを目的として、各種神経疾患の診療を網羅的に経験し、適宜臨床および検査データの収集、分析を加えて関連学会に報告する。各疾患に関して研究的視点からの詳細な検討を指導者とともにを行い、特に関心の高い研究課題を創出して、綿密な研究計画を構築する。研究を遂行するにあたり必要な実験技術を習得する。
【実験研究】	演習により構築した研究計画および習得した実験的手法を用いて、神経疾患克服を目的とした独創的な新奇創出研究を遂行し、その成果を関連学会に提示する。

4 成績評価の方法・基準

神経学的診療能力、research mind の高さ、brainstorming の程度、研究の達成度を評価尺度とし、臨床神経内科医としての適性度、神経科学研究者としての適性度、神経内科指導者としての適性度を評価する。

5 教科書・参考図書

当該学術論文、各種実験指南書物など。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

予習: 自らが研究標的とする神経疾患に関する研究論文を通読し, その新奇度, 論理展開を評価しておく。

復習: 授業で自らが習得した知識・技術を反芻し, 研究課題の発案, 遂行方法への応用を熟考する。

(1日3時間)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

神経疾患研究に関する論文作成を通して, 神経内科学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

課題遂行に当たっては, 常にフェイストウフェイスでディスカッションを行い, 過程の進捗を適正化する。

9 履修上の留意点

関心のある研究課題に positive 思考で没頭し, 挑む気持ちを常に持つことが肝要である。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	熱田直樹	月	13:00~14:00	大学病院中央棟内科外来35番 第2診察室	

内 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 石本卓嗣
【科目担当者】 教授(特任) 坂野章吾

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、大学院教育においてより専門的かつ高度な知識を身につけ、研究を行うことによって病態の理解を深め、考察力を磨くことによって、より医学の、とりわけ腎臓・リウマチ膠原病学の発展に貢献することを目標とする。具体的には、臨床疑問(Clinical Question, CQ)の中からテーマを決め、文献的考察から疫学研究、基礎研究とテーマに適する方法を用い研究を進めることによって、CQ に対する回答を得る事ができるようにする。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、目標とするテーマの背景を知り、研究から得られた結果を考察し、意義を理解できる知識を習得する。
- ② 学生は、テーマに対して、積極的に参加し、その目的、計画、結果、意義等をまとめた確に表現し発表できるようにする。
- ③ 学生は、テーマに対して、実験、解析を行い知識のみならず技能を習得することも目標とする。
- ④ 最終的には臨床・科学者としての知識、アプローチの仕方、考え方を習得する。

3 授業内容

【講義】	腎臓学、リウマチ膠原病学における各種疾患の病態生理、診断・治療に関する講義を行い、問題点を提起し、どのように研究としてアプローチするかを討議する。
【演習】	腎臓、リウマチ膠原病学における問題点に対して、文献の検索、研究の方法を検索検討し、実際どのようにすすめると目標となる回答に到達できるか学ぶ。
【実験研究】	臨床疑問(Clinical Question, CQ)の中からテーマを決め、文献的考察からはいり、疫学研究、基礎研究とテーマに適する方法を用い研究を進める。このための知識の整理、手法の習得方法を授業にて学ぶ。

4 成績評価の方法・基準

講義授業後レポート提出、定期的なミーティングに対して発表・レポート提出、質疑を繰り返す。国内・国際学会発表、英文論文作成、口頭試問を行い総合判定する。

5 教科書・参考図書

テーマに合致した、文献、資料、プリントを配布して読み合わせを行う。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

抄読会の文献, 教科書を読み, 準備を行う。

定期的のミーティングに対して power point で準備して, 背景, 目的, 方法, 結果, 考察を経時的に up date を行う。

目標とするテーマに対し, 最低週 3 時間の発表準備, 最低週 3 時間の抄読会準備を行う。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

各専門分野の先端的な知識・技術を習得し, 専門性や社会性を身に付け, 独力で研究プロジェクトを立案・遂行できること。チームのリーダーとしてふさわしいコミュニケーション能力を身に付け, 医学研究における指導的な役割を担うことができること目的とした, 授業, ミーティングを実施, 継続する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

定期的のミーティングの発表において, 直接指導, コメントしてフィードバックする。

試験, レポートに対してコメントをつけフィードバックする。

9 履修上の留意点

目標とするテーマに対して, 定期的にミーティングを行い, 軌道修正を行いながら目標に到達できるようにする。必要に応じ, 積極的にディスカッションを繰り返すことで問題点の解決をはかる。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	石本卓嗣	月	16:00~17:00	D棟3階教授室	内線 23054
教授(特任)	坂野章吾	木	16:00~17:00	総合腎臓病センターカンファ室(48ブース) D棟4階医局	内線 23530

内 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 高 見 昭 良

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、内科学、血液病学の研究を通じ、独立した研究者(principal investigator)に必要な知識と態度、技能を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ①学生は血液病学全般について、どこまでわかっていて、何がわかっていないか常に学修する。
- ②学生は血液病学の学修に必要な基礎医学の知識と態度、技能を身につける。
- ③学生は生命科学の進歩に寄与する英語論文(査読あり)を、3年で2報以上発表する。
- ④学生は新規研究プロジェクトを提案し、文科省科研費助成に応募する。

3 授業内容

【 講 義 】	内科学全般、血液病学に関する講義を行う。独立した研究者(principal investigator)に必要な知識、態度、技能(プロジェクトの提案、科研費申請、論文発表の方法を含む)を教える。
【 演 習 】	文献抄読、症例検討、研究結果発表・討論を行う。研究手法学修のため、外部研究者の招聘、外部機関への出向など適宜行う。
【 実験研究 】	生命科学の進歩を目指し、実験・研究を行う。実験ノートを適切に記載し保管する。実験ノートは外部に持ち出さない。

4 成績評価の方法・基準

英語論文発表(80%以下)、学会発表(10%以下)、知識・態度・技能(10%以上)などにより評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定しない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

研究に関連する最新文献を網羅的に検索し、通読する(1日1時間程度)。

研究結果を解釈し、研究計画の確認・修正を行う(1日1時間程度)。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

論文作成を通じ、血液病学分野の高度専門知識と論理的思考を伴う研究実践力が修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは評価後返却される。内容に不足・誤りがある場合再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	高見昭良	月火	15:00~16:00	D棟3階教授室	内線 22383

精 神 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 宮 田 淳
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、精神疾患全般に於いて精神医学的見地からの研究方法を修得できる。

(2) 学修の到達目標

- ① 当該精神神経疾患そのものの理解(知識:当該精神疾患についての主要な文献を検索できる;態度:当該精神疾患の治療に参加できる;技能:当該精神疾患についての rating scale を適切に選択・実施・評価できる。
- ② 精神疾患のデータを統計的に処理できる(知識:統計の理解, 態度:統計を用いて解析したデータをスライドを用いて説明できる;技能:SPSSなどのソフトを用いて実際の解析ができる。
- ③ 当該精神神経疾患の背景の理解(知識:当該精神疾患についての歴史的背景, 他の精神疾患との関連などを理解する;態度:スライドなどを用いてこれを説明・表現できる;技能:背景知識を汲みこんだ形で研究計画を立て, 結果を解釈できる。

3 授業内容

【 講 義 】	精神科学一般についての最近の知見の他, 精神症候学・精神病理学, MRIなどの脳画像学、脳波学、臨床遺伝学、精神薬理学、児童精神医学、心身医学、社会精神医学など、精神医学の現在地と今後の方向、境界領域についての講義を行う。
【 演 習 】	精神科領域における文献の検索方法、抄読会を通じた論文の批判的吟味、脳画像、脳波、統計解析などの演習、及び研究会での研究発表を行う。
【 実験研究 】	スーパーバイザーの指導の下、被験者リクルート、データ取得、データチェック、各種データの解析、学会発表、論文化を行う。

4 成績評価の方法・基準

精神疾患研究の現状の理解度を評価するため、試験、小テスト、課題レポート等により評価する。また抄読会や研究会での発表・ディスカッションも合わせて総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

必要に応じて適宜プリントを配布する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

自身の研究と関連する先行研究を精読し, 自身の論文作成の時に活用できるよう, 文献管理ソフトや実験ノートに記録する(週7時間程度)。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

自身の研究テーマにおける研究立案・データ取得・解析・論文執筆を通して, サイエンスとしての精神医学研究の高度で専門的な知識と思考力を修得する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

抄読会や研究会での発表・ディスカッションだけでなく, 日常のディスカッションの中でも研究対象や研究手法についての試問を適宜行い, フィードバックする。

9 履修上の留意点

精神疾患の有病率, ノーマライゼーション, ダイバーシティ&インクルージョン, 共感などのポイントを理解しつつ進めること。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	宮田 淳	金	9:00~17:00	C棟7階教授室	内線 88345

小 児 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 奥村 彰久

【科目担当者】 教授（特任） 伊藤 嘉規

2 教育目標

(1) ねらい

- 学生は、小児科疾患、特に小児の神経疾患・感染症について、その病態生理を理解する。
- 学生は上記の疾患を中心に、それに対する研究手法を理解する。
- 学生は上記の疾患について研究するための基本的な実験手技を習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、小児の神経疾患・感染症の病態生理を説明できる。
- ② 学生は、研究手法を習得するための講義および演習に自発的に参加できる
- ③ 学生は基本的な実験手技、特にサンガー法・ELISA・PCR法などの汎用性が高い手技を実施できる

3 授業内容

【講義】	小児科疾患の病態生理およびその研究の現況について、教科書や最新の文献を用いて解説する。また、今後の展望や問題点について討論する。
【演習】	小児科疾患における文献や教科書を用い、研究方法について討論を行う。サンガー法・ELISA・PCR法などの実験に参加し、手法について習熟する。
【実験研究】	教員から与えられたテーマについて、教員の指導の下に実験計画を立案する。実験計画に基づいて研究を実施し、その成果をプレゼンテーションする。

4 成績評価の方法・基準

- 論文の要点を教員にプレゼンテーションし、口頭試問を行う。プレゼンテーションの内容および口頭試問への回答が適切である場合に合格とする。
- 研究手技に関する講義および演習後に、習得した研究手技に関するレポートを提出する。研究手技に対する理解度を教員が評価し、理解が十分であると判断した場合に合格とする。
- 研究成果を教員にプレゼンテーションし、口頭試問を行う。また、プレゼンテーション内容に関するレポートを提出する。教員は口頭試問とレポートとを総合的に評価し、成果が十分であると判断した場合に合格とする。

5 教科書・参考図書

- Swaiman's Pediatric Neurology: Principles and Practice. Swaiman KF, et al. editors. Elsevier 2017
- Feigin and Cherry's Textbook of Pediatric Infectious Diseases (8th Edition) : James Cherry, et al. editors. Elsevier 2018

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義・演習の前にはそれぞれの課題に関連する文献などを読む必要がある。

また、プレゼンテーションを行う場合にはその準備が必要である。

1 週間当たり 7～10 時間の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

教員から与えられた課題に関する研究を実行して論文を作成することにより、小児科疾患に対する論理的な思考力を身につける。また、研究を計画して実行することにより、小児科疾患に対する研究を自ら実践する力を身につける。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートについては教員と面接で討論することにより、フィードバックを行う。

内容が不十分である場合は、再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	奥村彰久	火	16:00～17:00	C棟7階教授室	内線 22387
		金	15:00～16:00		
教授(特任)	伊藤嘉規	火	16:00～17:00	C棟10階医局	内線 22149
		水	16:00～17:00		

外 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 佐 野 力
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

消化器外科学を深く学び、その研究方法を履修して臨床に反映できる研究を遂行する能力を修得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 消化器外科の最近の進歩につき文献を把握できる。
- ② 肝胆膵外科の最近の進歩につき文献を把握できる。
- ③ 統計学的解析の手法を修得できる。
- ④ 英語でのプレゼンテーション技術を修得できる。
- ⑤ 自己の研究成果を誌上発表できる。

3 授業内容

【 講 義 】	消化管外科，肝胆膵外科における最近の進歩，問題点について講義する。
【 演 習 】	上記外科領域の臨床例について，診断と治療について演習する。さらにその疾患の診断，治療，予後に関する論文を抄読し，問題点について討論する。
【 実験研究 】	1. 消化器癌の進展及び化学療法に関する研究 2. 肝癌の遺伝子学的研究 3. 外科学的病態とサイトカインの関連に関する研究

4 成績評価の方法・基準

問題点の抽出能力，実験を遂行する能力，およびまとめる能力を評価するため，試験，小テスト，課題レポート等で総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

Greenfield's Surgery, Scientific principles & Practice LWW (2016)

Surgery of the Alimentary Tract Saunders (2001)

Atlas of Gastroenterology LWW (2003)

Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tract and Pancreas (Sixth Edition) Elsevier (2016)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

研究の進捗状況に応じ, 少なくとも週に数時間程度研究課題に取り組む。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

小児外科を含む消化器外科学に関する研究成果が適当と思われる誌上に発表する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

担当教員との面談を適宜行う。

9 履修上の留意点

- ・積極的に取り組むこと
- ・時間を守ること

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	佐野 力	水	16:00~17:00	C棟 11階医局	内線 22121

外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 松山克彦
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は医師として全人的な成長を期して、講義で与えられる知識技術の習得だけにとどまらず、自ら積極的に研鑽し食欲に心臓外科医としてあらゆる知識技量を習得し、個別疾患の病因、病態を見極め、個別に至適な外科治療を綿密に計画し、必要な手技を習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 術前評価、手術適応、手術内容、術後管理ができる
- ② 術前術後のカンファレンスに積極的に参加し、プレゼンテーションできる
- ③ 心臓外科としての最低限の外科的手技(人工心肺の確立など)ができる
- ④ 学会発表、論文作成ができる

3 授業内容

【講義】	心臓外科、大血管外科における病態生理、診断および治療法について講義する。
【演習】	心臓外科、大血管外科領域における国内外の文献の抄読、手術適応の判断、手術法の選択、術後管理、術後遠隔成績の評価検討につき演習する。
【実験研究】	弁膜症、冠動脈、大動脈手術における手術手技を改良開発するため、実験的研究テーマの設定、実施およびその結果に対する考察について指導を行う。

4 成績評価の方法・基準

論文作成能力、課題に対する解析能力を評価するため、試験、小テスト、課題レポート、学会報告等に加え、実習態度も加味し、総合的に判定する。

5 教科書・参考図書

特になし

6 準備学習(予習、復習等)及び必要な時間

1週間に7時間程度

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

心臓大血管に関する論文作成を通じて、心臓外科分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践能力を習得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは評価後返却されるが、内容に不備、不足、誤りがある場合は再提出を求める。
試験において成績不良の場合、再試験を行うことがある。

9 履修上の留意点

時間厳守

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	松山克彦	木	16:00~17:00	C棟 11階医局	内線 22140

外 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 児 玉 章 朗
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、血管疾患の病態、血行力学的な考え方を理解する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、末梢動脈疾患の病態を説明できる。
- ② 学生は、末梢動脈疾患の病態に応じた血行再建の必要性を説明できる。
- ③ 学生は、腹部大動脈瘤の手術適応と適切な手術法を説明できる。
- ④ 学生は、B型大動脈解離の病態に応じた適切な治療法を説明できる。

3 授業内容

【 講 義 】	末梢動脈疾患の病態生理、診断、および治療法について講義する。 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト手術と二次治療について講義する。
【 演 習 】	末梢動脈疾患に対する機能的検査法について演習する。
【 実験研究 】	末梢動脈疾患に対する血行再建術と下肢救済、中長期予後に関する臨床研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

研究の進展状況に応じて授業での発表やレポートで定期的に評価し、研究方法について議論する。
成果が出たら、関連主要学会で発表する。
学会発表での議論を含めて、英文論文として発表する。

5 教科書・参考図書

Rutherford's Vascular Surgery. 9th ed. Cronenwett JL and Johnston KW, eds. Philadelphia: Elsevier; 2019.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの関連箇所を目と通しておく。
1週間に、5時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

血管外科に関する論文作成を通じて、末梢動脈疾患，あるいは大動脈疾患での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力，特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは評価後に返却される。

内容に不足・誤りがある場合は再提出を求める。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	児玉章朗	木	14:00～17:00	D棟7階教授室	内線 80218

外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 福井高幸
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は臨床的な発案に基づく研究を主として行い、論文をまとめることにより臨床研究指導者としての基礎的な力と国際的に通用する競争力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、呼吸器外科の現状と展望を説明できる。
- ② 学生は、呼吸器外科領域における臨床研究の発案ができる。
- ③ 学生は、呼吸器外科領域における英語論文作成、学会発表ができる。

3 授業内容

【講義】	呼吸器外科の最近の進歩と今後の展望についての講義。
【演習】	呼吸器疾患の診断と治療法について、手術を含めた臨床治療の実地訓練。最新の論文を抄読する。呼吸器外科に関する学会における学会発表。
【実験研究】	1 呼吸器疾患術後の循環病態の測定・研究 2 呼吸器外科手術の侵襲性についての研究 3 周術期のサイトカイン変動についての研究

4 成績評価の方法・基準

実際の研究・学会発表および作成した論文に関して以下のようなポイント进行评估する。

- A) 新しい研究に対する対応
- B) 論文作成能力
- C) 学会での発表能力
- D) 研究指導力

臨床実地訓練において以下のようなポイント进行评估する。

- E) 呼吸器外科領域における診断能力
- F) 呼吸器外科領域における治療的手技

5 教科書・参考図書

教科書は特になし。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に配布された資料に関しては予習しておく。
臨床実地訓練では事前に患者の情報を把握しておく。
1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

呼吸器外科領域における英語論文を最低でも二本(主論文と副論文)を完成させる。
これにより国際的に通用する臨床的研究の発案と, その研究をまとめる能力が身に付き, 呼吸器外科領域における臨床研究指導者としての役割をになうことができるようになる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

提出されたレポート, 論文は評価し返却される。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	福井高幸	月～木	16:00～17:00	C棟7階教授室	PHS 80317

外 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 中 野 正 吾

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

多様な生物学的特性を有する乳癌，甲状腺癌領域の診断・治療法(画像診断，外科治療，薬物療法，放射線療法，病理学診断)を総合的に理解することにより，新たな診断，治療，予防法の開発に取り組み，各自がオリジナルな業績を上げることを目的とする。学生は，単に外科学の知識のみならず，基礎医学的研究手法を熟知し，リサーチマインドを身につけるとともに，豊かな人間性に基づく研究姿勢を確立する。独創的な研究を遂行し，研究成果を世界に発信することで，乳腺・内分泌外科学の進歩に貢献する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は乳腺・内分泌外科の疾患について幅広い知識を習得し，手術手技を実施できる。
- ② 学生は外来・病棟にて必要な問診を行い，検査法の選択，実施，検査結果の解釈ができる。
- ③ 学生は乳癌，甲状腺癌における薬物・放射線療法の目的，意義を理解し，実践することができる。
- ④ 学生は超音波 fusion 技術を乳腺・甲状腺画像診断に応用できる。
- ⑤ 学生は乳癌・甲状腺癌における細胞外マトリックに関するタンパクおよび遺伝子解析における基礎研究手法を習得できる。

3 授業内容

【 講 義 】	乳癌・甲状腺癌における診断・治療の最近の進歩と展望について講義を行う。
【 演 習 】	乳腺・内分泌外科領域における診断と治療法について演習し，かつ内外の関連論文を抄読することにより討論を行う。超音波 fusion 技術の臨床応用を行う。
【 実験研究 】	乳癌のホルモン依存性および遺伝性／家族性乳癌における薬剤耐性機構の研究 乳癌・甲状腺癌の生物学的悪性度，転移浸潤機構についての研究

4 成績評価の方法・基準

手術手技，適切な薬物療法の選択，病理診断，超音波 fusion 技術，細胞外マトリックスに関し，専門的水準に達しているかどうか，小テスト，口頭試問および英文誌に投稿された論文および学位論文を総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

Diseases of the Breast (5th edition), Jay R. Harris. Lippincott Williams & Wilkins, 2013
Management of Differentiated Thyroid cancer, Anne T. Mancino, Springer, 2017
Surgery of the Thyroid and Parathyroid gland 2nd edition, Gregory W. Randolph, Saunders, 2003
乳腺腫瘍学 第3版, 日本乳癌学会編, 金原出版, 2020

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

研究発表活動を通じて、専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的役割を担うことができるようになることを目指す。また高い業績を残し、専門分野において国際的視野に立った研究を遂行できると判断した場合、学位を授与する方針とする。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。講義、実習中に疑問点の解説、レポート内容の評価等フィードバックを行う。なおレポートの内容について、個別に指導する。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	中野正吾	木	12:00~12:30	C棟8階教授室	PHS 87190

外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 小林 孝 彰
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

リサーチマインドを持つ医師・臨床を理解する研究者を育成する。学生は、CKD(慢性腎臓病)の治療の1つとして腎移植の適応、術前・術後管理、免疫抑制療法など最新の知識、技術を習得する。また、臨床研究を立案・実施し、結果を解析・評価し、全体を考察する能力を身につけ、国際学会発表、英文論文発表を行う。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、世界と日本の移植医療を比較し、我が国の現状と課題を説明できる。
- ② 学生は、臓器提供不足問題に対する研究、施策を考えるためグループ討論に参加できる。
- ③ 学生は、移植免疫について理解し、長期成績向上のための慢性拒絶反応対策としての免疫抑制個別化療法の意義について説明できる。
- ④ 学生は、末梢血から免疫担当細胞(T細胞, B細胞)を分離し、増殖, 分化培養を実施できる。細胞表面マーカー解析, 細胞内 CFSE 解析のためのフローサイトメトリーを操作できる。
- ⑤ 学生は、リアルタイム PCR により mRNA, miRNA を測定できる。Western blotting によりシグナル伝達を解析できる。Flow cytometry 又は xMAP システムを用い HLA 抗体を測定できる。

3 授業内容

【講義】	日本と世界の移植事情の違い, 腎移植の現状と課題, 臓器提供不足を克服するための施策, 長期生着の改善と慢性抗体関連型拒絶反応の克服, 免疫抑制療法の個別化療法, 抗ドナー抗体 (HLA 抗体, 抗 A/B 血液型抗体) の理解と Accommodation 誘導, プタの臓器, 組織, 細胞を用いた異種移植の臨床応用について解説する。
【演習】	移植医療の必要性, 現状と課題 (臓器提供不足, 長期成績の改善) を理解するため, テーマを絞って文献検索を行う。総合的な討論を重ね, 日本の将来あるべき姿を考察する。各研究者は, 個別の研究成果について発表し, 全体で討論を行う。
【実験研究】	腎疾患・移植免疫学寄附講座の協力を得て, 下記項目について研究を実施し, 研究を遂行するための基本手技, 論理的思考を習得する。(1) 末梢血サンプル (T 細胞, B 細胞) を用い, CFSE フローサイトメトリー, サイトカイン mRNA/タンパク量測定, 細胞表面マーカー解析による薬剤感受性テスト (2) Real time PCR を用いた末梢血リンパ球, 血清, 組織中の mRNA, miRNA 発現解析 (慢性抗体関連型拒絶反応との関連) (3) 血管内皮細胞における抗体接着後のシグナル伝達解析 (4) 末梢血 B 細胞培養による形質細胞の効率的誘導と HLA 抗体解析 (5) 免疫抑制療法の最小化を実現するための免疫モニタリングの開発 (6) 血中 BKV 定量解析と免疫抑制療法の適正化

4 成績評価の方法・基準

講義は, 上記内容について解説し, 適宜小グループに分かれて討議, 発表を行う。演習, 実験研究では, 課題に対する発表, 討論を行い, その態度も評価に加える。評価は, 小テスト, 課題レポート, 研究成果によって行う。

5 教科書・参考図書

適宜指示する。 必要に応じてプリントを配布する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1 週間に 7 時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

本講義の学修を通して, 移植医療の諸問題を理解し, 国際的視野に立って, 課題克服のための研究の立案ができる。自ら実験を行い, 得られた結果を考察し, 研究計画の修正など, 高度な専門知識, 論理的思考に裏付けられた研究遂行能力を身につけることができる。毎回の発表活動を通して, 研究者, 医療人にとって必要とされるコミュニケーション能力, プレゼンテーション能力を習得し, 将来は後進の指導, 育成ができる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問があれば, 適宜解説し, 解決のヒントとなる参考図書などを提示する。レポートの内容について, 個別に指導し, 内容に不足, 誤りがある場合は再提出を求める。

9 履修上の留意点

本科目で習得する領域は, 移植医療に関わる全般を扱うため, 広範囲に及ぶ。移植外科, 慢性腎臓病の臨床だけでなく, 免疫学, 薬学, 分子生物学の知識も必要とされるので, 必要に応じて自ら学習する積極性が求められる。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	小林孝彰	月木金	17:00~18:00	C棟 8階教授室	内線 23850 PHS 87160

脳 神 経 外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 渡 邊 督
【科目担当者】 教授 大須賀 浩 二

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、脳神経外科疾患において、診断と最新の治療の実際を学習し、それぞれの疾患に対する脳外科的治療の適応、治療方法ならびに治療上における問題点につき理解をする。特に救急における適切な判断と、ガイドラインに基づく納得できる治療戦略について学習する。

(2) 学修の到達目標

- ① 様々な脳神経外科疾患の神経放射線学的画像診断を説明できる
- ② 画像診断に基づき、今後の治療方法につき説明できる
- ③ 従来の観血的治療と低侵襲医療（血管内、内視鏡手術など）の棲み分けについて正しく理解し、配慮できる
- ④ 様々な脳神経外科疾患の観血的及び血管内治療に参加できる
- ⑤ 個々の脳神経外科疾患患者の治療経過から、機能予後など説明できる
- ⑥ 脳神経外科疾患に関する分子生物学的な研究に参加し、結果を報告する
- ⑦ 脳神経外科疾患に関するトランスレーショナルリサーチに参加し、成果をまとめる

3 授業内容

【講義】	1. 脳神経外科疾患、特に頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍、機能的脳疾患、髄液循環障害、脊髄脊椎疾患などの病態生理、診断、治療、管理ならびに予防について講義する。 2. 脳神経外科における補助診断法、放射線学的脳血管解剖、生理学的検査の評価について講義する。 3. 脳神経外科救急疾患に対する緊急対応について講義する。 4. 低侵襲的脳外科治療についての適用、効果、リスクについて講義する。
【演習】	1. 脳神経外科疾患の神経放射線画像診断を学ぶ。 2. 顕微鏡下脳手術、脊髄脊椎手術、脳血管内手術、神経内視鏡手術などに参加し、基本的手術手技を学ぶ。 3. 脳神経外科疾患の周術期管理を学ぶ。
【実験研究】	1. 脳血管障害や脊髄損傷ラットモデルを用いて病態生理学的基礎的研究を行う。 2. 慢性硬膜下血腫の内容液や被膜組織を用いて、増大や縮小に関与するシグナル伝達機構を解明する。 3. 工学部との共同研究によるロボティクスについての実験研究を行う。 4. 新しい治療デバイスの効能について、in vivoの実験的評価を行う。 5. 脳神経外科手術に必要な補助診断法の開発、評価を行う。

4 成績評価の方法・基準

成績評価は、次の項目の達成度を総合して判定する
下記の項目の達成度を総合的に判定する。

1. 脳神経外科疾患における画像所見の的確なる診断能力と治療方針の判断能力
2. 脳血管撮影および脳神経外科手術手技の習熟度
3. 実験研究テーマにおける達成度
4. カンファレンスにおけるプレゼンテーション能力
5. 研究会、学会での発表ならびに論文での研究発表

5 教科書・参考図書

脳神経外科 Neurosurgery 改訂 12 版 太田富雄 編 金芳堂 (2016)
脳血管内治療学 宮地 茂, 他 編 メディカ出版 (2018)
病気がみえる Vol. 7 脳・神経 医療情報科学研究所 メディックメディア (2017)
Handbook of Neurosurgery M.S. Greenberg (ed.) Thieme Medical Publishers (2019)
脳血管内治療兵法書 宮地 茂 メディカ出版 (2015)
Practical Neuroangiography 3rd edition Morris P. (eds) Lippincott Williams & Wilkins (2013)

その他必要に応じて配布する

6 準備学習(予習・復習)

事前にテキストの事例などに目を通しておき、画像診断のポイントや外科的治療におけるアプローチなどにつき考えておく。特に症例の治療前には、読影、術前検査の評価の他、アプローチ法などについて自分なりのシナリオを考えておく。また、治療後にその過程と結果についてレポートをまとめる。1週間に少なくとも7時間以上の予習と復習をおこなうことがのぞましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

実験研究の成果についての論文発表、当該領域の専門知識の十分な習得と、論理的思考を伴う研究実践力、治療手技についての十分な危機管理と施行技術の獲得をもって、過程修了、学位授与を検討する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

重要な症例に関してはレポートの提出を求める。レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

様々な脳神経外科疾患における診断・治療においては、脳血管内治療との深い関連性があるため、双方の偏りない知識の習得が重要で、治療との連関について深い理解が必要である。

また、脳血管障害においては、救急救命科ならびに神経内科(脳卒中センター)との強い協力体制が必要であり、これらの科の知識もできる範囲身につけるよう心がけが必要となる。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡邊 督	木	9:00~12:00	C棟9階脳神経外科医局	内線 22138
教授	大須賀浩二	月	15:00~17	C棟9階脳神経外科医局	内線 22138
		金	9:00~12:00		

脳 神 経 外 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 原 政 人

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害において，診断方法と治療の実際を学習し，それぞれの疾患に対する脊椎脊髄外科的治療の適応治療方法ならびに治療上における問題点について理解する。

(2) 学修の到達目標

- ① 神経診察を通して神経高位を説明できる。
- ② 画像および電気生理学検査において病変部位を呈示することができる。
- ③ 手術治療と保存的治療の選択について理解し，配慮できる。
- ④ 様々な脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の治療に参加できる。
- ⑤ 様々な脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の治療経過から機能予後など説明できる。
- ⑥ 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害に関する学術的な研究に参加し，結果を報告する。
- ⑦ 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害に関するトランスレーショナルリサーチに参加し，成果をまとめる。

3 授業内容

【 講 義 】	<ol style="list-style-type: none">1. 脊椎脊髄疾患，特に脊椎変性疾患，脊髄腫瘍，脊髄血管奇形，脊髄外傷などや，末梢神経絞扼障害についての病態生理，診断，治療，管理ならびに予防について講義をする。2. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害における神経解剖，神経診察，画像検査，生理学的検査の評価について講義する。3. 脊椎脊髄外傷に対する緊急対応について講義する。4. 脊椎脊髄疾患に対する画像誘導手術や低侵襲手術についての適応や効果，リスクについて講義する。
【 演 習 】	<ol style="list-style-type: none">1. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害に対する神経放射線画像診断・電気生理学的診断を学ぶ。2. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の顕微鏡，外視鏡，内視鏡手術などに参加し，基本的な手術手技を学ぶ。3. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の周術期管理を学ぶ。
【 実験研究 】	<ol style="list-style-type: none">1. 脊髄損傷ラットモデルを用いて病態生理学的基礎的研究を行う。2. 画像誘導手術におけるナビゲーション機器の精度向上に向けた研究開発を行う。3. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の手術に必要な補助診断法の開発評価を行う。4. 有限要素法を用いた脊椎の強度解析を行い，術前の手術計画に応用するとともに術後評価を行う。5. 新しいインスツルメンテーションの効能について，実験的評価，科学的評価を行う。

4 成績評価の方法・基準

成績評価は，次の項目の達成度を総合して判定する。

下記の項目の達成度を総合的に判定する。

1. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害における画像所見の的確な診断能力と治療方針の判断能力
2. 脊椎脊髄疾患，末梢神経絞扼障害の手術手技に対する理解度
3. カンファレンスにおけるプレゼンテーション能力
4. 研究会，学会での発表ならびに論文での研究発表
5. 実験研究テーマにおける達成度

5 教科書・参考図書

脳神経外科学 Neurosurgery 改訂第13版 太田富雄 編 金芳堂(2021)
脊椎脊髄の手術 第2巻 戸山芳昭,花北順哉 編 三輪書店 (2015)
脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎 基本編 高安正和 編 中外医学社 (2012)
脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎 ステップアップ編 高安正和 編 中外医学社 (2012)
など

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておき, 画像診断のポイントや外科的治療におけるアプローチなどにつき考えておく。特に症例の治療前には, 患者の神経診察, 画像の読影など補助検査の評価の他, アプローチ法などについて自分なりのシナリオを考えておく。また, 治療後にはその過程と結果についてレポートをまとめる。1週間に7時間以上の予習・復習を行うことが望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

実験研究の成果についての論文発表, 当該領域の専門知識の十分な習得と, 論理的思考を伴う研究実践力, 治療手技についての十分な危機管理と指向技術の獲得をもって, 課程修了, 学位授与を検討する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。
重要な症例に関してはレポートの提出を求める。レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

脊椎脊髄疾患, 末梢神経絞扼障害における診断・治療においては, 脳神経内科ならびに放射線科との強い協力体制が不可欠であり, これらの科の知識もできる範囲身に着けられるよう心掛ける必要がある。
脊椎脊髄疾患においては, 脳神経外科と整形外科で教育および治療がなされているが, それぞれの特性を理解し, 相互に学ぶことが今後さらに求められる。お互いの良いところを吸収できるように心掛ける必要がある。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	原 政人	月・水	15:30~18:00	C棟7階教授室	内線 80068
		金	9:00~12:00		

整 形 外 科 学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 高橋 伸典
【科目担当者】 准教授（特任） 池本 竜則

2 教育目標

(1) ねらい

学生が、整形外科の領域で指導的な役割を果たすべく、高度な専門知識・技能を含む豊かな学識を備え、また医師としてだけでなく、自立した科学者として研究活動をおこなうための資質・能力を修得し、論文作成を通して自らの研究を証明する事の大切さを理解する事である。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、専門分野の基礎知識と、それを説明することが出来る。
- ② 学生は、積極的に他者とかがわり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めることが出来る。
- ③ 学生は、専門分野の情報収集と分析を行う事ができる。

3 授業内容

【講義】	小児整形外科学, 外傷外科学, 成人整形外科学における病態生理, 治療法について講義する。
【演習】	一般整形外科学, 外傷外科学, 関節外科学, 関節リウマチ, バイオメカニクス, 生体材料, などについての新しい内外文献の紹介, それらについての討論, 更には実験結果の紹介, 討論を行う。
【実験研究】	外来並びに入院患者について, その診断法及び術前術後の処置の指導, 並びに手術の実地指導を行う。また, 一般整形外科学, 外傷整形外科学, 関節外科学, 悪性腫瘍の外科的療法に対する病態生理学的研究, 並びにそれらにおける外科的治療法及びバイオメカニクス, 再生医療, 生体材料からみた新しい治療法の開発について実験的研究を行わせる。

4 成績評価の方法・基準

実習態度, 文献検索能力, 論文作成能力を試験, 課題レポートなどで総合判定する。

5 教科書・参考図書

参考図書

書名	著者名	出版社	出版年
標準整形外科学	内田淳正 監修	医学書院	2017年 13版
TEXT 整形外科学	糸満盛憲, 佐藤啓二他編	南江堂	2012年 4版

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・発表活動を通して, 必要とされるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を修得し, 研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・整形外科領域に関する論文作成を通して, 関節に関する分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力を身に付けることが出来る
- ・本講義の学修を通して, 社会の諸問題を理解し, 整形外科の分野の研究に精通することで, 国際的視野に立つ研究を遂行できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。
- ・講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。
- ・レポートの内容について, 個別に指導する。

9 履修上の留意点

問題点の把握, 文献検索を通じた問題点の適正化, 問題点を解明する為の方法論, 具体的アプローチ等, 研究者として必要な組み立て方を勉強することを第一とする。結果的に優れた業績が出なくても, 大学院教育の目的は達成されていると判断する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	高橋伸典	水	14:00-17:00	整形外科医局または教授室	内線 22125
		木	14:00-17:00		
准教授(特任)	池本竜則	月	17:00-17:30	C棟9階 整形外科医局	内線 22125

皮 膚 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 渡 邊 大 輔

【科目担当者】 教授（特任） 大 嶋 雄一郎

2 教育目標

(1) ねらい

皮膚科学の自らの研究課題について、科学的に思考し、実践し、系統的にまとめ、理解できる。

(2) 学修の到達目標

- ① 自らの研究科課題を理解し、現在の問題点を抽出できる。
- ② 研究課題についての討論に参加し他者からの指摘を受け入れることができる。
- ③ 自らの研究課題についての最新の情報を検索し、必要な実験を自ら行うことができる。
- ④ 実験の結果につき、正確に分析し、次の課題をみいだすことができる。

3 授業内容

【講義】	課題とする疾患や現象について、その最近の知見、問題点と展望を解説する。
【演習】	自らの課題における最新の文献の抄読や、実験につき研究検討を行う。
【実験研究】	自らの課題における生理学的、生化学的、免疫学的検索の実験、実習を行う。

4 成績評価の方法・基準

指導教員との検討会で、課題についての知識の確認をする。

指導教員に実験、研究計画を提出し、評価する。

実験の進捗状況につき、指導教員と随時討論する。

論文作成の進捗状況につき、指導教員が随時確認する。

5 教科書・参考図書

適宜指示する

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

自らの課題に関する論文作成を通して, 皮膚科学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を習得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足や誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

皮膚科学, 自然科学に広く興味を持ち, 積極的に講義, 実習に参加する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡邊大輔	水	17:00以降	C棟10階医局	内線22161
教授(特任)	大嶋雄一郎	水	15:00~16:00	C棟10階医局	内線22161

泌 尿 器 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 佐々直人

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、泌尿器科領域の代表的疾患(尿路性器腫瘍、尿路性器感染症、排尿障害、尿路結石症など)の病態生理を正しく理解し、正確な診断を行うために必要な情報の収集および得られた情報を的確に分析、評価し、それに基づいて適切な治療法を選択することができる能力を函養する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、尿路性器腫瘍の病理学的・分子生物学的特徴を理解し、診療計画を立案できる。
- ② 学生は、尿路感染症の診断手順を理解し、その診断を行い、治療計画を立案できる。
- ③ 学生は、排尿障害の機序を理解し、その機序克服を念頭に置いた診療計画を立案できる。
- ④ 学生は、尿路結石症の診断手順を理解し、その診断を行い、治療計画を立案できる。

3 授業内容

【講義】	泌尿器科領域における代表的疾患の最近の諸問題について講述する。
【演習】	泌尿器科学の新しい問題に関する文献の抄読および輪読更に興味ある症例の検討を行う。
【実験研究】	尿路悪性腫瘍、尿路感染症、排尿障害、尿路結石症に対する病態、新しい診断法、治療法の開発について基礎的および臨床的研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

授業で取り扱った泌尿器科領域の代表的疾患毎に症例を呈示し、諸課題についてレポートにまとめ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行うことにより授業内容の習得状況を評価する。

5 教科書・参考図書

Campbell Walsh Wein Urology, 12th Edition 3-Volume Set Editors : Alan W. Partin & Roger R. Dmochowski & Louis R. Kavoussi & Craig A. Peters & Alan J. Wein.
Elsevier; 2021.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

個々の講義題目に最低限必要な予習・復習を記載するが, 各種疾患などのガイドラインを熟読し, 引用されている文献を収集し, 読破することが求められる。

講義 15 時間(予習・復習 30 時間想定)

実験研究 30 時間(予習・復習 15 時間想定)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・ 毎回の発表活動を通して, 専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し, 研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・ 原則的に尿路悪性腫瘍, 尿路感染症に対する病態, 新しい診断法, 治療法の開発について基礎的および臨床的研究を行い, 論文作成を通して, 泌尿器科学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ・ 本講義の学修を通して, 社会の諸問題を理解し, 泌尿器科学分野の研究に精通することで, 国際的視野に立った研究を遂行できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

各試験, レポートの成果, 問題点を明示し, それらの問題をテーマにさらに討論を行うことで, さらなる改善案を提出してもらおうシステムを構築し, 実行する。

9 履修上の留意点

講義については, 実際の臨床症例を呈示し, 疾患の病態, 診断, 治療について学ぶ。実験研究においては, 主に尿路悪性腫瘍, 尿路感染症の病態, 新しい診断法, 治療法の開発について基礎的, 臨床的研究を行う。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	佐々直人	水	15:00~17:00	C棟7階教授室 D棟5階医局	内線 22145

産 婦 人 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 渡 辺 員 支

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・ 学生は、この授業を履修することにより産科・婦人科学における臨床上的の問題点を基礎的に理解し、再度臨床にフィードバックできる能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ・ 知識: 学生は、授業を通して、産婦人科疾患の予防や治療法のなかでも、胎児脳障害の機序や妊娠高血圧症候群の予防、より副作用のすくないホルモン補充療法など、現在の解決が不十分な問題点を指摘できる。
- ・ 態度: 学生は、臨床での検討に参加でき、問題点を列挙・提示できる。また臨床研究の場合、患者の協力やコメディカルの協力にも配慮できる。
- ・ 技能: 学生は、サンプルの収集から管理・測定・統計計算まで出来る。また血管拡張反応や自律神経測定などの生理学的検査や、EIA法などの測定などは自身でできるようにする。

3 授業内容

【 講 義 】	産科婦人科領域における各種疾患群の病態・症候・病態生理・診断・治療についての講義を行う。特に最近の知見の進歩・問題点について講義する。
【 演 習 】	産科婦人科領域における欧文論文の抄読・症例の検討・特に臨床診断学を中心に実習する。
【 実験研究 】	1, 周産期医学(妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態や発症機序・胎児脳障害の発症機序や予防) 2, 腫瘍学(婦人科悪性腫瘍の転移機序, 婦人科悪性腫瘍の適切な化学療法を選択, 婦人科悪性腫瘍に対する副作用) 3, 女性医学・生殖内分泌学(閉経後女性のホルモン動態と生活習慣病発症機序や予防・治療薬の選択, 子宮内膜症患者の心血管系疾患リスクと治療薬の選択, 骨粗鬆症と栄養補助食品) 4, 感染症(不妊症患者とクラミジア感染症)

4 成績評価の方法・基準

- ・ 与えられたテーマの背景について十分熟知し、研究の基本的技能を習得した上で研究が進行しているか否か、さらには研究成果をいかに考察し、論文に展開できるかを評価する。数ヶ月に一度、症例や検体数の集積状況を提出させて確認し、到達目標に対しどの程度達成されたかを評価する。
- ・ 評価方法については、研究グループでの検討会や研究会などへのプレゼンを含め、定期的に成果をまとめる機会を設ける。

5 教科書・参考図書

Williams Obstetrics, 24th ed.

F.G.Cunningham, K.J.Leveno, S.L.Bloom, et al. MCGRAW -HILL COMPANIES, 2014

Te Linde's Operative Gynecology, 11th ed.

H.W.Jones,III & J.A.Rock (eds.) LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS, 2015

また、必要に応じてプリント配付や、適宜最新の文献を指示する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1週間におよそ7時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ① 当該授業科目での日々の研究活動を通じて、専門的職業人に必要な企画力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を履行できる。
- ② 当該授業科目での課程修了に関して、産婦人科に関する論文作成を行い、研究分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ③ 当該授業科目の学位取得後は、産婦人科分野の研究に精通することのみならず、医学に対する探究心と、医師としての謙虚さをかねそなえた研究者となり、ひいては国際的視野に立った研究を遂行できるよう尽力する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・レポートは、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求める。
- ・講義、実習中に疑問点がある場合は、オフィスアワーなどを用い適宜質問に応じ、解説を行う。
- ・レポートの内容について、個別に指導する。

9 履修上の留意点

授業を履修するにあたっては、個人の能力に応じて履修速度に留意する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡辺員支	水	13:30~15:00	D棟4階医局	内線 22153

産婦人科学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 大須賀 智子
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・学生は、産婦人科における疾患の病態についての考察力を高める。
- ・学生は、女性の生理学的な特徴について理解する。
- ・学生は、産婦人科の臨床上的の問題点を、臨床研究や基礎研究の「問い」へ変換し解決する方法を知る。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、女性のホルモン分泌に関する制御機構について説明できる。
- ② 学生は、加齢に伴う女性の身体的な変化と疾患とのかかわりについて説明できる。
- ③ 学生は、自身の学習内容や、研究成果について、適切なアプリケーションの操作により表現できる。
- ④ 学生は、クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへの変換が実施できる。
- ⑤ 学生は、遺伝子発現や濃度測定に必要な機器の操作の他、必要時適切な AI の活用ができる。

3 授業内容

【講義】	女性のホルモン分泌や生理学的な特徴と女性特有の疾患(筋腫や内膜症などの良性疾患、月経異常、女性のがん、更年期障害他)とのかかわりについて講義を行う。現代の医療で解決できていない問題について討論し課題の抽出を行う。
【演習】	上記課題を解決し発信するための方法を習得する。具体的には、論文検索、PICO/PECO や仮説の立て方、必要なデータの収集方法、データの解析方法、図表の作成、学会発表のためのスライド作成や論文執筆の手順を演習する。
【実験研究】	臨床研究では、収集データや公開レジストリデータを用い、データ整理や適切なソフトウェアによる統計解析、作図、結果の解釈を行う。基礎実験では、モデル動物の作成や表現型の解析法について、細胞株を用いた添加実験ならびに発現解析等により、病態の再現と解析についての手法や考え方を学ぶ。

4 成績評価の方法・基準

- ・講義をもとに、女性特有の疾患の治療における課題を抽出し、指導教員とのディスカッションの後プレゼンテーションを実施し評価する。
- ・演習で習得した技術を活用して解決する課題を与える。課題をレポートとして提出し、習得度を測る。
- ・自身で抽出した研究課題について、演習で得た知識や技術を用いた研究計画を立案し、計画書をレポートとして提出し、実行可能性について評価を行う。

5 教科書・参考図書

- ・今日から使える医療統計 第2版, 新谷歩, 医学書院, (2024)
- ・Molecular Cloning: A Laboratory Manual, Fourth Edition, Michael R. Green 他, Cold Spring Harbor Laboratory Press,U.S. (2012)
- ・みえる！わかる！女性内分泌, 岩瀬 明他, メジカルビュー社 (2022)
- ・他、適宜プリント配布や論文提示を行う

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

テキストや事前学習資料などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

女性特有の疾患に関する研究・論文作成を通して、女性内分泌、生殖生理学分野における高度な専門知識と論理的思考を伴う。研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中やオフィスアワーに疑問点の解説, レポート内容の評価、研究方法や進捗、成果プレゼンテーションについてのフィードバックを行う。

9 履修上の留意点

疑問点については、随時担当教員に相談すること。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	大須賀 智子	火	15:00~18:00	C棟7階 教授室	内線 22153 (産婦人科 医局)
		木	17:00~18:00		

眼 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 瓶井資弘

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、高度な眼科臨床研究力と眼・視覚基礎研究力を会得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、臨床研究をデザインできる。
- ② 学生は、臨床報告をまとめて発表できる。
- ③ 学生は、生化学、分子生物学、細胞生物学の実験を行うことができる。
- ④ 学生は、実験結果をまとめて論文を作成することができる。

3 授業内容

【講義】	眼科学における最近の進歩並びにその問題点と将来への展望などについて講述する。
【演習】	眼科学における新しい診断法、検査法、手術法や視覚生理学、眼組織超微形態学、眼病理組織学について内外の文献抄読、紹介を行う。
【実験研究】	眼病態生理学、眼病理学、眼生化学・分子生物学の研究などの実習を行う。

4 成績評価の方法・基準

到達目標の達成は論文(英文)より評価する。
評価方法は課題レポート、授業での発表で評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定はない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストなどに目を通しておく。(1週間に7-8時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

眼科学に関する論文作成を通して、眼科学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

与えられた課題に対するレポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	瓶井資弘	月水	16:00～17:00	C棟 11階医局	内線 22181

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 藤本保志
【科目担当者】 教授(特任) 小川徹也

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域において、それぞれの構造、機能、病態について先端的な研究を行うことを通じてリサーチマインドを養い、将来の研究の基礎学力と臨床能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は耳鼻咽喉科頭頸部外科領域において、その構造と機能を説明できる。
- ② 学生は耳鼻咽喉科頭頸部外科領域において、標準治療の意義と臨床上の問題点を理解できる。
- ③ 学生は耳鼻咽喉科頭頸部外科領域において、新知見を表現し、公表する能力を得る。

3 授業内容

【講義】	頭頸部癌概論，嚥下障害学（評価法・訓練法），臨床耳科学について，臨床上必要とされるが未解明なことは何かを考察する。同時に倫理的手続きについても講義する。
【演習】	嚥下機能評価法実習，頭頸部シミュレーション手術，疫学的手法，分子生物学的研究を中心に研究計画作成や研究結果の実証方法について学ぶ。
【実験研究】	嚥下筋に対するサルコペニアの影響，頭頸部癌の分子生物学，耳科の臨床疫学などから選択した分野において，独創的な新規研究を行い，その成果を国内外に発信する。

4 成績評価の方法・基準

- ① 各授業内容後のレポート提出および面接・口頭試問による評価
 - ② 投稿論文による評価
- 上記2つを合わせて評価する。

5 教科書・参考図書

頭頸部癌診療ガイドライン2022年版 金原出版，2022
疾患別に診る嚥下障害 藤島一郎監修 医歯薬出版 2020
Pathology of the ear. Harold F. Schuknecht. Lea & Febiger Philadelphia 1993

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に参考図書, 論文などに目を通しておく。(1週間に5時間程度の予習・復習が望ましい)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

耳鼻咽喉科に関する論文作成を通して, 耳鼻咽喉科分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力があることを確認し, 学位授与方針とする。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。
面接・口頭試問時に, 適切な解答をフィードバックする。
投稿論文を審査し, 適切な方向性を明確にする。

9 履修上の留意点

決められたカリキュラムの実行を怠らないこと。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	藤本保志	月	16:00~18:00	C棟8階教授室	内線 22283
		水	19:00~20:00		
		金	16:00~18:00		
教授(特任)	小川徹也	火	16:00~16:30	C棟 11 階医局	内線 22173

放射線医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 鈴木 耕次郎

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、画像診断によって得た情報を解析して各種疾患の病態を理解し、病期に応じた適切な治療方法をエビデンスに基づいて選択できるよう、放射線診断、核医学を含めた画像診断技術の基礎と臨床、放射線治療と Interventional Radiology を含めた治療技術について学ぶ。

(2) 学修の到達目標

- ① 診断用画像データから疾患の病態を解析できる。
知識:異常所見を解析し説明できる。
態度:各種カンファレンス,学会に参加できる。
技能:画像処理ワークステーションを操作できる。
- ② 悪性腫瘍の放射線治療を計画・実施できる。
知識:臨床・画像データを解析し,病期を決定できる。治療経過・副作用の記録を解析し,放射線治療を理解できる。
態度:カンファレンスに出席し治療計画を説明し議論できる。
技能:放射線治療計画装置を操作できる。
- ③ 血管系と非血管系の Interventional Radiology を実践できる。
知識:治療法に関するエビデンスを説明できる。
態度:患者の状況に配慮した治療法を選択できる。
技能:血管撮影装置,治療用器具を操作できる。

3 授業内容

【講義】	放射線医学の4分野(放射線診断学,核医学,放射線治療学, Interventional Radiology)における最近の進歩,将来展望などについて講述する。
【演習】	放射線医学および関連の領域における最新の研究について,内外の文献の講読と討論を行う。
【実験研究】	ワークステーションを用いた3次元画像の構築, Interventional Radiology の手法を用いた低侵襲治療の開発と臨床応用,放射線治療の精度向上,医療被曝の評価と防護などについて実習,実験,研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

選択した課題に関する討議,口演発表,レポート,論文作成などを行い,それらの成果を評価する。

5 教科書・参考図書

海外の成書，論文を中心に適宜指示する。

6 準備学習(予習，復習等)及び必要な時間

事前にテキスト，文献の事例などに目を通しておく。1週間に7時間程度の予習，復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

課題に関する論文作成を通して，放射線医学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力，特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

試験結果，レポート等は，評価後に返却されるが，内容に不足，誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

近年の画像診断，放射線治療，Interventional Radiology の分野における技術進歩は急速で，新技術に関する膨大な情報が得られる。これらの新技術を理解した上，当該疾患および個人の速やかな健康回復にいかに関与できるかを常に考える必要がある。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	鈴木 耕次郎	月水金	15:00～17:00	放射線医学講座医局	内線 22833

麻 醉 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 天 野 哲 也 (代理)

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、手術・麻酔が生体の生理機能に大きな負の影響を与え、それが手術患者の短期・長期にわたる合併症発生の原因となることと、その影響を薬理的・生理学的に制御することが安全で質の高い周術期医療の実現につながることを理解し、関連分野の研究プロジェクトを独立で立案・遂行できる能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 各種麻酔薬・麻酔補助薬の細胞傷害作用とその機序を説明できる。
- ② 手術・麻酔に伴う視床下部－下垂体－副腎系の活性化が手術予後に与える影響とその機序を説明できる。
- ③ 手術に伴う侵害刺激が術後遷延痛に与える影響とその機序を説明できる。
- ④ 自律的・積極的に上記テーマに沿って研究計画を立案し実施できる。
- ⑤ 培養細胞を用いて、各種麻酔薬・麻酔補助薬によるアポトーシス、活性酸素の発生、ミトコンドリア膜電位の変化を測定できる。
- ⑥ ラットを用いた腹膜炎敗血症モデルを作成し、生存時間、各臓器障害の顕微鏡的評価、免疫染色を実施できる。

3 授業内容

【講義】	以下に関する講義を行う。 各種麻酔薬・麻酔補助薬の細胞傷害作用とその機序 手術・麻酔に伴う視床下部－下垂体－副腎系の活性化が手術予後に与える影響とその機序 手術に伴う侵害刺激が術後遷延痛に与える影響とその機序
【演習】	以下に関するプレゼンテーションと質疑応答を行う。 各種麻酔薬・麻酔補助薬の細胞傷害作用とその機序 手術・麻酔に伴う視床下部－下垂体－副腎系の活性化が手術予後に与える影響とその機序 手術に伴う侵害刺激が術後遷延痛に与える影響とその機序
【実験研究】	培養細胞を用いて、アポトーシス、活性酸素の発生、ミトコンドリア膜電位の変化を測定し、各種麻酔薬の細胞傷害作用ならびにそれを修飾する因子を探索する。 ラットを用いた腹膜炎敗血症モデルを作成し、生存時間、各臓器障害の顕微鏡的評価、免疫染色を実施し、麻酔薬・自律神経活動を修飾する薬剤の影響を調べる。

4 成績評価の方法・基準

- 実験に関するプレゼンテーション
- 課題レポート
- 口頭試問

によって総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

Miller's Anesthesia (ELSEVIER, Ronald Miller et al, 2014)

Textbook of Critical Care (ELSEVIER, J.L Vincent et al, 2016)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

概ね一週間に7時間の準備学習が望まれる。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

手術・麻酔が生体に及ぼす影響について高度で専門的な知識を論理的思考能力を獲得し、周術期管理の専門家として、指導的役割を果たすことができる。

研究活動、プレゼンテーション、論文作成を通じて、自律的に周術期医療に関する問題点を発見し、それを解決する研究を遂行できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

プレゼンテーション、課題レポート、口頭試問の内容については個別に指導する。

9 履修上の留意点

臨床と結びついた課題を見だし、将来の発展に結びつけるような知識、技術、研究法を身につけるように努力をする。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先

総 合 医 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 前 川 正 人
【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

本科目では、プライマリケアセンターでの総合外来ならびに総合診療科入院患者から得られた臨床データや患者情報の調査を通して、大学病院における総合診療に関わる臨床研究を行う。診断確率・効率の向上を目的として、様々な症候や病態の臨床研究を行う。特に、発熱性疾患の診断プロセスと病態、失神の病態と診断について学修する。また、患者情報の分析を行い大学病院における総合診療の役割や地域医療との関係について学修する。

(2) 学修の到達目標

- ① 総合診療、プライマリケアの本質を理解し説明できる。
- ② 臨床データ、患者情報の収集と分析ができる。
- ③ 発熱性疾患の原因と病態を理解し鑑別診断ができる。
- ④ 神経調節性失神の診断と病態について理解し説明できる。
- ⑤ 日本の総合診療の実態と大学病院における総合診療の役割を理解し説明できる。

3 授業内容

【 講 義 】	発熱性疾患の診断プロセスと病態、神経調節性失神の診断と病態について概要を講義する。また、本学における総合診療の実態について解説する。
【 演 習 】	研究テーマとなる症候、病態に関する患者情報、臨床データの収集と分析を行い、関連する最新の文献の抄読と討論を行う。
【 実験研究 】	講義、演習によって構築された研究計画を遂行し、診断確率を向上させるための新たな診断法や診断プロセスを開発する。

4 成績評価の方法・基準

講義、演習の理解度を確認するための口頭試問、学会での発表、論文作成により総合的に評価を行う。

5 教科書・参考図書

特に指定なし。関連する論文や文献を使用する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に関連する図書, 文献, 論文を読むこと。
週 7 時間程度は準備学修を行うことが望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

総合医学に関連する論文作成を通して, 総合診療, プライマリケアの本質を理解し, 病態の解明や診断確率を向上させるための豊富な知識と理論的な思考を修得し実践できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

オフィスアワーを利用して課題に対するフィードバックを行う。
講義, 演習中に疑問点についての解説を行う。

9 履修上の留意点

臨床研究が主体となるため, 患者の社会的・心理的背景にも十分な注意を払い良好な医師患者関係が損なわれないように留意すること。
研究者として向上心を持って学修すること。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	前川正人	月	16:00~17:00	D棟2階医局	内線 23470
		水	15:00~16:00		

形 成 外 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 古 川 洋 志

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・形成外科の最先端の医療を知る。
- ・創傷治癒のメカニズム, リンパ浮腫の病態解明に関する研究方法を体得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 母斑・血管腫・血管奇形の標準的な疾患分類を説明できる。
- ② 微小血管吻合を用いた高難度手術に参加できる。
- ③ リンパ浮腫の病態解明をめざした分子医化学的実験を実施できる。

3 授業内容

【 講 義 】	母斑・血管腫・血管奇形の最新の疾患概念と最新のレーザー治療
【 演 習 】	悪性腫瘍切除後の再建外科手術に参加し, 手技に習熟する。周術期の管理方法を体得する。
【 実験研究 】	他講座と共同実験で, リンパ節移植術の開発に携わる。

4 成績評価の方法・基準

レポート(手術の場合は手術記録)の提出を求める。レポートに基づき口頭試問を実施する。

5 教科書・参考図書

形成外科治療手技全書(全7冊完) (克誠堂出版 2017)

Color Atlas of Vascular Tumors and Vascular Malformations (Cambridge University Press 2007)

その他, 適宜指示する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

創傷治癒, 組織移植等に関する論文作成を通して, 形成外科学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力を身につける。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポート・手術記録について口頭試問を実施して評価する。内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	古川 洋志	木	11:00~12:00	C棟8階教授室	内線 22236

救急集中治療医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 渡邊 栄三

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、救命救急、災害、集中治療、病院前医療に関する幅広い臨床知識・技術を有し、救急集中治療の現場で臨機応変に対応できるような知識と技能を習得する。侵襲に対する生体反応を的確に観察しその反応を適切な方向に向かわせる能力を身に着ける。単なる対症療法にとどまらない細胞・分子レベルに踏み込んだ救命救急療法救急集中治療を研究する。臨床実習にとどまらず基礎的な分析、細胞培養、遺伝子解析等の技術も習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 初療室、病院前医療で救命救急の初療が理解・実施できる。
- ② 救命救急、災害、集中治療、病院前医療が説明できる。
- ③ 侵襲に対する生体反応を説明できる。
- ④ 基礎的手法により新規救命救急療法の開発ができる。
- ⑤ 救命救急、災害、集中治療、病院前医療の現場で傷病者および医療スタッフに配慮できる。

3 授業内容

【講義】	救急診療でしばしば遭遇する、多発外傷、熱傷、敗血症等の侵襲下における生体反応を生理的反応、病的反応に分類し、各々の病態を細胞レベルで解説する。かかる病態を明らかにすることにより、対症療法ではなく、本質に迫った治療法、管理法を確立する基礎となりうる事を解説する。
【演習】	疑問点を明らかにするため関連論文の検索、抄読を繰り返す。その過程で研究テーマを絞りこむと共に研究方法を具体化する。
【実験研究】	重症患者の、搬送から初療、集中治療室管理、外科的内科的処置、および回復期管理まで一貫して行う事を習得する。その際、経験し、疑問に感じた点を研究テーマに選び、分子生物学的手法を用いて解明する測定手技、方法論、統計法、論文検索法、発表法などを習得する。

4 成績評価の方法・基準

講義、演習、研究実習への参加状況および研究内容に基づいて総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

標準救急医学 監修:日本救急医学会 出版社:医学書院 出版年:2014年

外傷初期診療ガイドライン 監修:日本外傷学会, 日本救急医学会 出版社:へるす出版 出版年:2021年

Textbook of Critical Care, Edt., Jean-Louis Vincent et al, 2016

Critical Care Medicine, Principles of Diagnosis and Management in Adults. Fifth Edition. Edt., Joseph E. Parrillo, R. Phillip Dellinger, et al.2019

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

侵襲学, 外傷基本手技, 輸液法, 代謝管理の基本的事項は学習済みである事。1週間に 7 時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

救命救急, 集中治療に関する論文作成を通して, 侵襲学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡邊 栄三	月・水・金	15:00-17:00	救急・災害管理棟 3階部長室	内線 77670 (医局秘書)

リハビリテーション医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 尾川 貴洋

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、疾病や外傷で低下した身体的・精神的機能を回復させ、障害を克服するという従来解釈の上に立ち、ヒトの営みの基本である「活動」に着目し、その賦活化を図る過程をリハビリテーション医学・医療の中心に据える考え方を知るとともに、独創性があり臨床に役立つ研究の展開と先進的な研究を理解する。

(2) 学修の到達目標

- ① 知識： 学生はリハビリテーション医学・医療について知識を深め応用できる。
- ② 態度： 学生は当事者や多職種とコミュニケーションをとりチーム医療に参加できる。
- ③ 技能： 学生は仮説を立て研究計画を立案し遂行することができる。
- ④ 態度： 学生は研究結果をリハビリテーション診療に還元することができる。

3 授業内容

【講義】	リハビリテーション医学・医療概論，リハビリテーション診断，リハビリテーション治療，リハビリテーション支援について講義する。
【演習】	リハビリテーション医学・医療の問題点の抽出と研究計画を構築する。 また，研究計画遂行のために必要な知識と実験技術を習得する。
【実験研究】	運動療法の臨床的・基礎的研究，物理療法の臨床的・基礎的研究，日常生活における活動に関する研究，義肢装具に関する研究，内部障害に関する研究，高次脳機能障害に関する研究，摂食・嚥下機能に関する研究，構音に関する研究，コミュニケーション障害に関する研究，急性期・回復期・生活期におけるリハビリテーション診療の研究，在宅復帰や社会支援に関する研究，栄養管理に関する研究，患者心理に関する研究，スポーツに関する研究，チーム医療に関する研究等について研究を遂行する。

4 成績評価の方法・基準

論文，実習態度，課題レポート，ディスカッション内容，定期的なミーティングを通じて総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

当該学術論文に加えて，日本リハビリテーション医学教育推進機構出版図書等適宜指示していく。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

自らの研究に関連する研究文献や参考図書を通読し, 1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

リハビリテーション医学・医療に関する論文作成を通して, リハビリテーション医学・医療分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

定期的なミーティングにおいて, 直接指導やコメントを通してフィードバックする。

9 履修上の留意点

健常者だけでなく障害者を研究対象とすることがあるため, 研究者としての向上心だけでなく配慮のできる人間性が必要である。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	尾川 貴洋	火	12:00~13:00	C棟10階	内線 22240
		水	12:00~13:00	リハビリテーション医学講座 医局	

臨床感染症学

1 担当教員名

【研究指導教授】	教授	三 嶋 廣 繁
【科目担当者】	准教授	浅 井 信 博

2 教育目標

(1) ねらい

感染症は、宿主、微生物、薬物の3つの側面から病態を捉えなければならない。微生物学的見地から、感染症の原因となる細菌、ウイルス、真菌、寄生虫を対象とした病原性発現メカニズムの解析をはじめとする基礎的ならびに臨床的研究を行う。宿主見地から、感染免疫学を軸とした基礎的ならびに臨床的な研究を行う。さらに、薬物見地から、薬物動態学・薬力学を含む感染症治療に関する薬物治療について、基礎的および臨床的な研究を行う。学生は、本研究室が、微生物学的には嫌気性菌およびカンジダ属に関して、薬物治療学的には薬物動態学・薬力学に関して、国際的に評価を受けていることを活かした研究を遂行するのが望ましい。大学院教育を通じて、感染症学および感染制御学に関する幅広い知識、基本的技術の習得を行い、医学研究の社会的意義を理解した将来の指導者を育成することを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 主要な感染症の現状を把握し的確な診断、治療、感染制御を修得できる。
- ② 国内外における医療関連感染の現状を理解するとともに、医療関連感染原因菌の診断とそれらによる感染症の治療・予防等の理解を深めることができる。
- ③ 専門分野の情報収集力と分析力を高めることができる。
- ④ 研究手法を修得し、研究計画を立案できる。
- ⑤ 立案した研究計画にそって研究を実施し一定の成果を目指す。
- ⑥ 問題解決能力および情報発信力を高めることができる。
- ⑦ 研究成果を原著論文として発表する。高い問題解決能力と研究遂行力を備えることができる。

3 授業内容

【講義】	感染症の診断および治療、感染制御に必要とされる感染症診断学、感染症治療学、薬物動態学・薬力学、臨床微生物学、臨床感染免疫学、感染制御学の基礎知識および新しい知見について講義する。また、感染免疫の見地から感染症治療に対する東洋医学(漢方医学)の応用についても講義する。
【演習】	実際に得られた基礎データおよび臨床データを基に、関連する研究論文を抄読し、問題点の抽出、研究テーマの立案、研究の進め方について考える。
【実験研究】	感染症の病態解析、新規診断法、新規治療法、予防法など感染症全般にわたって、基礎的および臨床的研究に取り組む。常に、研究成果の臨床現場への還元を目指し、宿主・微生物・薬物の3者の密接な関係に立脚した感染症診療・感染制御に関する研究を実施する。

4 成績評価の方法・基準

選択した課題に対する討論、発表、レポート、論文、実験に対する姿勢、臨床的感染症診断・治療能力、臨床的感染制御能力などを総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

- Harrison's Principles of Internal Medicine
- Clinical Infectious Diseases, Journal of Infectious Diseases, Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Journal of Antimicrobial Chemotherapy, Infection and Immunity, Emerging Infectious Diseases, New England Journal of Medicine, Lancet Infectious Diseases, Infection Control and Hospital Epidemiology, American Journal of Infection Control などから最新の文献を適宜指示する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

準備学習としては、指示した最新の英語論文を読んで疑問点をまとめておく。講義・演習後は、既読の論文に関連した文献を検索し、課題抽出能力および研究計画立案能力を高める。
1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

規定の単位を取得する。
英語原著論文が1編以上掲載される。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。
講義、実習中に疑問点の解説、レポート内容については、個別に指導する。

9 履修上の留意点

感染症の診断・治療を主目的とする感染症学と感染症の発症と伝播を予防する感染制御学は車の両輪をなすものであることを理解する。基礎医学から臨床医学へ、臨床医学から基礎医学へというトランスレーショナルリサーチが臨床感染症学・感染制御学においては特に重要であることを理解する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	三 鴨 廣 繁	月火	8:00~8:30	C棟8階教授室	内線 22353
		火	17:30~18:00		
准教授	浅 井 信 博	月~水	10:00~15:00	中央棟2階感染管理室	内線 34253
		木	13:00~15:00		

病 理 診 断 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 都 築 豊 徳

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は外科病理学の基本的概念及び臨床との関係を学ぶ。具体的には、学生は色々な病気の病理学的な見方、チーム医療における病理診断科の果たす役割を体験し、習得する。学生は分子生物学の基本的概念を理解するとともに、実際にその運用を行う。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は HE 及び Papanicolaou 染色標本による基本的な診断に必要な知識を知る。
- ② 学生は HE 及び Papanicolaou 染色標本から基本的疾患を診断が実施できる。
- ③ 学生は免疫組織化学及び分子生物学の基本概念を知るとともに、その解釈結果を発表できる。
- ④ 学生は自らデータを解析し、正確な解釈を行うことができる。
- ⑤ 学生は自ら研究計画を立案し、その内容を発表できる。

3 授業内容

【 講 義 】	外科病理学の診断アルゴリズムを示し、学生がその内容を習得する。学生は参考図書を参照しつつ、診断方法の理解を深める。
【 演 習 】	学生は実際に標本を検鏡し、病理診断を行う。学生が実際に分子生物学的な手技を用いて、自らその結果を解釈する。
【 実験研究 】	学生が希望する症例を実際に集め、自ら HE 標本の診断、免疫組織化学及び分子生物学的検討を行い、その結果を自らが学会及び医学誌に発表する。

4 成績評価の方法・基準

- ・病理専門医試験に出題された症例と同レベルの診断が可能か評価基準とする。
- ・学生が自ら FISH を行い、正確な判定が行えることを評価基準とする。
- ・集積されたデータを学生が自ら解析し、学会などで発表する事を評価基準とする。

5 教科書・参考図書

Rosai and Ackerman's Surgical Pathology 11th ed, John R. Goldblum, Laura W. Lamps, Jesse McKenney, Jeffrey L Myers, Elsevier, 2017

Diagnostic Histopathology of Tumors 5th ed, Christopher D. M. Fletcher, Elsevier, 2019

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

- ・実験前に3時間程度の基本知識の予習を行う。
- ・標本検鏡後には, 3時間程度の復習を行う。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・大学院2年目までには, 研究成果を複数の国内学会に発表を行う。
- ・大学院2年目までには, 研究成果を邦文による学術誌への投稿を行う。
- ・大学院3年目までには, 研究成果を国際学会に発表を行う。
- ・大学院3年目までには, 研究成果を英文誌への投稿を行う。
- ・大学院4年目までには, 研究成果が英文誌に受理される。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・学生は実施された研究はすべてレポート形式での報告を行う。
- ・不明な点は随時質問することが望まれる。
- ・内容によっては, 再提出が要求されることがある。

9 履修上の留意点

特にない

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	都築豊徳	火木金	15:00~17:00	病理診断センター内部長室	内線 37410

統合疼痛医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 牛田 享 宏
【科目担当者】 教授(特任) 西原 真理

2 教育目標

(1) ねらい

近年、疼痛の発生・維持メカニズムは多岐にわたっており研究は進んできているものの、慢性化した疼痛を治癒させることは困難であるため、治療に苦慮している。そこで、学生はこの臨床上の問題点を基礎的、臨床的に克服し、多角的に疼痛患者の苦しみや負担を軽減することを目的とした研究を行い、慢性疼痛治療に反映させていくことを目標とする。また、将来の痛み治療におけるエキスパートとして、痛み研究・診療の中心となるような指導者に成長していくことを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 疼痛の発症とその維持メカニズムを理解できる。
- ② 様々な分野の疼痛関連の研究を通して、自身の専門分野にかかわる痛みの病態を説明できる。
- ③ 臨床、基礎に偏らない痛みに関する知識を理解できる。
- ④ 自身の研究発表を積極的に行い、様々な意見に触れることで、自らの研究プロジェクトを立案遂行できる。
- ⑤ 実際の疼痛患者の診療技術についても学び、実践する方法を理解する。

3 授業内容

【講義】	解剖学, 生理学, 薬理学, 病態生理, 治療法などの, 様々な痛みに関連した分野
【演習】	痛みの発生メカニズムにおける最新の論文(主に英語)の抄読および討論。 自身の研究の進捗及び結果の発表および討論。 実診療をカンファレンスなどを通して学び, 将来的に実践したり指導できる様になる。
【実験研究】	モデル動物を使用した疼痛の発生機序と治療法の確立 デジタルヘルスサイエンスを用いた疼痛の病態評価に関する研究 電気生理学的な疼痛伝達系の解明と治療への応用の研究

4 成績評価の方法・基準

研究テーマのみならず、自身で興味を持った分野の背景に熟知し、基本的な研究手技を取得し研究が進行しているかを評価する。さらに、研究結果を分析考察し、論文作成できるかを評価する。

5 教科書・参考図書

- ・疼痛医学, 田口敏彦, 他, 医学書院, 2020
- ・Wall & Melzack's Textbook of Pain (6th Edition), Stephen B, et al, ELSEVIER, 2013
- ・MANAGE YOUR PAIN, Michael N, et al, SOUVENIR PRESS, 2003
- ・痛みの集学的診療:痛みの教育コアカリキュラム, 日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会, 真興交易, 2016
- ・慢性疼痛治療ガイドライン, 慢性疼痛治療, ガイドライン作成ワーキンググループ, 真興交易, 2018

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

研究テーマに関する論文等を読み理解した上で, 自身の意見を述べるができるようにするため, 1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

与えられたテーマのみならず, 関連分野の研究も探索する。
基本的な研究手段を取得し, 研究が進行しているかを評価する。
研究結果を分析考察し, 学会発表や論文作成ができるかを評価する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

定期的に研究課題に対する進捗報告を行う。

9 履修上の留意点

臨床に結びついた研究を行い, 将来, 発展応用できるように, 知識, 手技, 理論的整合性を身につける。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	牛田 享宏	第2, 4, 5 水	9:00~11:30	疼痛医学講座教授室	内線 12040
教授(特任)	西原 真理	木	16:00~17:00	疼痛医学講座	内線 12042

口 腔 外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 古川 洋 志 (代理)

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

歯科疾患の一般的診断手順および治療方法の選択は、すでに歯科臨床研修の場である程度習得できていると考えられる。

大学院に於いては、学生が、医科大学病院の歯科口腔外科で主に取り扱う顎顔面口腔疾患の診断に必要な情報収集と分析および得られた情報から選択出来る治療法と個々に行う治療法の選択について理解を深めることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 口腔疾患の治療法を説明できる。
- ② 治療手技を理解し、手術に参加できる。
- ③ 治療後の患者の状態を説明できる。

3 授業内容

【講義】	口腔外科領域における各種病態と最近の診断，治療の進歩とそれに伴う諸問題について講述する。
【演習】	口腔外科疾患の診断治療に携わると共に，口腔外科領域全般にわたる内外の文献の抄読，症例検討を行う。
【実験研究】	口腔外科領域の疾患の病態学的研究，腫瘍に対する新たな診断および治療法の基礎研究。顎関節を中心とした咀嚼機能の加齢変化について基礎的研究。顎顔面外傷の診断，治療法。睡眠時無呼吸症候群の診断，治療法および治療効果について臨床研究を行う。

4 成績評価の方法・基準

講義に於いては、課題に対するレポートにて理解度を評価する。また臨床に於いては症例検討の中で評価する。

基礎、臨床研究は論文を通して評価を行う。

5 教科書・参考図書

特に定めないが、医局図書を参照。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの項目などに目を通しておく。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

口腔外科領域の論文作成を通して, 高度な専門知識と論理的思考を伴う研究力・実践力を修得する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

5段階評価を行い, 評価後返却する。

ただし, 内容の不足や誤りがある場合は, 再提出を求める事がある。

9 履修上の留意点

基礎研究, 臨床研究については実験研究の項にあげた領域の一領域について深く研究を行う。

臨床の科目である点を重視した研究に心がける。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先

睡眠医学

1 担当教員名

- 【研究指導教授】 教授 天 野 哲 也 (代理)
【科目担当者】 教授(特任) 篠 邊 龍二郎

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、睡眠医学の病態を、生理学、及び生化学、内科学、心理学、公衆衛生学的な手段を用いて、研究できる技術と思考方法を修得できることを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 不眠症、睡眠時無呼吸症候群、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群、レム睡眠行動障害、概日リズム睡眠覚醒障害などの基本病態学習及び診断治療ができる
- ② 睡眠ポリグラフ検査 (PSG) の基本を睡眠科および睡眠医療センターで臨床実習し、装着のみならず、判読、診断、さらに治療法導入の仕方まで実施できる
- ③ 昼間の眠気の判定法である MSLT (反復睡眠潜時検査) および MWT (反復覚醒維持検査) の実習を行い、ナルコレプシーの入眠時 REM 睡眠期 (SOREMP) などの診断ができる
- ④ 睡眠医学に関する研究で、その得られた成果を、国際的な外国雑誌に発表できる
- ⑤ 日本睡眠学会睡眠医療専門医になれる

3 授業内容

【講義】	不眠症、睡眠時無呼吸症候群、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群、レム睡眠行動障害、概日リズム睡眠覚醒障害などの代表的な睡眠障害を中心として、歴史、現状、展望について睡眠医学を学ぶ
【演習】	睡眠ポリグラフ検査 (PSG) の基本を睡眠科および睡眠医療センターで臨床実習し、装着のみならず、判読、診断、さらに治療法導入の仕方まで習得する昼間の眠気の判定法である MSLT (反復睡眠潜時検査) および MWT (反復覚醒維持検査) の実習を行い、ナルコレプシーの入眠時 REM 睡眠期 (SOREMP) などの診断ができるように判読技術を学ぶ
【実験研究】	1) 睡眠障害と生活習慣病との関連に関する研究、2) 光電子工学的手法を用いた睡眠中の生命機能評価法の開発研究、3) 睡眠障害と認知症、4) 起床困難の不登校学生に対する光療法の研究など

4 成績評価の方法・基準

睡眠医学における研究に必要な方法手段を修得できることを評価するため、試験、小テスト、課題レポート等に加え、研究成果を関連学会・研究会にて発表し、関連雑誌に投稿することを総合的に判定する。

5 教科書・参考図書

- i) 睡眠無呼吸症，塩見利明編，朝倉書店，2013
- ii) 睡眠障害診療ガイド，日本睡眠学会認定委員会監修，文光堂，2011
- iii) 睡眠学 日本睡眠学会編．朝倉書店，2009
- iv) Principles and Practice of Sleep Medicine 6th ed. Elsevier Saunders, 2015
- v) 睡眠障害国際分類（ICSD 3rd edition），2014

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

週1日程度の, 研究日において, 学習してもらう

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

睡眠医学に関する講義, 演習を通して得られた研究成果を, 査読のある国際的な外国語医学雑誌に掲載し, 関連領域に関わる他科の審議者により, 学位に相当とされれば授与される。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 演習を通して, 適時フィードバックする
(研究の関しての進捗状況を, 最低でも月1回確認する)

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授(特任)	篠邊龍二郎	火	17:30~19:00	中央棟7B睡眠医療センター	-
		水	13:00~14:00	C棟5階医局	内線 22318

救命救急医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 加納 秀記
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、救急集中治療の現場で臨機応変に対応するため、救命救急・災害・集中治療・病院前医療に関する幅広い臨床知識・技術を身につける。救急外来における、自然災害(地震・台風・豪雨水害など)にパンデミック感染症など、危機管理を含めた災害医療システムの構築を研究する。病院前医療においても、スポーツなどイベントにおけるマスマスガザリング災害や、NBCテロを含む事態対処医療についての体制構築を目指す。看護師や病院勤務救命士、さらに病院前で共に活動するコメディカル以外の職種との連携を学ぶ。

(2) 学修の到達目標

- ① 初療室、病院前医療における救命救急の初療・蘇生が実施・指導できる。
- ② 救命救急、災害、集中治療、病院前医療が説明できる。
- ③ 救急外来における感染症の予防について対応ができる。
- ④ 災害医療や事態対処医療のシステムを開発できる。
- ⑤ 救急医療・災害医療・事態対処医療において危機管理の対応ができる。

3 授業内容

【講義】	救急・蘇生・外傷治療などの治療概論。 病院前救急の概論 災害医療・事態対処医療の実例を解説する
【演習】	救急外来診療 災害医療・病院前救急・事態対処医療
【実験研究】	救急外来における感染症診療の研究 病院前救急におけるシステムの開発 災害医療・事態対処のシステム開発

4 成績評価の方法・基準

到達目標の達成は論文(英文)より評価する。評価方法は課題レポート、授業での発表で評価する。

5 教科書・参考図書

救急診療指針, 監修: 日本救急医学会, へるす出版; 改訂第5版, 2018年
標準救急医学, 監修: 日本救急医学会, 医学書院, 2014年

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1週間におよそ7時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

救命救急, 集中治療に関する論文作成を通して, 侵襲学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究 実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

臨床と結びついた課題を見だし, 将来の発展に結びつけるような知識, 技術, 研究法を身につけるように努力をする。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	加納 秀記	月	17:30~18:30	3次初療室	PHS 87022
		金	10:00~12:00		

輸血・細胞治療医学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 中山 享之

【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

輸血医療は、生体に足りない血球成分を安全かつ適正に補充することを主眼として発展してきた。現在においてその目的は、ほぼ到達されたといえる。これからの輸血医療には、血栓止血学と細胞治療学の知識が必須になると予想されている。例えば、大量出血の際には、凝固障害が合併してくることが多いが、こちらを是正しないと「赤血球輸注をした分だけ出血する」の繰り返しとなる。つまり血液凝固異常をきたす病態を理解しその治療を実践できることが重要となる。また、細胞製剤を使った再生医療や癌免疫療法などは、すでに実践されており著しい効果を上げている。今後の発展も期待され、今後の医療を担う若手にとっては必須の知識となることが予想される。以上より、血栓止血学及び細胞治療学の最新の知識習得にとどまらず、血液凝固異常症の病態解明や、簡便で適正な細胞管理法の樹立、新規の細胞製剤作成等を達成することを目標とする。

(2) 学修の到達目標

- ① 血液凝固異常をきたす病態を理解し、その治療を実践できる。
- ② 一般的な細胞培養を実践できる。
- ③ 血液凝固異常をきたす病態の解明や、新規の細胞療法剤を作成できる。

3 授業内容

【講義】	輸血・細胞療法学及び血栓止血学について、従前の背景を説明し、最近の進歩、現状の問題点、将来の展望について講述する。
【演習】	細胞製剤(特に間葉系幹細胞)に関する情報及び論文について抄読を行い、文献的考察を踏まえた討論を行う。 血液凝固異常をきたす病態並びにその治療について文献的考察を踏まえた討論を行う。
【実験研究】	血液凝固異常症の病態解明(遺伝子解析等)を行う。 間葉系幹細胞の培養、細胞処理、分子生物的手法による各種遺伝子発現等、シグナル等の検索を行う。遺伝子導入等により新規の細胞製剤の作成を目指す。

4 成績評価の方法・基準

- ・ 血液凝固異常症をきたす病態について、その疫学や鑑別診断、治療法などについて小テストをする。評価基準はこれらの項目が理解されているとする。
- ・ 血液凝固異常症の病態解明を実験研究(遺伝子解析等)で解明し、論文などを提出する。評価基準は雑誌等に発表する事とする。
- ・ 細胞療法の実状について文献的考察を行い、今後の展開予想をレポートとしてまとめる。評価基準はレポート内容が論理的に考察されている事とする。
- ・ 間葉系幹細胞に関して、分化・増殖機序などを実験研究で解明し、論文などを提出する。評価基準は、雑誌等に発表する事とする。
- ・ 総合評価は小テスト、レポート、提出物等を含めて評価する。評価基準は各々の評価基準を基に総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

- ・ 輸血学テキスト, 大坂顯通, 中外医学社, 2013年
- ・ Technical Manual, Mark K. Fung, AABB, 2017 年
- ・ 雑誌: Transfusion, Vox Sanguinis, Blood, Stem cells

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

- ・ 事前にテキスト, 関連医学雑誌の関連事項などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・ 血液凝固異常に関する論文作成を通して, 輸血医学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得したとみなされる場合に課程終了・学位授与とする。
- ・ 細胞製剤に関する論文作成を通して, 細胞治療学分野での専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得したとみなされる場合に課程終了・学位授与とする。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・ レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・謝りがある場合は再提出を求める事がある。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	中山 享之	月・火・金	13:00~17:00	病院2F輸血部	内線 36200

新 生 児 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 山 田 恭 聖

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・学生は、新生児疾患、特に呼吸器疾患・循環器疾患についてその病態生理を理解する
- ・学生は、上記の疾患を中心に、それに対する研究手法を理解する
- ・学生は上記の疾患について研究するための基本的な実験手技を習得する

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、新生児疾患、特に呼吸器疾患・循環器疾患についてその病態整理を説明できる
- ② 学生は、臨床論文作成に必要な基本的な臨床統計学を活用できる
- ③ 学生は基本的な実験手技、ELISA/PCRなどの汎用性の高い手技を実施できる

3 授業内容

【 講 義 】	新生児疾患の病態生理およびその研究の現状について、教科書や最新の文献を用いて解説する。また今後の展望や問題点について討論する。
【 演 習 】	新生児疾患の文献を用いて、その研究方法や統計手法について批判的かつ建設的に討論を行う。基本的な動物実験や基礎実験に参加し手技を習熟する。
【 実験研究 】	教員から与えられたテーマについて、教員の指導の下に実験計画を立案する。実験計画に基づいて研究を実施し、その成果をプレゼンテーションする。

4 成績評価の方法・基準

- ・論文の要点を教員にプレゼンテーションし、口頭試問を行う。プレゼンテーションの内容および口頭試問への回答が適切である場合に合格とする。
- ・研究手技に関する講義および演習後に、習得した研究手技に関するレポートを提出する。研究手技に対する理解度を教員が評価し、理解が十分であると判断した場合に合格とする。
- ・研究成果を教員にプレゼンテーションし、口頭試問を行う。また、プレゼンテーション内容に関するレポートを提出する。教員は口頭試問とレポートを総合的に評価し、成果が十分であると判断した場合に合格とする。

5 教科書・参考図書

- ・Avery's diseases of the newborn, 10th edition. C.A.Gleason & S.E.Juul. Elsevier, 2018

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキスト, 関連する最近の論文に目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

新生児学に関する論文作成を通して, 高度な専門知識と論理的思考を伴う 研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・講義, 実習中に疑問点の解説を行う。
- ・レポートに関しては教員との面接で討論することでフィードバックを行う。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	山田 恭聖	火	16:00-17:00	C棟10階 医局内教授室	内線 87192
		木	16:00-17:00		

がん治療学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 久保昭仁
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

がんの発生机序と病態に関する分子生物学, がんの疫学, 世界と本邦におけるがん対策について理解した上で, 臓器横断的にがんに対する治療についての知識、考え方を修得する。手術療法, 放射線療法, 薬物療法(細胞傷害性化学療法, 分子標的治療, 免疫療法)に加えて, 新規治療開発のための臨床試験, がんゲノム医療, 多職種でのチーム医療についての考え方を修得する。

(2) 学修の到達目標

- ① がんの発生机序と病態について, 分子生物学的知見に基づいた概説ができる
- ② 世界と本邦におけるがん対策の概要について説明できる
- ③ がんに対する薬物療法, その有害事象と対策, 支持療法を適切に実施できる
- ④ 新規治療開発のための臨床試験とがんゲノム医療について説明できる
- ⑤ がん患者に対する全人的医療を理解し, 実践できる

3 授業内容

【講義】	臓器横断的にがんの発生と病態, 診断, 治療, がんゲノム医療, 臨床試験について講義する
【演習】	がん治療学に関する文献等の情報収集, レビューを行う。抄読会, 症例検討会, ゲノム医療エキスパートパネル, キャンサーボード等に参加し, 診断と治療についての実習と討論を行う
【実験研究】	がん治療学, がんゲノム医療に関する臨床研究を行い, その成果を発表する

4 成績評価の方法・基準

がんの分子病態、薬物療法を中心とするがん治療とゲノム医療、臨床試験、およびがん患者に対する全人的医療への理解を重視する。講義への出席、演習への参加と議論、課題レポート、学会および論文での成果発表を踏まえて評価する。

5 教科書・参考図書

新臨床腫瘍学-がん薬物療法専門医のために-改訂第6版 日本臨床腫瘍学会 編 南山堂 2021年

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義と演習 100 時間/年

実験研究 100 時間/年

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- 本課程における講義, 演習, 実験研究を通じて, がん治療の実践と研究の両面において指導的役割を務めることができる実践力を修得する。
- 本課程では, がん治療学に関する情報発信活動(論文および学会発表, 講義, カンファレンス等における議論等)を重視する。これらを行っていくことでがん治療に専門的に携わる医療者として、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- 本課程では双方向の議論を重視する。講義, 演習, 実験研究, それぞれの課程においての質疑・討論を行うことで研究課題に対する理解を深め, 学習内容の充実を図る。
- 試験・レポート等の課題実施, 提出にあたっては, 評価を行い, 評価結果を返却する。結果によってはさらなる議論や討議内容確認のための課題再提出を求める場合がある。

9 履修上の留意点

とくになし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	久保昭仁	木	16:00~17:00	D棟4階臨床腫瘍センター医局	内線 27154

緩和・支持医療学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 森 直 治
【科目担当者】 教授（特任） 前 田 圭 介

2 教育目標

(1) ねらい

がん等の難治性疾患に対する緩和医療，支持医療に関して，腫瘍学や代謝栄養学に基づく，症状や代謝状態の科学的に評価法を習得する。体蛋白量，筋肉量の低下は健康状態や医療のアウトカムの低下に直結する重要な問題であり，これを理解し，適切なサポートを身につける。また，エビデンスの収集能力を向上させ，研究計画から英語論文発表までのプロセスを修得し，医学研究を実行できる能力を習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 難治性消耗性疾患に対する緩和医療，支持医療の意義を理解する
- ② 腫瘍がもたらす代謝変化を理解し，腫瘍学，代謝栄養学に立脚した全人的医療を行える
- ③ 体蛋白量維持の重要性，低栄養のもたらすアウトカムを理解し，適切な栄養サポートが行える
- ④ エビデンスとリーダーシップに基づくチーム医療を理解する
- ⑤ 緩和医療，代謝栄養領域の医学研究を計画から英語論文発表まで行える

3 授業内容

【講義】	全人的医療を行う上で不可欠なチーム医療の重要性とゴール設定について修得する。疾患に伴う代謝変化，サルコペニアの影響などの講義を通じ，疾患治療の基礎となる代謝応答や栄養サポートについて学ぶ。
【演習】	がんなどの消耗性疾患患者に対する栄養評価，栄養量の設定や輸液や栄養剤の選択，運動療法の処方等の実臨床に即した栄養管理の演習と，サポートの目標設定やコミュニケーションといった全人的医療を行うための基礎となる事項の演習を実施する。
【実験研究】	疾患治療をうける患者の筋肉量，体蛋白量の減少と生活の質，臨床症状，予後に関する臨床的研究を行い，その成果を発表する。

4 成績評価の方法・基準

実習態度，文献検索能力，レポート作成能力，ディスカッション内容から修得状況を評価する

5 教科書・参考図書

- ・ OXFORD TEXTBOOK of Palliative Medicine(2021)
- ・ 専門家をめざす人のための緩和医療学 日本緩和医療学会編(2019)
- ・ 悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ 医歯薬出版(2014)
- ・ 臨床研究と論文作成のコツ 読む・研究する・書く 東京医学社(2011)
- ・ 代謝栄養学に関しては European Society for Clinical Nutrition and Metabolismの無料On-line 学習ツールであるLife Long Learning (LLL)のTopic 26 Cancer and nutritionをベースとする(Textも無料でダウンロード可)

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に6時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

緩和医療や栄養サポートなどの支持医療に関する論文作成を通して, 高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。

9 履修上の留意点

時間を守り, 積極的な態度で参加すること

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	森 直 治	月	17:30~19:00	教授室(C棟7階)	内線 22930
教授(特任)	前 田 圭 介	月・木	10:00~13:00	栄養治療支援センター	内線 80319

災 害 医 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 津 田 雅 庸

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・災害のタイプと特性を知る。
- ・大規模災害における医療従事者としての役割を理解する。

(2) 学修の到達目標

- ① 大規模災害発災直後から復興期までの医療支援のあり方を説明できる。
- ② 災害発災直後の自助、共助、公助の概念に基づく被災者への対応に配慮できる。
- ③ 医療機関に加え行政機関を交えた災害訓練の企画・運営に参加できる。
- ④ 実災害時の医療支援チームリーダーに求められる対応を適切に実施できる。

3 授業内容

【 講 義 】	災害医学概論，大規模災害時の理論，局所災害対応の理論，中長期的災害支援の課題等につき解説する。
【 演 習 】	過去の災害事例に基づく医療支援を振り返り，問題抽出と課題解決に向けたグループ討論を行う。
【 実験研究 】	今後予想される南海トラフ大地震など大規模災害への備えとして，数多くの利用しうるデータを参考に，よりよい医療支援のあり方を探る。

4 成績評価の方法・基準

1. 実習態度やレポート提出を通じて，基本的な知識の習得について評価する。
2. 研究遂行上の手順・手法の理解度を評価する。
3. 論文作成上の理論的思考と完成度を評価する。

5 教科書・参考図書

特になし

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)
事前に行政発出の災害医療関連資料・通知, メディア記事などに目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

災害医学に関する論文作成を通して, 災害発生直後の超急性期, 急性期対応のみならず亜急性期, 慢性期, 復興期のすべてのフェーズにおける医療支援について, 社会医学の視点から課題の抽出と解決策を示し, 適切な災害対応能力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。
レポートは厳格な評価後に返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求める。

9 履修上の留意点

災害医学は医療従事者(とりわけ医師)にとって, 関心が薄い領域であるとの指摘は否定できない。
しかしながら, 国難とも言える大規模地震が発生すれば, 必ずや災害医学に精通した人材が求められる。
かかる状況を十分に理解し, 気概を持って履修することを切に望む。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	津田雅庸	火水木	15:00~17:00	救急・災害管理棟 3階教授室	内線 35352

造血細胞移植・細胞治療情報管理学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 熱田由子
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

学生は、造血細胞移植・細胞治療に関する臨床研究/レジストリ研究を通じ、独立した研究者(principal investigator)に必要な知識と態度、そして技能を習得する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は臨床研究/レジストリ研究の計画に必要な知識と態度、技能を身につける。
- ② 学生は臨床研究/レジストリ研究のデータ管理に必要な知識と態度、技能を身につける。
- ③ 学生は生存解析の遂行と結果の解釈に必要な知識と態度、技能を身につける。
- ④ 学生は生命科学の進歩に寄与する英語論文(査読あり)を、3年で1報以上発表する。

3 授業内容

【講義】	臨床研究/レジストリ研究に関する講義を行う。独立した研究者(principal investigator)に必要な知識、態度、技能(研究の発案、論文発表の方法を含む)を教える。研究に必要な知識の習得のための外部機関のセミナー等の活用を適宜行う。
【演習】	文献抄読、データ管理、研究結果発表・討論を行う。研究手法学修のため、外部指導者の招聘、外部機関への出向など適宜行う。
【実験研究】	医学医療の進歩を目指し、臨床研究/レジストリ研究を行う。取り扱うデータおよび解析スクリプト・記録は適切に管理し保管する。

4 成績評価の方法・基準

英語論文発表(80%以下)、学会発表(10%以下)、知識・態度・技能(10%以上)などにより評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定はしない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

研究に関連する最新文献や知見を網羅的に検索し、通読する(1日1時間程度)。
研究結果を解釈し、研究計画の確認・修正を行う(1日1時間程度)。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

論文作成を通して、臨床研究/レジストリ研究の高度専門知識と論理的思考を伴う研究実践力が修得できたと判断できた場合に、学位を授与する方針とする。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

試験・レポートを課した場合は、評価後学生に返却される。内容に不足・誤りがある場合には、学生に再提出を求めることがある。

9 履修上の留意点

特記すべきことなし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	熱田由子	木	15:00～16:00	研究棟 404 号室	内線 12450
		木	16:00～17:00		

特別開設科目及び単位数表

特別開設科目及び単位数表

科	目	責任者	前期	後期	単位
1	細胞生物学セミナー	武内恒成	1	1	2
2	解剖学セミナー	内藤宗和	1	1	2
3	生理学セミナー	佐藤元彦		2	2
4	生化学セミナー	細川好孝	1	1	2
5	薬理学セミナー	丸山健太	1	1	2
6	分子病理学セミナー	笠井謙次	1	1	2
7	免疫学セミナー	高村祥子	1	1	2
8	健康増進・疾病予防セミナー	鈴木孝太	1	1	2
9	臨床疫学セミナー	菱田朝陽	1	1	2
10	情報科学セミナー		1	1	2
11	法医学セミナー	妹尾 洋		2	2
12	神経病理セミナー	岩崎 靖	1	1	2
13	神経病態・幹細胞生物学セミナー	岡田洋平	1	1	2
14	分子医科学セミナー	[細川好孝]	1	1	2
15	消化管セミナー	[伊藤 理]	1	1	2
16	肝・胆・膵セミナー	伊藤清顕	1	1	2
17	循環器学セミナー	天野哲也	1	1	2
18	呼吸器疾患病態セミナー	伊藤 理	1	1	2
19	内分泌代謝学 臨床遺伝セミナー	[伊藤 理]	1	1	2
20	糖尿病学セミナー	神谷英紀	1	1	2
21	神経疾患先行研究セミナー	熱田直樹	1	1	2
22	血液内科大学院生セミナー	高見昭良	1	1	2
23	精神医学研究セミナー	宮田 淳	1	1	2
24	小児神経学セミナー	奥村彰久	1	1	2
25	消化器外科学セミナー	佐野 力	1	1	2
26	循環器外科学セミナー	松山克彦	1	1	2
27	血管外科学セミナー	児玉章朗	1	1	2
28	乳腺内分泌外科学セミナー	中野正吾	1	1	2
29	腎移植外科学セミナー	小林孝彰	1	1	2
30	脳神経外科学セミナー	渡邊 督	1	1	2
31	脳血管内治療実践セミナー		1	1	2
32	整形外科学セミナー	高橋伸典	1	1	2
33	皮膚感染症セミナー	渡邊大輔	1	1	2
34	泌尿器科学セミナー	佐々直人	1	1	2
35	産婦人科学セミナー	渡辺員支	1	1	2
36	産婦人科（生殖・内分泌）学セミナー	大須賀智子	1	1	2
37	眼科学セミナー	瓶井資弘	1	1	2

※[]は研究指導教授代理

科	目	責任者	前期	後期	単位
38	臨床頭頸部外科セミナー	藤本保志	1	1	2
39	総合画像診断セミナー	鈴木耕次郎	1	1	2
40	放射線治療セミナー		1	1	2
41	麻酔科学セミナー	[天野哲也]	1	1	2
42	救急集中治療医学セミナー	渡邊栄三	1	1	2
43	嫌気性菌感染症セミナー	三嶋廣繁	1	1	2
44	病理診断学セミナー	都築豊徳	1	1	2
45	疼痛学セミナー	牛田享宏	1	1	2
46	輸血・細胞治療医学セミナー	中山享之	1	1	2
47	がん治療セミナー	久保昭仁	1	1	2
48	悪液質・サルコペニアセミナー	森直治	1	1	2

※[]は研究指導教授代理

特別開設科目授業内容

1	細胞生物学セミナー	責任者	武内恒成
<p>細胞生物学，および神経科学の諸分野から重要なテーマを選び講述する。 随時，内外の先端的な研究者を招き，セミナーを開催する。 大学院生が，組織・細胞のイメージング画像データや，次世代遺伝子解析システム・空間トランスクリプトーム解析（RNA-seq.やGWAS）などの解析や，意味付け，データマイニングの手法についても理解できることを目標とする。</p>			
2	解剖学セミナー	責任者	内藤宗和
<p>各自が興味を持つ領域，あるいは臨床上問題となる領域について，解剖を行い理解を深める。</p>			
3	生理学セミナー	責任者	佐藤元彦
<p>教授，特別講師，教室員の指導で下記のテーマについて解説講義と文献抄読，実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞内情報伝達機構 2. 循環調節機構 3. 血管リモデリング制御機構 4. 疾病に関連するシグナル異常 			
4	生化学セミナー	責任者	細川好孝
<p>発癌は多段階な遺伝子異常の蓄積によるものであることが明らかにされつつある。本セミナーでは，造血器腫瘍から固形癌まで広範に亘り，これまで明らかとなっている癌化の分子機構についてセミナーを行う。</p>			

5	薬理学セミナー	責任者	丸山 健太
<p>中枢神経と末梢神経の相互連関ならびに末梢神経系による生体防御システムに関する原著論文を精読し，討論を行う。</p>			
6	分子病理学セミナー	責任者	笠井 謙次
<p>人体病理及び分子病理の最新知見に関する文献抄読や検討会を開催する。また随時専門家を招き，セミナーを開催する。</p>			
7	免疫学セミナー	責任者	高村 祥子
<p>免疫学研究の基礎的知識や方法を習得するために，教授や教室員の指導の下実験を行い，結果について考察する。結果はまとめて教室内で発表し，多方面からの意見や提案を受け検討や討論を繰り返すことで考え方やまとめ方の技能を習得していく。</p>			
8	健康増進・疾病予防セミナー	責任者	鈴木 孝太
<p>現在，特に社会的に問題となっている健康問題を取り上げ，関連する物理的，生物的，化学的な外的要因のみならず，生活習慣や社会経済的状況といった，広義の環境要因について，その検討方法や評価方法について学ぶ目的でセミナーを開催する。その上で，各自の研究内容についても多角的な視点から検討し，討議することで，一層深い成果を上げることを目指す。</p>			

9	臨床疫学セミナー	責任者	菱田朝陽
<p>疫学の方法論を臨床の場に取り入れた，Evidence-based Medicine (EBM) について実習を行う。いくつかの具体的な臨床シナリオに基づき，臨床疑問の定式化→検索→批判的吟味→自分の患者への適用の4ステップを行う。自分のもつ臨床疑問を自力で解決できるようになることを目標とする。</p>			
10	情報科学セミナー	責任者	菱田朝陽
<p>医学研究を行う際に必要となる統計ソフトの使用法について，実際に統計ソフトを用いて実習する。 大学院生自身が自分の持つデータを自力で解析できるようになることを目標とする。</p>			
11	法医学セミナー	責任者	妹尾洋
<p>講座所属教員と合同で，あるいは大学院学生単独で下記の項目についてセミナーを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法中毒学 睡眠薬中毒，農薬中毒，その他 2 アルコールに関する法医学 3 医療関連死，異状死 			
12	神経病理セミナー	責任者	岩崎靖
<p>神経変性疾患の臨床所見と神経病理学的所見を検討し，中枢神経系の老化と，認知症の病態との関連についてセミナーを開催する。 最新の論文の抄読会，神経病理学教科書の輪読会，臨床神経病理症例検討会，研究プロジェクトミーティングを通して，特に非アルツハイマー型変性認知症の病態解明の研究を発展させる。</p>			

1 3	神経病態・幹細胞生物学セミナー	責任者	岡 田 洋 平
<p>幹細胞生物学，発生学，神経科学，神経病態学，創薬研究等の各分野の研究者を招聘しセミナーを開催する。また，学内外の様々な研究者とのディスカッションを通して，研究課題についての議論を深める。</p>			
1 4	分子医科学セミナー	責任者	[細 川 好 孝]
<p>臓器・組織の形態形成，維持機構，各種病態における形態・機能の破綻機構を分子生物学的な面から解説する。 また，随時専門家を招き，セミナーを開催する。</p>			
1 5	消化管セミナー	責任者	[伊 藤 理]
<p>消化管疾患診療における最近の臨床面，研究面のトピックスや最新の消化器内視鏡診断・治療についてセミナーを行う。</p>			
1 6	肝・胆・膵セミナー	責任者	伊 藤 清 顕
<p>肝胆膵疾患診療における最近の臨床面，研究面のトピックスや最新の消化器内視鏡診断・治療についてセミナーを行う。</p>			

17	循環器学セミナー	責任者	天野哲也
<p>循環器学の基礎並びに臨床に関する最近の重要テーマを選び、文献の検討及び討論を行う。また、随時学内外の研究者を招き、最近の知見について講演討論会を開催する。</p>			
18	呼吸器疾患病態セミナー	責任者	伊藤理
<p>呼吸器疾患特に間質性肺炎、気管支喘息、肺胞蛋白症など、外因あるいは内因に対する過剰反応的性格の強い疾患において、病態の中核をなす蛋白とその遺伝子発現の動向を臨床材料を用いて解析した結果や、各疾患のフェノタイプあるいはエンドタイプとの関連を講述する。</p> <p>また肺癌について抗腫瘍免疫を阻害する分子の発現と、治療後の長期予後との関連を調査した結果を講述する。</p>			
19	内分泌・代謝学 臨床遺伝セミナー	責任者	[伊藤理]
<p>内分泌代謝疾患の病態から臨床遺伝まで、網羅的に理解することを目的とする。液性調整を主として、成長発育、循環動態、体温代謝調整、骨粗鬆症などについて具体的に提示し、その病態の機序を解明する方法を検討する。</p> <p>興味ある個々の症例について、臨床から研究的解析まで実施できる思考力を啓発する。随時、学外講師にご講演頂く。</p>			
20	糖尿病学セミナー	責任者	神谷英紀
<p>糖尿病研究の第一人者を招聘し講演していただく。</p>			

2 1	神経疾患先行研究セミナー	責任者	熱田直樹
<p>研究シードあるいはbrainstormingのためのtipを得る目的で、臨床、基礎を問わず神経疾患に関連する最新の学術知見をセミナー形式で紹介する。必要に応じて学外研究者を招聘する。</p>			
2 2	血液内科大学院生セミナー	責任者	高見昭良
<p>血液学のトピックを講演してもらう。</p>			
2 3	精神医学研究セミナー	責任者	宮田淳
<p>客観的な検査がほとんど無いという精神疾患の現状、操作的診断基準の意義と限界、現在の様々な研究領域とその成果を概観する。また文献の批判的吟味を通して今後の研究のための指針を議論する。</p>			
2 4	小児神経学セミナー	責任者	奥村彰久
<p>小児の神経疾患に関する臨床研究および基礎研究について、専門家のセミナーを開設する。また、遺伝学的研究・神経生理学的研究・神経画像解析研究などの手法を学ぶとともに、現在得られている知見について討論を行う。</p>			

25	消化器外科学セミナー	責任者	佐野 力
<p>消化器外科学（特に胃，大腸，肝臓及び門脈，胆道及び膵，脾の外科）についてセミナーを行う。</p>			
26	循環器外科学セミナー	責任者	松山 克彦
<p>循環器疾患（心臓・大血管疾患）の外科治療の適応および手技・術前後の管理・術後成績および補助循環手段について討議を行う。</p>			
27	血管外科学セミナー	責任者	児玉 章朗
<p>末梢動脈疾患において，下肢血行再建（バイパス／血管内治療）による虚血部局所の血行動態変化，創傷治癒可能性を無侵襲血管診断法から評価し，検討する。腹部大動脈・内臓動脈疾患における血行再建について検討する。</p>			
28	乳腺内分泌外科学セミナー	責任者	中野 正吾
<p>乳腺内分泌外科学について最近のtopics（分子標的治療，遺伝性乳癌，センチネルリンパ節における微小転移の臨床的意義など）を選びセミナーを開催する。</p>			

29	腎移植外科学セミナー	責任者	小林 孝 彰
<p>腎移植領域に必要な移植免疫に関する最近の臨床面・研究面のトピックスや最新の診断・治療法についてセミナーを行う。</p>			
30	脳神経外科学セミナー	責任者	渡 邊 督
<p>中枢及び末梢神経系疾患に関し基礎，臨床の各方面にわたり専門家のセミナーを開催する。その中で，特に外科的に重要なテーマを選んで手術手技とその適応について文献学的検討も含めて討論を行う。</p>			
31	脳血管内治療実践セミナー	責任者	渡 邊 督
<p>血管内治療手技を実際にシミュレーターおよびシリコンモデルを用いて行ってもらおう。ガイドカテーテルの誘導，脳血管へのマイクロカテーテリゼーション，コイル塞栓術，ステント留置術などを通じて，脳血管内治療を体験実習し，実治療における困難性やリスクを理解する。</p>			
32	整形外科学セミナー	責任者	高 橋 伸 典
<ol style="list-style-type: none"> 1 関節のバイオメカニクスおよび人工関節のメカニクスについて講述する。 2 スポーツ障害の診断と新しい治療法について討論を行う。 3 骨軟部腫瘍の新しい治療法についての考え方を文献的に検討する。 4 関節軟骨及び半月板の治療及び再生に関して検討する。 5 関節リウマチの病態と治療について検討する。 			

33	皮膚感染症セミナー	責任者	渡邊大輔
<p>皮膚における感染症（細菌・真菌・ウイルスなど）の診断には、その原因微生物の同定が必要不可欠であり、そのために菌学的検索はむろんのこと、免疫学的検索も重要な位置をしめる。それらの検査手技の実際・データ処理について述べ、さらに文献的検討と討論を行う。</p>			
34	泌尿器科学セミナー	責任者	佐々直人
<ol style="list-style-type: none"> 1 尿路系腫瘍，尿路感染症に関し基礎，臨床各方面より専門家のセミナーを開催する。 2 尿路結石症，排尿機構など重要なテーマを選んで，文献的検討と討論を行う。 			
35	産婦人科学セミナー	責任者	渡辺員支
<ol style="list-style-type: none"> 1 産科疾患について，母体，胎児の管理方法の臨床的セミナーを行う。 2 性器癌の診断法と治療法の基礎的ならびに臨床的セミナーを行う。 			
36	産婦人科（生殖・内分泌）学セミナー	責任者	大須賀智子
<ol style="list-style-type: none"> 1 女性の生殖・内分泌学の基本について理解を深めるとともに，最新研究について紹介するセミナーを開催する。 2 女性のライフコースに伴走する産婦人科医の役割について，医学ならびに社会的ニーズの観点からの重要性や発展性について学び，討論を行う。 			

37	眼科学セミナー	責任者	瓶井資弘
<p>眼科学の諸分野から全身疾患との関連において重要なテーマを選び講述する。随時内外の研究者を招き，セミナーを開催する。</p> <p>また，教員，大学院学生全員参加の下での一般眼科学の基本的問題についての討論を行う。</p>			
38	臨床頭頸部外科セミナー	責任者	藤本保志
<ol style="list-style-type: none"> 1 頭頸部癌治療の最先端医療についてセミナーを行う。 2 嚥下障害の基本的診断法から専門的診断・解析法についてセミナーを行う 			
39	総合画像診断セミナー	責任者	鈴木耕次郎
<p>各種の画像診断法（X線撮影，CT，MRI，シンチグラフィ，超音波など）の種々の疾患の診断における特徴と適応，および病理所見との対比などについて検討と討論を行う。</p>			
40	放射線治療セミナー	責任者	鈴木耕次郎
<p>がん治療における放射線治療の役割や適応等について，最新の知見も基づいてトピックスを学ぶ。また学内で開催されている「放射線治療カンファレンス」，「キャンサーボード」，「たちばな放射線治療講演会」なども活用する。</p>			

4 1	麻酔科学セミナー	責任者	[天野 哲也]
<p>痛みと侵襲制御に関する最近のトピックスを取り上げてセミナーを行う。</p>			
4 2	救急集中治療医学セミナー	責任者	渡 邊 栄 三
<p>救急集中治療医学，蘇生・集中治療医学に関連した侵襲学全般のトランスレーショナル・リサーチの考え方を学び，それらの実践に繋がるセミナーを行う。</p> <p>クリティカル・ケア領域で最大侵襲である敗血症の病態生理解明と治療戦略の開発について解説する。</p>			
4 3	嫌気性菌感染症セミナー	責任者	三 嶋 廣 繁
<p>破傷風，ガス壊疽，ボツリヌス症など毒素産生性の嫌気性菌による外因性感染症および主に術後に認められる嫌気性菌と通性菌が相乗的に病原性を発揮する内因性複数菌感染症，芽胞を有する嫌気性菌による医療関連感染などの嫌気性菌が関与する多種多様の感染症の診断，治療，予防に関する講義，演習，実験研究を行う。腸内細菌叢と各種疾患の関係についても研究する。</p>			
4 4	病理診断学セミナー	責任者	都 築 豊 徳
<p>病理診断は腫瘍学の基本項目であり，その行為は単なる診断に留まらず，手術方法，薬剤選択，放射線治療方針の決定に重要な役割を果たす。更には，その治療効果の判定から，その後の治療方針の参考材料となる。</p> <p>本講ではWHO分類に基づく病理診断の意義，治療方針を決定させる病理所見を交えて解説を行う。更には遺伝子診断及び治療を行う上での注意点についても解説を行う。</p>			

45	疼痛医学セミナー	責任者	牛田 享 宏
<p>侵害受容性疼痛，神経障害性疼痛，痛覚変調性疼痛など，さまざまな痛みの発生機序や慢性化・難治化の機序及びその治療法などについて，文献の抄読や研究課題ごとに議論を行い，実践的に急性痛対応，慢性疼痛の分析対応法について学ぶ。</p>			
46	輸血・細胞治療医学セミナー	責任者	中山 享 之
<p>輸血・細胞療法学並びに血栓止血学に関連したセミナーを行う。</p>			
47	がん治療セミナー	責任者	久保 昭 仁
<p>がん化学療法，分子標的療法，免疫療法など最新のがん治療のトピックについて学ぶ。学内で開催されている「ゲノム医療エキスパートパネル」，「キャンサーボード」なども活用する。</p>			
48	がんの悪液質・サルコペニアセミナー	責任者	森 直 治
<p>悪液質は，がんをはじめとする慢性消耗性疾患に伴う炎症を背景としてサルコペニアを引き起こす多因子症候群で，炎症を伴う慢性疾患関連性低栄養と同義である。また，がん患者におけるサルコペニアは，疾患によって引き起こされる二次性サルコペニアとして高頻度であり，悪液質そのものであると考えられている。悪液質やサルコペニアに共通する特徴，すなわち骨格筋量や筋力の低下は，抗がん治療の副作用の悪化，生活の質の低下，そして生命予後の悪化といった医療アウトカムとの低下と関連していることが多くの研究で報告されている。したがって，骨格筋量や体蛋白量の適切な維持は，がん医療における重要な課題の一つである。本セミナーでは，がんに伴う悪液質とサルコペニアの病態の理解と，それに対する対応について詳しく解説する。</p>			

學生生活關係

学 生 生 活

1 学生の身分等

入学と同時に交付される学生証は、本学学生の身分を証明するだけでなく、学生生活を送るうえで欠くことのできないものですので、常時携帯してください。

なお、学生証に関する留意事項は以下のとおりです。

- ・有効期間は4年間です。
- ・他人に貸与、譲渡してはいけません。
- ・修了、退学などにより本学に籍がなくなった場合は、直ちに教務課に返却してください。

また、学内、学外を問わず、以下の場合に学生証の提示が求められることがあります。

【学生証の提示場面】

- ・総合学術情報センター（図書館部門）の入館や図書の貸し出し・返却
- ・総合学術情報センター（情報基盤部門）端末（パソコン）利用
- ・本学駐車場利用
- ・時間外教育施設（1号館・3号館・4号館・7号館・C棟）への入館
- ・各証明書の発行（在学証明書、学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）等）
- ・学生証を利用して乗車券及び乗船券を購入する場合などで係員から提示を求められた場合

学生証を紛失又は汚損した場合は、教務課に「学生証再交付願」を提出して、再発行の手続き（手数料1,500円）を行ってください。再交付は提出した2日後（土曜、日曜、祝日を除く。）となります。紛失した場合には、悪用等されないためにも直ちに教務課と紛失した場所の最寄の警察署(又は交番)に届け出てください。

2 学生への連絡事項

原則電子メールで連絡をしますので、毎日電子メールの連絡・通知事項等を確認するようにしてください。また、又は受入講座(研究室)を通じて通知文書で連絡することもありますので、メールや通知文書を見なかったという理由をもって、事後に異議などを申し立てることはできません。

なお、学生個人を特定するもの(呼び出し等)は原則として掲示しません。

3 窓口受付時間、担当業務等

部署	場所	取扱業務	取扱時間
教務課	1号館(大学本館) 1階	大学院全般	月～金曜日 8:30～17:15 ※祝日・年末年始を除く。

4 建物の入退館

本学建物への入館は、以下の通りです。ICカード認証の時間帯については、学生証をカードリーダーにかざし、開錠させてから入館してください。

なお、退館は閉鎖時間帯であっても自由にできます。

		7:00～19:00	19:00～20:30	20:30～21:30	21:30～7:00
1号館(大学本館) 7号館(医心館)	月～金曜日	開放			ICカード認証
	土曜日	開放	ICカード認証		
	日・祝日	ICカード認証			

注)上記時間帯は、変更となる場合がありますので注意してください。

5 自動車通学等

自動車通学を希望する場合は、受入講座(研究室)を通じて駐車許可申請書を管財・契約室(大学本館4階)に提出し、指定駐車場の使用許可を得るとともに学生証(施設利用証)への登録が必要です。

駐車場使用に当たっては、利用料金として1か月当たり2,200円(税込)が必要です。

また、自動二輪車、原動機付自転車及び自転車については、駐輪場に駐輪してください。

なお、キャンパス内の道路や近隣道路は全面駐車禁止のため、違法駐車は近隣住民の迷惑やバス・緊急車両の通行の妨げとなるので厳に謹んでください。

6 願書・届書・各種証明書の申請・発行

学生生活を送るに当たり、各種の願いや届けによる手続は重要なことです。必要な手続をとらなかったことにより、自身に不利益を被ることになったり、修学に支障をきたしたりすることもあるので、これらの手続を怠らないよう注意してください。

なお、書類手続の際などには、学生証及び印鑑が必要になります。

また、証明書等発行に係る手数料の支払いは、Edyで行います。

《願書及び届書等一覧》

願書及び届書等	事由	添付書類	提出期限	手数料	手続場所	
休学願	3ヶ月以上修学を休学しようとするとき。	傷病…診断書 その他…理由書	1か月前まで	/	教務課	
復学届	許可された休学期間が満了したとき。		速やかに			
退学願	退学しようとするとき。		1か月前まで			
改姓(名)届	姓(名)を変更したとき。	戸籍抄本	速やかに			
住所変更届	現住所を変更したとき。		速やかに			
本籍変更届	本籍を変更したとき。	戸籍抄本	速やかに			
保証人変更届	保証人を変更したとき。		速やかに			
保証人住所変更届	保証人が住所を変更したとき。		速やかに			
学生証再交付願	紛失等により学生証の再交付が必要なとき。		速やかに			(初回) 2,000円 (2回目以降) 3,000円
証明書交付	その他証明書が必要なとき。		交付希望の3日前 (英文の場合は1週間前)			500円 英文: 1,200円
成績証明書	学外にて証明が必要なとき。			500円		
在学証明書	学外にて証明が必要なとき。			500円		
通学証明書	通学定期券を購入しようとするとき。			無料		
学割証	JRを利用して片道100km以上の旅行などをするとき。(年間10枚まで)			無料		

《証明書自動発行機取扱時間》

月～金曜日 8:30～19:00

※ 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は利用できません。

《Edyチャージ機設置場所》

1号館(大学本館)	1階医学部事務室
	3階学生ホール
	5階医学情報センター(図書館)
4号館(看護学部棟)	1階ホール
7号館(医心館)	2階ホール

7 学納金の納付時期・方法

前学期分(入学手続き者を除く。)は、4月1日現在の在学者(休学者を含む。)に対して4月初旬に、後学期分は、10月1日現在の在学者(休学者を含む。)に対して10月初旬に、学納金口座振替のご案内を送付したうえで、前学期分は4月27日、後学期分は10月27日に指定された口座から口座振替(自動引

落し) いたします。(金融機関休業日の場合は翌営業日となります。)

学 納 金		合 計
授業料	教育充実費	
200,000円 (前学期100,000円, 後学期100,000円)	100,000円 (前学50,000円, 後学期50,000円)	300,000円 (年額)

8 奨学制度

奨学制度には、日本学生支援機構奨学金などの、経済的な理由により修学することが困難とならないよう学生生活を資金面においてサポートする制度があります。

また、大学院生が貸与を受けることのできる奨学金制度の詳細は、その都度メール等にてお知らせします。質問・相談などあれば、教務課にお問い合わせください。

《独立行政法人日本学生支援機構奨学金》

日本学生支援機構は、国の育英奨学事業の実施機関であり、大学から推薦された者(学業・人物ともに優秀かつ健康であって、経済的に貸与が必要な者)について選考の上、学資の貸与を行っている機関です。奨学金の種類は、第一種(無利子貸与)奨学金と、第二種(有利子貸与)奨学金があります。

種類	貸与額 (修士課程)
第一種 (無利子)	50,000円又は88,000円
第二種 (有利子)	次の月額から選択 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円
入学時特別増額貸与奨学金 (有利子)	次の金額から選択100,000円・200,000円・300,000円・400,000円・500,000円

(1) 奨学金の返還

返還は、日本学生支援機構法により20年以内の年賦等の方法で行われます。

〈注意事項〉

- ・ 採用後であっても、学業成績が不振となったとき、奨学金を必要としなくなったとき、その他奨学生として適当でないときは、奨学金の交付が停止・廃止されることがあります。
- ・ 奨学金の申請手続は4月中旬頃に行うため、貸与を希望する場合は、学生支援課に申し出てください。また、志願者は、常に注意して、出願の機会を逃したり出願期限に遅れたりしないようにしてください。

(2) 大学等奨学生採用候補者の進学後の手続

本学入学前に、大学又は大学院進学後第一種又は第二種奨学生となることを予約した者は、大学を通じ日本学生支援機構に進学届を提出してはじめて本採用されることになっています。この進学届を提出しないときはその資格を失うことになるので、入学後、直ちに教務課に申し出てください。

(3) 緊急採用 (第一種) 及び応急採用 (第二種) 奨学金

募集時期以外でも、主たる家計支持者の失職、死亡若しくは火災等による家計急変のため、又は災害を受けたことにより緊急に奨学金を必要とする事態が生じたときには、直ちに教務課に申し出てください。

(4) 問い合わせ先

《日本学生支援機構奨学金相談センター》

TEL: 0570-666-301 (ナビダイヤル)

※奨学金制度や手続に関する一般的なお問合せに関する相談窓口です。

受付時間 月曜～金曜: 9時00分～20時00分 (土日祝日・年末年始を除く)

《日本政策金融公庫による「国の教育ローン」制度》

日本政策金融公庫の各支店や最寄りの金融機関の窓口にお問い合わせください。

日本政策金融公庫ホームページ <https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

日本政策金融公庫教育ローンコールセンター 0570-008656又は03-5321-8656

《その他》

民間育英団体の奨学金など、大学を通じて募集があるものに関しては、その都度掲示します。

地方公共団体等の奨学金は大学を通じての募集がないので、出身地の教育委員会などへ問い合わせください。

9 保健衛生

(1) 定期健康診断

定期健康診断は、学校保健安全法に基づいて毎年4月に実施しています。実施時期は医学部生の健康診断日程と同様とします。

定期健康診断は希望者に実施します。社会人である学生は勤務先等で行った健康診断を本学で行う定期健康診断に代えることができます。この場合は、当該健康診断の結果を、速やかに教務課に提出してください。

(2) 休養室

学内で体調が悪くなった場合は、健康管理センター(D棟6階)を利用できます。健康管理センターでは、看護師が1名常駐しており、体調チェックや心の不調などについての相談が受けられます。体調に応じて休養することも可能ですが、休養しても体調がよくなる場合は、医療機関への受診を勧められる場合があります。

10 学生相談

本学では、いろいろな相談窓口を用意しているので、問題を抱えるものは相談員に申し出てください。

① 学生相談室

メンタルヘルスで相談したいことがあるときには、学生相談室に相談してください。

利用方法

- ・ 学生相談室は3号館(基礎科学棟2階B214)にあります。1回の相談時間は1時間くらいまでで、必要な場合には何度でも継続的に相談してください。
- ・ 相談希望の方は学生相談室のメールアドレスに申し込みのメールをしてください。電話・メール等、あなたの希望する形でこちらから連絡いたします。

【学生相談室メールアドレス gksoudan@aichi-med-u.ac.jp】

もし、悩んでいたり相談したいことはあっても「これくらいのことで相談(カウンセリング)を受けてもいいのかな」等、相談室を利用することの判断に悩む場合は学生相談室までメールで尋ねるなど気軽に学生相談室を利用してみてください。本学では臨床心理士の資格を持った専門カウンセラーが相談カウンセリングに応じています。相談内容は学生相談室外には決して漏れず、厳守されます。

※学生相談室の利用時間は、祝日を除く火・木・金曜日の16:30から18:30までとなります。

② ハラスメント相談窓口

ハラスメントに関する相談窓口として相談員を配置しているので、ハラスメントの問題を抱える者は、相談員に申し出てください。

なお、「学校法人愛知医科大学ハラスメントの防止等に関する規程」については、ホームページを参照してください。

<http://nashil.aichi-med-u.ac.jp/homepage/amuhp/kansa/監査室/index.html>

11 学生教育研究災害傷害保険

本保険には全員が加入しています。

4年間の間に通学途中や学内での研究中などに事故が起こった場合、保険給付の対象となる場合があ

るので、速やかに医学部事務部教務課に連絡してください。

※ 上記の内容を含め「学生教育研究災害傷害保険」の補償内容等については次のURLから確認してください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/>

12 大学敷地内全面禁煙について

本学は、医学、看護学教育の場であるだけでなく、患者さんの疾病治療、健康を守ることを使命とする医療の場であり、そこに従事する教職員のみならず、本学で学ぶ学生についても、率先して喫煙者の健康被害防止、非喫煙者の受動喫煙の防止等に積極的に取組むべきとする禁煙の趣旨の下、平成17年1月1日から大学敷地内全面禁煙となっています。

13 災害時の対応等

この地域に想定される地震や気象災害等の被災状況や、災害時に身を守る方法・帰宅方法・情報入手方法などを知り、災害時に的確な判断と行動ができるように備える必要があります。

日常の留意事項

① 共通

・知識・情報

自宅や通学路、大学周囲のハザードマップを確認してください。

・安否確認方法の具体化

災害発生時に家族と安否確認する方法と落ち合う場所を具体的に決めてください。

(例：〇〇小学校正門の内側で、毎時0分に待つ)

大学への安否の伝達のため、セコム安否確認メールに登録してください。

・発災時の帰宅方法の確認

災害発生時の帰宅方法、帰宅困難者ステーション等を確認してください。

通学中・大学にいる時の帰宅の判断基準をもっておく。

帰宅困難時の対応と、帰宅する判断と帰宅方法を決めておいてください。

② 自宅

・知識・情報

起こり得る災害の状況と災害時に情報を得る方法を決めておいてください。

・命を守る生活環境づくり

身の安全を守る姿勢を身に付けておく。家具・家電などの倒壊予防対策を講じてください。

・避難経路の確保

ハザードマップから、災害時の避難の判断、避難方法・避難場所・避難所への安全な経路を確認しておいてください。

・非常持ち出し物品と備蓄

災害発生時に持ち出す物品を準備し、ライフラインが途絶えた際に必要なものを1週間分備蓄しておいてください。

③ 通学中

・知識・情報

通学中に災害発生した際の避難方法と避難場所を確認してください。

・非常持ち出し物品と備蓄

通学中に必要な非常物品を携帯してください。

④ 大学

・知識・情報

学内の非常時に役立つために非常階段、避難用物品、備蓄品等が設置されている場所・使用方法を確認してください。

・避難経路の確保

非常階段、第1～3避難場所と経路を確認してください。

・非常持ち出し物品と備蓄

帰宅困難を想定し、1週間暮らせる程度の水と食料、防寒具を備えておくことが望ましい。

・防災訓練

年1回(10月第3木曜)の防災訓練に参加する。学年に合わせて段階的に進む構成です。

⑤ 地震発生前の対応

・緊急地震速報が出たら、まわりの人にも声をかけながら、あわてず、まず身の安全を守る。

・屋内にいるときは、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。あわてて外には飛び出さない。無理に火を消そうとしない。落ち着いて行動し、あわてて出口には走り出さない。

・屋外にいるときは、塀等の倒壊、割れたガラス等の落下に注意する。丈夫な建物のそばであれば、建物の中に避難する。(参考：気象庁HP <http://www.data.jma.go.jp/>)

⑥ 地震発生時の対応

地震発生時は、地震発生時のフローチャート(170頁参照)、各教室にあるアクションカードに従って行動してください。

災害を発見した場合は、防災センターへ第1報を入れてください。

(学内内線番号「55555」又は「0561-62-3311」)

・まず身を守る

棚など倒れやすいものから離れ、落下物に注意する。窓ガラス等割れたりするものから離れる。机の下にもぐるか、バック・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を保護する。強固なものにつかまり揺れがおさまるのを待つ。



・自分自身と周囲の負傷者確認

負傷者がいる場合は、周囲の協力を得ながらある物で応急手当を行う。

・避難経路の確保

非常口やドア等を開けて避難経路を確保する。

・避難可否の判断

学内・実習先の場合は、教職員・実習指導者の指示に従う。

建物の安全を確認する。(落下物、建物の傾き・ひびなど)

建物外の安全を確認する。(落下物、液状化など)

・避難場所への移動(171頁参照)

余震の可能性もあるため、慌てず行動する。

学内では、第1～3避難場所に避難する。

実習先では、指定の避難場所に避難する。(実習開始時に確認する)

エレベーターは使用せず、階段で避難する。

火災があれば初期消火に努める。

・安否の確認

避難場所では、点呼によって安否を確認し、教職員・実習指導者に報告する。

セコム安否確認メールに送信する。

・帰宅判断

地域の被災状況と公共交通機関の確認を行い、二次災害の危険性がないか検討し、帰宅の判断を行う。

帰宅可能な場合は、二次災害に注意し、帰宅する。帰宅後は、帰宅できたかどうかセコム安否確認メールに送信する。

災害時の歩行速度は約2.5 km/時といわれている。大学から自宅までの距離が20km 以上あり、徒歩による帰宅に8時間以上かかる状況を帰宅困難とする。帰宅困難な場合は、学内・実習先待機とし、教職員・実習指導者の指示に従う。

・授業再開

授業再開の連絡については、大学からの連絡を待つ。地震後の通学開始時は、安全な通学路・方法を選択し通学する。

⑦ 通学中・自宅での地震発生時の対応

通学中の場合は、周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。地域の被災状況を確認してから帰宅可能かどうか判断する。事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。被災場所やその場の状況によっては、安全を最優先し別の避難場所に移動する。安否確認は、セコム安否確認メールに送信する。

自宅の場合は、身の安全を確保し、家族・地域の被災状況を確認する。事前に家族と相談して決めた避難場所に避難する。安否確認は、セコム安否確認メールに送信する。

⑧ 災害時の避難場所

・避難場所

災害時は自分の身を確保した後、教職員の指示のもと、最寄りの避難場所に移動する。

避難場所は学内に3か所あります。

第1 避難場所 (大学本館西側の芝生部分)

第2 避難場所 (野球場)

第3 避難場所 (ヘリポート周辺)

なお、実習中は、実習先の災害対策マニュアル準じ、各自でも実習施設近隣の避難場所を確認する。

・避難場所への移動 注意事項 (学内)

講義室、実習室等で講義中の場合は、教員の指示に従って、速やかに机の下等で身を守る姿勢をとる。またはカバン等で頭を守る。

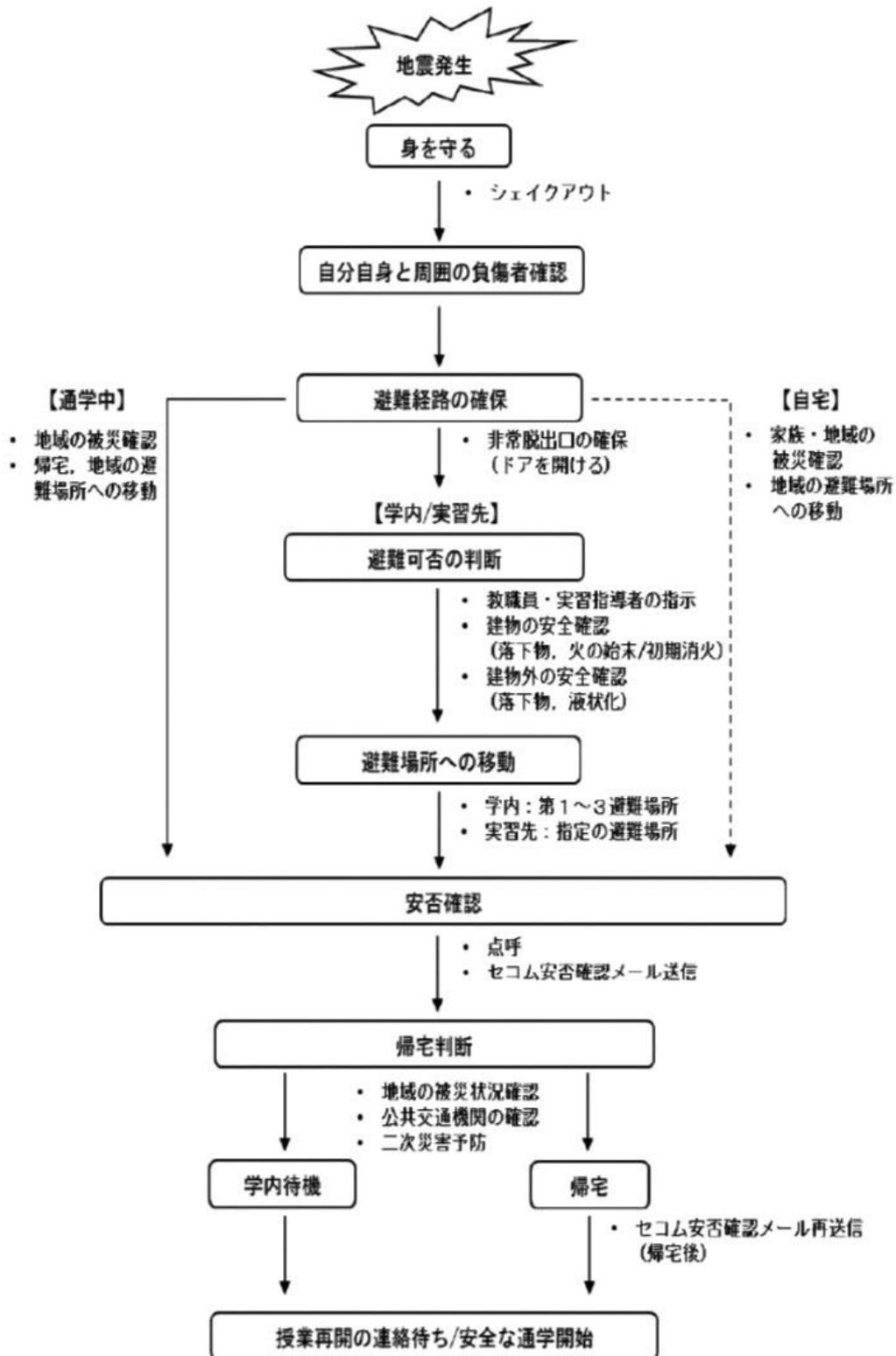
エレベーターは使用せず、階段で避難する。

廊下等通行中、破損したガラス等、地面の液状化に注意し、周囲を確認しながら、落ち着いて避難する。

階段や渡り廊下通行時は、天井等、建物が落下する恐れがあるため、頭を守りながら、避難する。

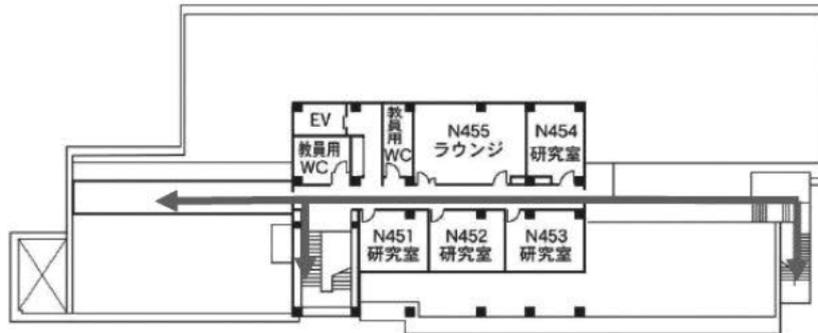
火災などがある際は、煙を吸わないようにタオル等で口を覆う。

地震発生時の対応フローチャート

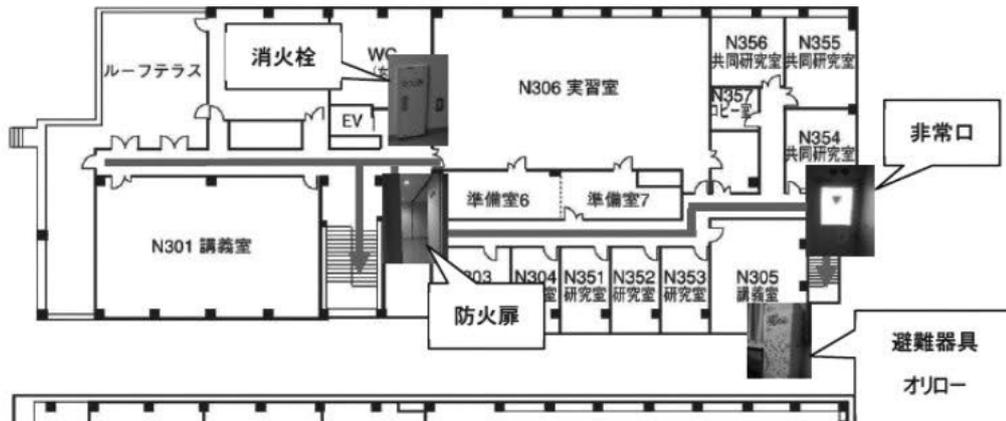


⑨ 4号館（看護学部棟）避難経路，防災設備・備品等

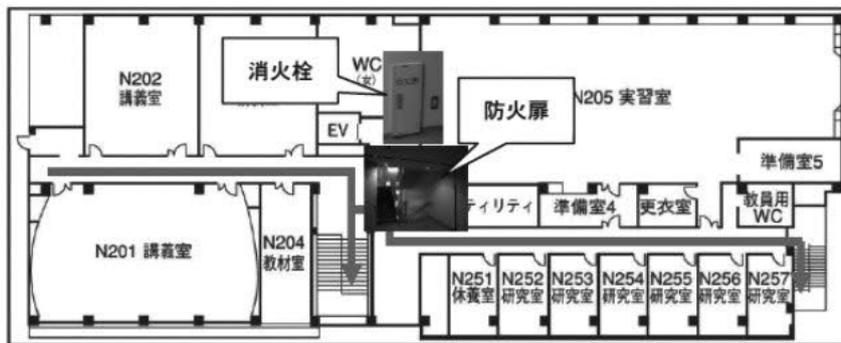
○ 4 F



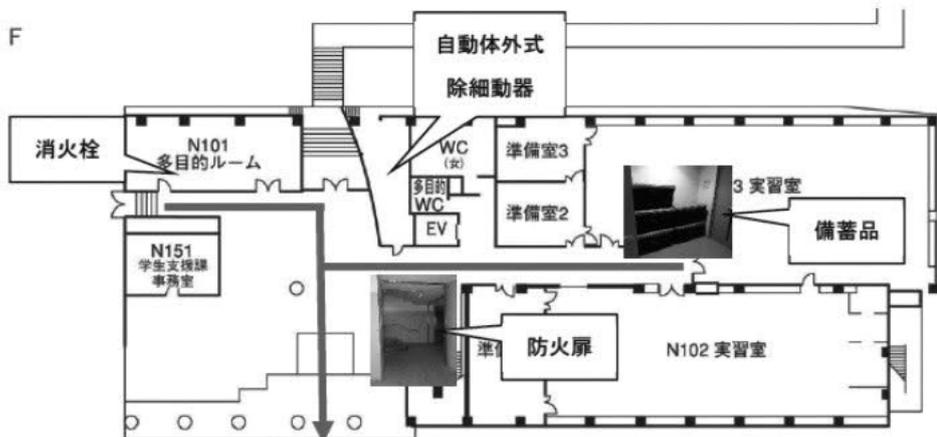
○ 3 F



○ 2 F



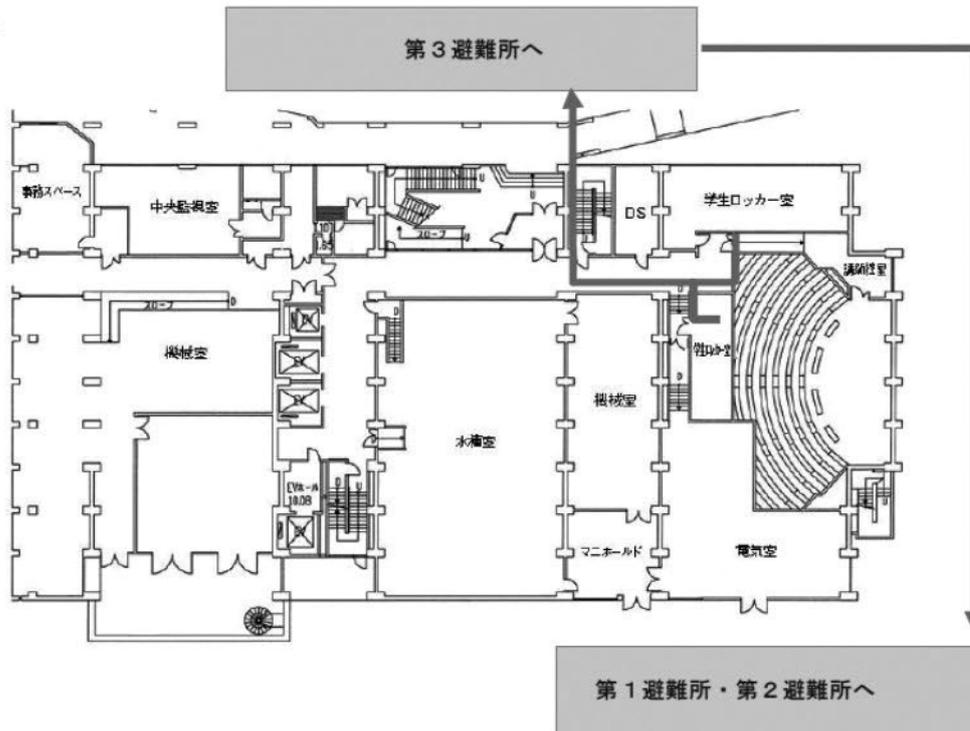
○ 1 F



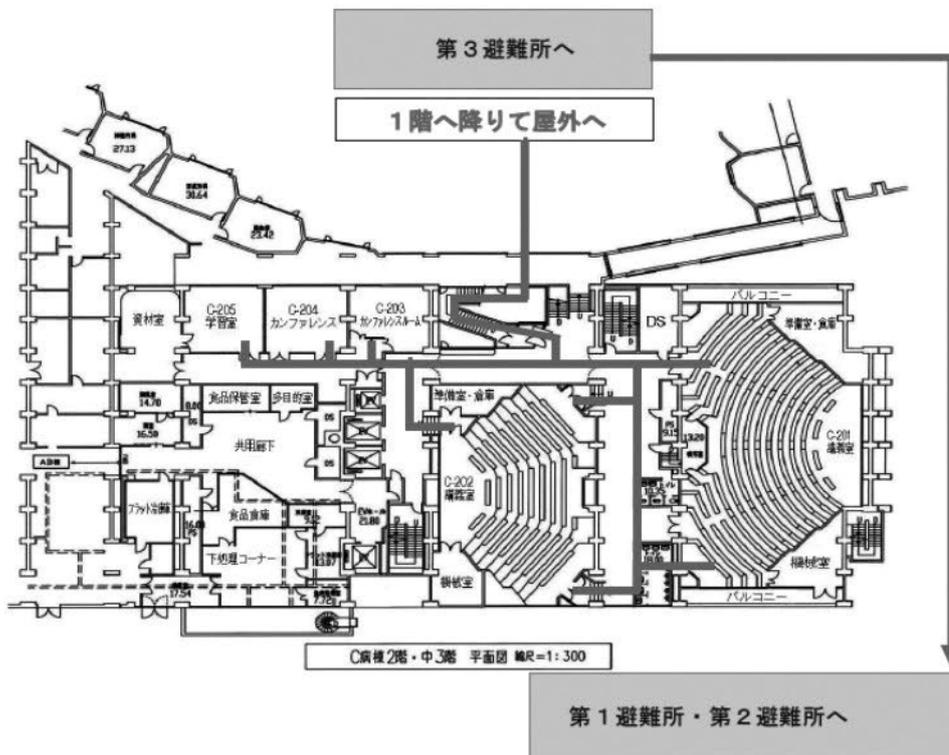
第1避難場所・大学本館西側芝生広場へ
点呼後，第2避難場所・野球場へ

⑩ C棟避難経路

○1F



○2F



⑪ 災害発生時の大学への安否伝達

地震等の災害発生時に安否確認作業を迅速かつ確実に実施するため、安否確認システムを導入しています。緊急時には、あらかじめ登録したメールアドレス宛てにセコムから安否確認メールが送信されるため、安否確認メールを返信ください。また、万一に備えて、日頃から家族との連絡方法や避難場所など確認してください。

セコム安否確認システム登録

災害等が発生した場合、大学に安否状況を報告する必要があります。以下の方法で、安否確認システムに登録してください。

① 安否確認システムにアクセス

インターネットで「セコム 安否確認」で検索後、「e-革新 | ログインページ」を選択

② 「企業コードとパスワード」：623311, 「ユーザーID」：学籍番号を入力

③ 「メニュー」→「アカウント管理」→「パスワード変更」をクリック→ 「パスワードを変更する」をクリック

④ 「本人情報」の画面へ移動するので、最下段の、「本人情報を変更する」をクリック

⑤ 必要事項の入力後、「本人情報を変更する」をクリック

※連絡先のメールアドレス1に大学の個人アドレスを入力（2は入力しない）

⑥ 「メールアドレスが更新されました。」のメッセージ表示後、「OK」をクリック

⑦ アドレス確認メールが受信できれば登録完了です。

※登録したアドレスにアドレス確認メールが届かない場合は、登録できていないので必ず確認すること。



セコム安否確認メール送信

災害等発生時には大学から安否確認メールが送信される。受信した場合は、安否情報を入力し、速やかに返信すること。

震度5強以上で、大学からメールが届かなかった場合は、自主的に「安否確認情報メール」を送信する。送信内容に変更が生じた場合は、その都度送信する。

安否情報が送信できない場合は、セコム安否確認システムの「e-革新 | ログインページ」から、安否状況を入力すること。

大規模災害時のサービス

「災害用伝言ダイヤル171」

① 伝言を録音する：171（ダイヤル）+ 1（登録入力）+ 電話番号（市外局番から）

② 伝言を再生する：171（ダイヤル）+ 2（伝言再生）+ 電話番号（市外局番から）

「災害用伝言板WEB171」

伝言の登録・閲覧方法 <https://www.web171.jp/>

電話番号（市外局番から）登録後に、文字による伝言を登録・閲覧してください。

施 設 案 内

1 シミュレーションセンター

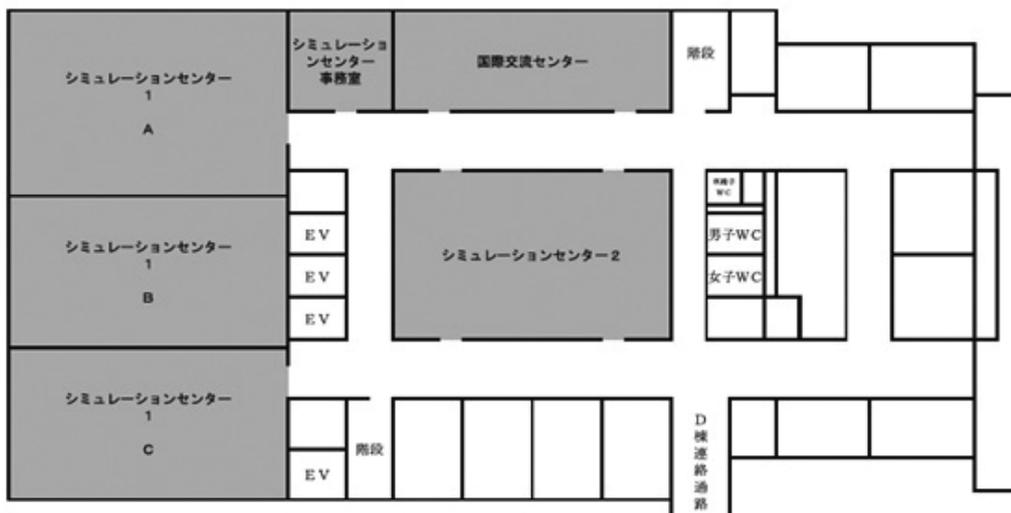
シミュレーションセンター（1・2：C棟6階，3：C棟8階）では，基本的な診察，処置，治療，ケアのトレーニングを目的としたシミュレーターや機材を備えています。医学生，看護学生，医療従事者すべてを対象とし，実践力向上を目標とした学習シナリオを提供しています。個人グループ学習にも使用できます。授業以外の使用は予約制ですので，シミュレーションセンターに連絡してください。シミュレーションセンターへ移動の際は，CD棟連絡通路を利用してください。

2 国際交流センター

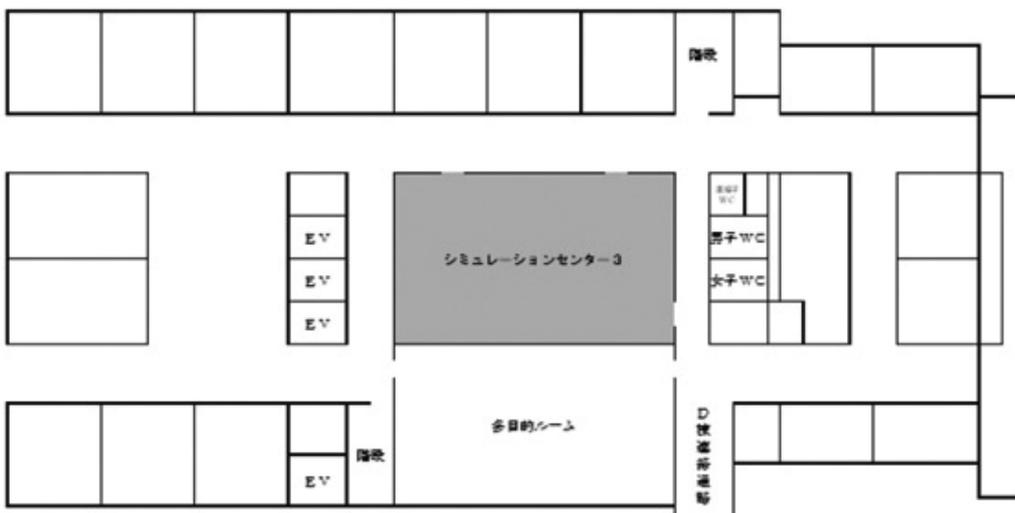
国際交流センターは，医学部の学術国際交流協定大学（南イリノイ大学（アメリカ），コンケン大学（タイ），ルール大学（ドイツ）各医学部，東亜大学校医科大学（韓国），ウッチ医科大学（ポーランド），バーモント大学（アメリカ））との交流（派遣，受入れ）や，外国人研究者への支援など国際交流活動全般を扱い，学生などが行う国際交流活動を幅広く支援しています。

国際交流に関する情報の提供，語学能力向上に関する各種セミナー等を開催していますので積極的に利用してください。

C棟6階配置図



C棟8階配置図



3 総合学術情報センター（図書館部門）

(1) 図書館について

総合学術情報センター（図書館部門）は、大学本館5階・6階にあります。学術情報の流通に寄与するため、国内外の様々な学術情報を収集し、提供を行っています。

(2) 主な図書館サービスについて

① 開館時間

月～金 8:30～22:00 土・日・祝日 10:00～18:30（災害等により変更有）

② 資料の貸出・返却，複写，取り寄せ

1) 5階カウンターに、自動貸出返却装置を設置しており、図書の貸出と返却を行うことができます。また、休館・閉館時には、図書館入口前設置のブックポストに資料を返却することができます。

マイライブラリから貸出中の資料の確認や図書の貸出延長(1回のみ)を行うことができます。

※ マイライブラリURL <https://www.opac.aichi-med-u.ac.jp/opac/user/login>

2) 貸出冊数・貸出日数 図書：5冊・2週間，雑誌：冊数制限なし・3日

3) 図書館所蔵の資料は、著作権の範囲内で複写できます。館内専用のコピーカードを5階カウンターで購入し利用してください。

4) 所蔵していない資料は、他機関から取り寄せをすること（相互貸借）ができます。マイライブラリから申請を行うことができますが、有料となります。

③ 電子リソースの利用

CINAHL, 医中誌Web等のデータベースや電子ジャーナル, 電子ブックを利用することができます。総合学術情報センター内のパソコンの他, 情報基盤部門に申請した情報機器(パソコン, スマートフォン, タブレット等ネットワーク接続をして利用する機器)であれば, 無線LANサービスの利用できる場所からアクセスできます。また, 電子リソース学外アクセスシステムである「EZproxy」にサインインすることにより, 自宅等学外からもアクセスできます。

④ グループ学習室

予約制です。5階カウンターにお問い合わせください。

⑤ 図書館の利用方法及び専門的レファレンスサービス

図書館には, 診療ガイドライン作成に係る等, 高度な技術を有する司書が在席しており, 専門的な支援を受けることができます。専門的な支援は, 月曜日～金曜日の17時15分までとなります。

(3) 利用における留意事項

① 入退館及び図書等の貸出には学生証（科目等履修生は図書館利用券）が必要です。

② 地域住民, 患者さん等, 学外の方々も図書館を利用します。利用マナーを守ってご利用ください。図書館職員及び司書の指示に従わない場合は, 図書館利用を制限する場合があります。

③ 貴重品管理は各自の責任です。

④ 体調不良等の緊急時には, 館内設置の緊急呼び出しボタンを使用してください。



4 総合学術情報センター（ICT支援部門）

(1) ICT支援部門について

ICT支援部門では、eラーニングの操作・活用支援を行っています。

eラーニングシステム【AIDLE-K】：パソコンやスマートフォンのwebブラウザで利用できる教育・学習システム。講義資料の配布，レポート提出，小テストの実施など，教育の補助システムとして利用します。

(2) アクセス方法

AIDLE-K：学生ポータルサイトKINKAN→授業支援システム(AIDLE-K)へ，又は直接アドレスを入力してアクセスする。(https://aidle-k.aichi-med-u.ac.jp)

(3) 窓口受付時間

月～金 9：00～17：15（12：00～13：00を除く。）

土・日・祝日及び年末年始は利用できません。

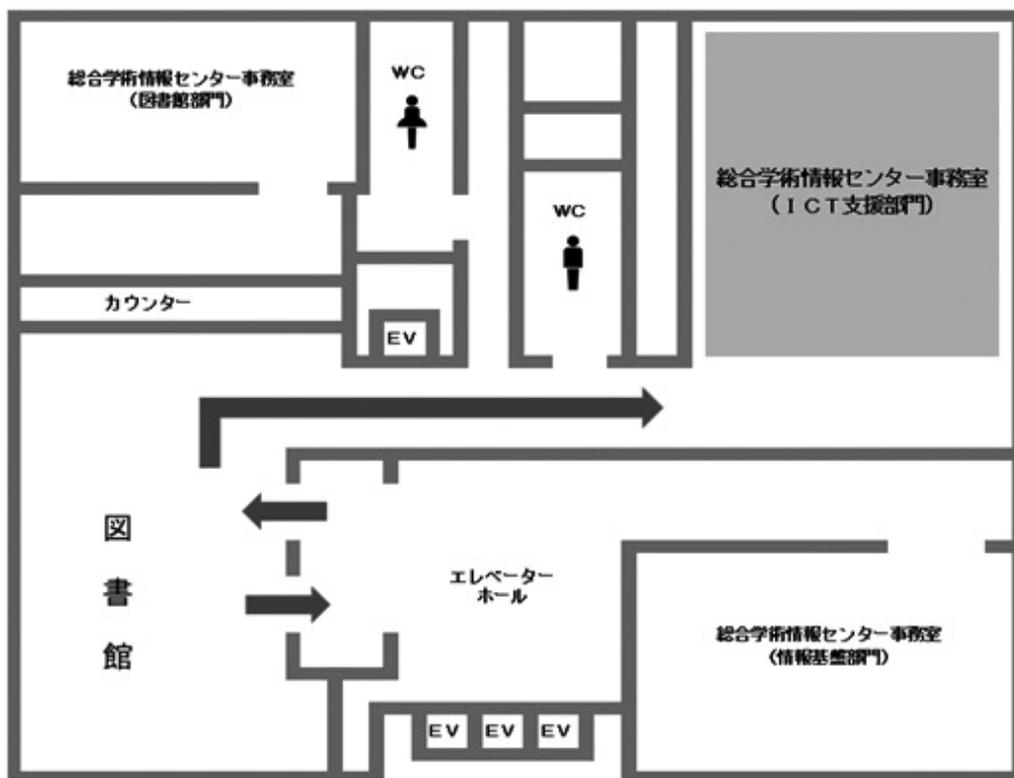
(4) 利用における留意事項

① 相談受付は1件ずつとなるため，窓口での受付が重なる場合はお待ちいただくことがあります。

② メールでの相談も受け付けています。

（メールアドレス：sec2815@mail.aichi-med-u.ac.jp）

大学本館5階（事務室は図書館内にあります。一度図書館に入り，お進みください。）



5 総合学術情報センター（情報基盤部門）

情報基盤部門は、情報関連及び語学関連の授業のほか、以下のような主なサービスを自主学習等に利用できます。

- ・ マルチメディア教材（動画，静止画，音声）
- ・ 電子（web）メール
- ・ ホームページ閲覧
- ・ 各種教材データベースの検索
- ・ 文書作成
- ・ 表計算
- ・ プレゼンテーション作成

(1) 利用時間

月～金曜日 9:00～18:00

※ 利用時間を変更する場合があるため、受付前の案内板等を確認してください。

※ 土・日・祝日と年末年始は利用できません。

(2) 利用における留意事項

- ① 端末（パソコン）を利用するためには学生証が必要です。
- ② パスワードは自己の責任で管理してください。
- ③ パスワードには、有効期限がありますので、定期的に変更してください。
- ④ マナーを守り、全ての人が快適な時間を過ごせるよう配慮してください。
- ⑤ 貴重品管理は各自の責任です。十分に注意してください。
- ⑥ 飲食物の持込，携帯電話の使用，ソフトウェアのインストール，荷物による場所取り等の他人への迷惑となる行為は禁止します。
- ⑦ 印刷枚数は制限されています。
- ⑧ 利用方法等不明な点は，受付にて相談してください。



※サインインID及び
パスワードは別途通知します。



6 運動療育センター

運動療育センター(以下、「センター」と表記)は、運動処方及び運動生理に関する教育・研究を行い、医学的、科学的見地から多面的に健康人や半健康人の疾病予防、健康保持増進のための健康度測定、指導等を通して健康づくりに寄与することを目的として設置され、トレーニングルームが設備されています。

(1) 開館時間

月～金曜日 8：30～19：30

土・日曜日 8：30～16：30

木曜日・祝日〔休館日〕

※ 年末年始その他施設メンテナンス・入試等により休館となる場合があります。

また、日曜日と祝日が重なった場合には、当該日曜日は開館します。

(2) 利用料金

本学学生は、無料です。ただし、大学院生は有料です。なお、センターの利用に当たり、第1学年時の健康診断結果を持参してください。また、健康診断の結果によってはセンターで心電図検査を受けていただきます。その結果と既往症等により運動療法コースとなる場合もあります。この場合はメディカルチェックの受診が必要となるため、所定の料金を徴収します。

(3) センターの利用に当たっては、次の項目を遵守してください。

- ① 運動療育センターが定める新型コロナウイルス感染予防対策を遵守し、スタッフからの指示に従うこと。
- ② センターにおける会員登録及び登録後の運動指導(1回)が必要です。これを満たさない者の利用は許可しません。希望者は必ず所定の手続を行うこと。
- ③ メディカルチェック、運動指導は予約制となっているため、事前にセンター受付に申し出て予約すること。
- ④ 会員登録時やメディカルチェック予約時には、学生証を提示すること。
- ⑤ 施設利用時には、会員カードを必ず持参し、入退館時に受付処理をすること。
- ⑥ センターは一般の方や疾病者等も利用する施設です。施設利用に当たっては、職員の指示に従い、他の方の迷惑にならないよう医科大学学生として節度ある行動に心掛けること。ルールを守らない場合は利用を禁止する場合があります。併せて、教務課に学籍番号及び氏名を報告します。
 - ※ トレーニングルーム利用時には、トレーニングウェア、トレーニングシューズ(上履)を着用し、順番等を守って各種器具等を利用すること。
 - ※ 更衣室内では大声で会話しない。荷物を椅子等の上に放置せず、ロッカーに収納すること。また、洗面台にゴミ等を置き去りにしない。
 - ※ センター施設内で寝そべる等の行為は禁止する。
- ⑦ 営業中にクラブ活動のためにセンター施設を一部占有して利用する場合には、事前に代表者がセンター受付へ申し出て日程等を調整すること。
- ⑧ 部活動等で同一時間に5名以上の集団で入場しないこと。
- ⑨ その他、センターの利用に当たっての変更等がある場合には、随時掲示等により通知するので注意すること。

7 保健管理センター

(1) 保健管理センターについて

愛知医科大学の学生が健康な状態で大学生活を送るとともに、在学中に生涯を通じて心身の健康を自己管理できる能力を身に付けられるよう援助すること、並びに職員の教育・研究・診療に係わる活動が実り多いものになるよう、健康の保持増進、疾病の予防を図ることを目的とする施設です。さらに、健康診断をはじめとする保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査、研究を行います。

(2) 利用案内

健康相談、健康指導及び軽症患者に対する応急処置、受診指導

(3) 対 象

医学部及び看護学部の学生、職員全般

(4) 利用時間

月曜日～金曜日 9：00～17：00

※土・日・祝日と年末年始は利用できません。

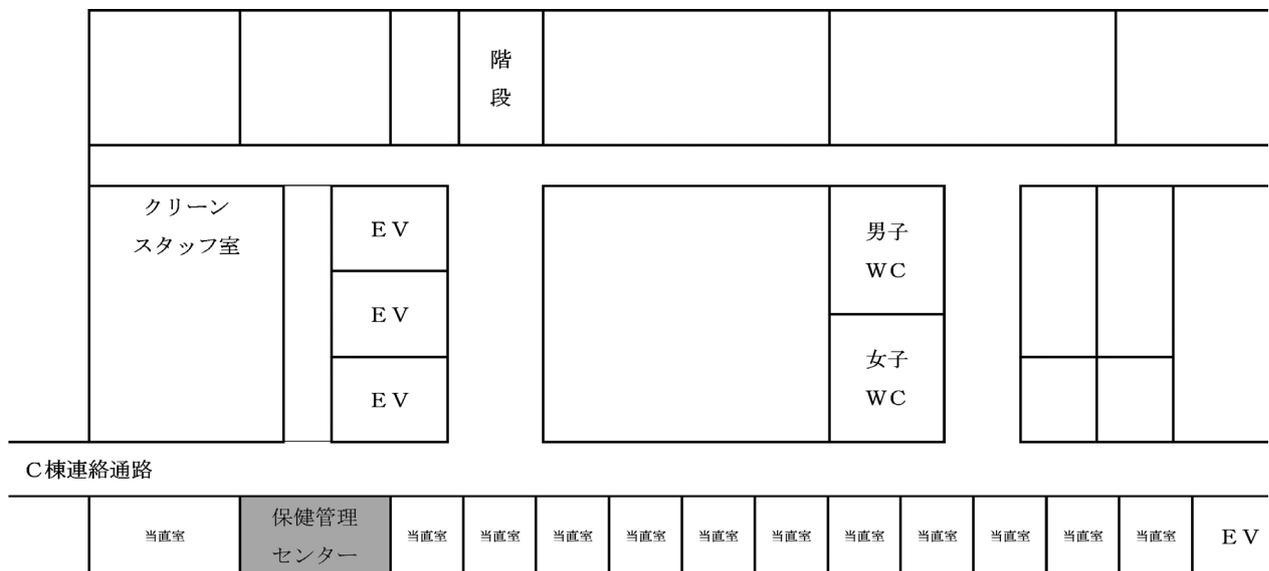
※常駐看護師が不在の場合は、入口ドアに掲示してある事務連絡先へお問い合わせください。

(5) 場 所

D棟6階

※室内に応対・簡易処置（簡易ベッド1台）・事務スペースがあります。

D棟6階配置図



8 その他の施設

(1) 飲食施設

大学(大学病院を含む。)には、3つの飲食施設があります。患者さんや職員も利用しますので、マナーを守って利用しましょう。

名 称	営 業 時 間	
レストラン「オレンジ」 (1号館(大学本館)1階)	平 日	8:00～17:00
	土曜日	11:00～15:00
	日曜・祝日	休 業
外来レストラン「シトラス」 (病院中央棟2階)	平 日	7:30～18:00
	土曜・日曜・祝日	10:00～17:00
喫茶「カフェ・ド・クリエ」 (病院中央棟2階)	平 日	7:00～21:00
	土曜・日曜・祝日	8:00～19:00
スガキヤ (アメニティ棟2階)	平 日	11:00～18:00
	土曜日	11:00～15:00
	日曜・祝日	休 業
CoCo壺番屋 (アメニティ棟2階)	平 日	11:00～18:00
	土曜日	11:00～15:00
	日曜・祝日	休 業
ピザ アクア (アメニティ棟2階)	平 日	8:00～17:00
	土曜日	11:00～15:00
	日曜・祝日	休 業
スターバックスコーヒー (アメニティ棟横)	年中無休	7:30～21:00

1. ■■■：年中無休
2. 年末年始(12月29日～1月3日)休業 ※スターバックスコーヒーを除く
3. 営業日及び営業時間は諸事情により変更される場合があります

(2) 売店

名 称	営 業 時 間	
セブン-イレブン [書籍・宅配コーナー併設] (病院中央棟2階)	平 日	7:00～22:00
	土曜・日曜・祝日	8:00～20:00
生花店「リアン」 (病院中央棟2階)	平 日	9:00～17:00
	土曜・日曜・祝日	休 業
セブン-イレブン (アメニティ棟1階)	平 日	7:30～19:00
	土曜・日曜・祝日	9:00～17:00
医療売店「アルフレッサ」 (病院中央棟2階)	平 日	9:00～17:00
	土曜・日曜・祝日	休 業
福祉用具「ヤガミホームヘルスセンター」 (病院中央棟2階)	平 日	9:00～17:00
	土曜・日曜・祝日	休 業

1. ■■■：年中無休
2. 年末年始(12月29日～1月3日)休業 ※セブン-イレブン(病院中央棟2階)を除く
3. 営業日及び営業時間は諸事情により変更される場合があります

(3) その他

名 称		営 業 時 間	
丸善 (1号館(大学本館)1階)		平 日	10:00 ~ 16:00
		土曜・日曜・祝日	休 業
		※休業：学年歴の休業期間中	
愛知医大病院内簡易郵便局 (病院中央棟2階)		平 日	9:00 ~ 16:00
		土曜・日曜・祝日	休 業
ATM (病院中央棟2階)	簡易郵便局	平 日	9:00 ~ 17:00
		土曜日	9:00 ~ 12:30
		日曜・祝日	休 業
	三菱UFJ銀行	平日・土曜日	8:00 ~ 18:30
		日曜・祝日	休 業
	瀬戸信用金庫	平日・土曜日	8:00 ~ 18:30
日曜・祝日		休 業	
理容店・美容店 「ヘアーサロンモモタロー」 (病院中央棟2階)		平 日	8:30 ~ 17:00
		土曜日	10:00 ~ 16:00
		日曜・祝日	休 業

1. 年末年始(12月29日～1月3日)休業。
2. 営業日及び営業時間は諸事情により変更される場合があります

關係規則等

愛知医科大学大学院学則

第1章 総 則

(目的)

第1条 愛知医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己点検及び評価)

第2条 本大学院は、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

(研究科、専攻及びその目的)

第3条 本大学院に次の研究科及び専攻を置く。

(1) 医学研究科

基礎医学系専攻

臨床医学系専攻

(2) 看護学研究科

看護学専攻

2 各研究科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 医学研究科 国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること。

(2) 看護学研究科修士課程 卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践職業人を養成すること。

(3) 看護学研究科博士後期課程 専門的かつ高度な研究遂行能力を有する自立した研究者及び高度な看護実践能力と高い研究・管理能力を有する臨床現場の変革者を養成すること。

(課程)

第4条 医学研究科の課程は博士課程とし、看護学研究科の課程は、修士課程及び博士後期課程とする。

(学年)

第4条の2 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第4条の3 学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合は、第8条第1項の研究科委員会の議を経て、前学期の終了日及び後学期の開始日を変更することができる。

(休業日)

第4条の4 休業日（授業を行わない日）は、次の各号のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 土曜日

(3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(4) 開学記念日 11月3日

(5) 春季休業 3月21日から4月3日まで

(6) 夏季休業 8月1日から9月30日まで

(7) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合は、第8条第1項の研究科委員会の議を経て、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

(修業年限及び在学年限)

第5条 修業年限は、次のとおりとする。

- (1) 医学研究科 4年
- (2) 看護学研究科修士課程 2年
- (3) 看護学研究科博士後期課程 3年

2 在学年限は、次の年限を超えることができない。

- (1) 医学研究科 8年
- (2) 看護学研究科修士課程 4年
- (3) 看護学研究科博士後期課程 6年

(長期にわたる教育課程の履修)

第5条の2 学生が、職業を有している等の事情により、前条に定める修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを申し出たときは、学長の定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

(収容定員)

第6条 収容定員は、次の表のとおりとする。

研究科	課程	専攻名	入学定員	収容定員
医学研究科	博士課程	基礎医学系専攻	13	52
		臨床医学系専攻	17	68
	計		30	120
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	15	30
	博士後期課程	看護学専攻	4	12
	計		19	42

(研究科長)

第7条 研究科に研究科長を置く。

2 研究科長候補者は、当該研究科の研究指導教授（以下「指導教授」という。）の中から次条第1項の研究科委員会において選考する。

3 研究科長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(研究科委員会)

第8条 各研究科に、研究科委員会（以下この条において「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、当該研究科の研究科長（以下単に「研究科長」という。）及び指導教授をもつて構成する。

3 看護学研究科委員会には、前項に掲げる者のほか、当該研究科の研究指導を行う教授、准教授又は講師を加えることができる。

4 委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、委員会の意見を聴くことが必要な

ものとして学長が定めるもの

5 前項第3号の事項を学長が定めるにあたっては、委員会の意見を聴いて参酌するよう努めるものとする。

6 委員会は、第4項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下、この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

7 委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会の議を経て、研究科長が定める。

（大学運営審議会）

第8条の2 各研究科に共通する重要な事項は、大学運営審議会（以下「審議会」という。）で審議する。

第2章 教育方法等

（教育方法）

第9条 本大学院の教育は、所定の科目の授業及び研究指導等によつて行う。

（教育方法の特例）

第9条の2 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（授業科目及び履修方法）

第10条 授業科目及び単位数並びにその履修方法は、当該研究科の研究科委員会（以下「当該委員会」という。）の議を経て、研究科長が定める。

（履修科目の選定及び届出）

第11条 履修する授業科目の選定は、指導教授の承認を得て研究科長に届け出るものとする。

（他の分野の授業科目等の履修）

第12条 指導教授が研究指導上必要と認めるときは、当該委員会の議を経て、他の専攻分野の授業科目等を履修させ、これを課程修了の要件となる単位として認めることができる。

（入学前の修得単位）

第12条の2 本大学院において教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、当該委員会の議を経て、課程修了の要件となる単位として認めることができる。

2 前項により認めることができる単位数は、転入学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、また、次条第4項（第12条の5第4項において準用する場合を含む。）により認めることができる単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

（他の大学院における授業科目の履修）

第12条の3 学生は、学長の許可を得て、他の大学院の授業科目を履修することができる。

2 前項の場合において、学生は、所定の願い書を指導教授を経由して学長に提出するものとする。

3 前項により願い出があつた場合は、学長はあらかじめ当該他大学院と必要な事項について協議し、これを許可する。

4 第1項の規定により履修した授業科目について、学生が修得した単位は、当該委員会の議を経て、15単位を超えない範囲で課程修了の要件となる単位として認めることができる。

（他の大学院等における研究指導）

第12条の4 学生は、学長の許可を得て、他の大学院、研究所等（以下「他大学院等」という。）において必要な研究指導を受けることができる。

- 2 前項の場合において、学生は、所定の願い書を指導教授を経由して学長に提出するものとする。
- 3 前項により願い出があつた場合は、学長はあらかじめ当該他大学院等と必要な事項について協議し、これを許可する。

(留学)

第12条の5 学生が外国の大学院において授業科目の履修を志願するときは、学長の許可を得て留学をすることができる。

- 2 学生が外国の大学院、研究所等において研究指導を受けることを志願するときは、学長の許可を得て留学をすることができる。
- 3 前2項による留学の期間は、課程修了の要件としての在学期間に含めることができる。
- 4 第12条の3第2項から第4項までの規定は、第1項の留学について準用する。
- 5 第12条の4第2項及び第3項の規定は、第2項の留学について準用する。

第3章 試験、課程の修了要件及び学位

(試験)

第13条 専攻分野の正規の授業を受け、所定の科目を履修した者に対し、所定の期間内に試験を行う。

- 2 試験の実施方法等については、当該委員会の議を経て、研究科長が定める。

(追試験)

第14条 疾病その他止むを得ない事由によつて試験を受けられなかつた者は、追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第15条 第13条の規定に基づく試験の成績は、優、良、可又は不可とし、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

(単位の認定)

第16条 前条の規定により試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 授業科目の単位は、医学研究科においては、原則として、前半の2年において修得するものとする。

(課程の修了要件)

第17条 課程の修了要件は、原則として、次のとおりとする。ただし、看護学研究科修士課程において、教育の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもつて学位論文の審査に代えることができる。

- (1) 医学研究科博士課程 4年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
 - (2) 看護学研究科修士課程 2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
 - (3) 看護学研究科博士後期課程 3年以上在学し、所定の授業科目を18単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
- 2 前項本文の規定にかかわらず、極めて成績の優秀な者で所定の要件を満した場合は、医学研究科博士課程においては3年以上、看護学研究科修士課程においては1年以上、看護学研究科博士後期課程においては2年以上の在学年数とすることができる。

(入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮)

第17条の2 前条の規定にかかわらず、第12条の2第1項の規定により本大学院に入学する前に修得し

た単位を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の医学研究科又は看護学研究科修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、看護学研究科修士課程については、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。

(学位論文の提出及び最終試験)

第18条 学位論文は、在学期間中に学長に提出し、最終試験を受けるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、医学研究科においては4年以上、看護学研究科修士課程においては2年以上、看護学研究科博士後期課程においては3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、本大学院退学後においても、当該委員会の許可を得て学位論文を提出し、最終試験を受けることができる。

3 最終試験は、学位論文を中心としてこれに関連ある授業科目について行う。

(学位論文の審査等)

第19条 学位論文及び最終試験は、当該委員会において審査の上、可否を決定する。

2 学位論文の審査その他の学位に関する必要な事項は、愛知医科大学学位規程（以下「学位規程」という。）の定めるところによる。

(学位の授与)

第20条 学位規程の定めるところにより、医学研究科博士課程を修了した者には博士（医学）の学位を、看護学研究科修士課程を修了した者には修士（看護学）の学位を、看護学研究科博士後期課程を修了した者には博士（看護学）の学位を授与する。

(博士課程によらない学位授与)

第21条 医学研究科博士課程を経ない者又は修了しない者についても、学位規程の定めるところにより、学位論文を提出し、その審査及び試験に合格した者には、博士（医学）の学位を授与する。

第4章 入 学

(入学期)

第22条 入学期は、毎学年の始めとする。

(入学資格)

第23条 本大学院に入学することのできる者は、次に掲げる者とする。

(1) 医学研究科においては、次のアからエまでのいずれかに該当する者

ア 大学の医学部医学科、歯学部又は修業年限が6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者

イ 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学の学部）を修了した者

ウ 文部科学大臣の指定した者

エ 本大学院において、個別の入学資格審査により、アに掲げる者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(2) 看護学研究科修士課程においては、次のアからクまでのいずれかに該当する者

ア 大学を卒業した者

イ 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者

- ウ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - エ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - オ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - カ 文部科学大臣の指定した者
 - キ 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもつて修得したものと本大学院において認められた者
 - ク 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの
- (3) 看護学研究科博士後期課程においては、次のアからクまでのいずれかに該当する者
- ア 修士の学位又は専門職学位を授与された者
 - イ 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ウ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - エ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - オ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - カ 外国の学校、(エ)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - キ 文部科学大臣の指定した者
 - ク 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学出願手続)

第24条 本大学院に入学を志願する者は、入学願書に入学検定料3万円及び別に指定する書類を添えて、指定する期日までに提出しなければならない。

(入学許可)

第25条 学長は、前条に規定する入学志願者につき、当該委員会の定めるところにより選考の上、合格者を決定し、入学を許可すべき者を定める。

(入学手続)

第26条 前条の合格者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、かつ、医学研究科においては入学金20万円及び第1学年前学期の学納金を、看護学研究科修士課程及び博士後期課程においては入学金30万円及び第1学年前学期の学納金を納入しなければならない。

2 正当な理由なく前項の手続きをしない者は、入学を許可しない。

(既納金の返還)

第27条 入学手続を完了した者で、指定の期日までに所定の様式の入学辞退届け出書を提出し、入学時納付金の返還を申し出た者には、入学時納付金のうち入学金を差し引いた額を返還する。

(再入学)

第28条 本大学院を退学した者で、再入学を願い出た者については、欠員のある場合に限り、選考の上、許可することがある。

(転入学)

第28条の2 他の大学の大学院に在学している者が転入学を志願するときは、所定の様式による転入学願い書により学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の場合において、学長は、当該委員会の議を経て、これを許可する。

3 転入学を許可された者の在学すべき年数及び履修すべき単位数は、当該委員会の議を経て学長が決定する。

第5章 休学、退学等

(休学)

第29条 学生が、傷病その他の事由により3月以上修学を休止しようとするときは、所定の様式の休学願い書に学校医若しくは本学の指定する医療機関の医師の診断書又は詳細な理由書を添え、学長に休学を願い出て、その許可を受けなければならない。

2 休学中の学生が、引き続き休学をしようとするときは、休学期間の満了する前に改めて前項の願い出をし、その許可を受けなければならない。

3 学長は、前2項により提出された願い書について、その事由が適当であると認めた場合は、その期間を定め、これを許可する。ただし、休学を許可する期間は、当該年度を超えて定めないものとする。

4 学長は、傷病その他の事由のため修学することが適当でないと認める者に対しては、期間を定め、休学を命ずることができる。

5 休学期間は、医学研究科においては通算して4年を、看護学研究科修士課程においては通算して2年を、看護学研究科博士後期課程においては通算して3年を超えることができない。

6 休学期間は、第5条第1項の修業年限及び同条第2項の在学年限に算入しない。

7 前各項に定めるもののほか、学生の休学に関し必要な事項は、学長が定める。

(復学)

第30条 前条第3項により休学を許可された者は、休学期間が満了したときは、所定の様式による復学届け書を学長に提出して復学するものとする。

2 前条第3項により休学を許可された者が休学期間中にその事由がやんだときは、所定の様式による復学届け書を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

3 前条第4項により休学を命ぜられた者が、復学しようとするときは、診断書又は事由書を添付して所定の様式による復学願い書を提出し、学長の許可を受けなければならない。

4 前2項の場合において、学長は、その事由が適当であると認めた場合は、これを許可する。

(退学)

第31条 学生が退学しようとするときは、所定の様式による退学願い書にその事由を詳記して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、傷病による場合には、医師の診断書を添付しなければならない。

(転学)

第32条 学生が他の大学院に転学しようとするときは、所定の様式による転学願い書にその事由を詳記して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(除籍)

第33条 学生が、次の各号に掲げる事由の一に該当した場合は、学長は、研究科長の意見を徴し、審議会の議を経て、除籍する。

- (1) 第5条第2項の在学年限を超えたとき。
- (2) 傷病その他の事由により成業の見込みがないと認められるとき。
- (3) 死亡したとき。
- (4) 1年以上にわたつて行方不明になり、当該学生の保証人又はその代理人からの届け出があつたとき。
- (5) 学納金の納付義務を怠り、督促を受けてもなお納入しないとき。

第6章 学 納 金

(学納金)

第34条 学納金は、次のとおりとする。

医学研究科

学納金	金額 (円)	
授業料	(年 額)	200,000円
教育充実費	(年 額)	100,000円

看護学研究科修士課程

コース	学納金	金額 (円)	
修士論文コース	授 業 料	(年 額)	600,000円
	教育充実費	(年 額)	100,000円
高度実践看護師 (専門看護師[CNS]) コース	授 業 料	(年 額)	600,000円
	教育充実費	(年 額)	100,000円
	実験実習費	(初年度)	50,000円
(2年度以降)		100,000円	
高度実践看護師 (診療看護師[NP]) コース	授 業 料	(年 額)	600,000円
	教育充実費	(年 額)	100,000円
	実験実習費	(初年度)	100,000円
(2年度以降)		200,000円	

看護学研究科博士後期課程

学納金	金額 (円)	
授業料	(年 額)	600,000円
教育充実費	(年 額)	100,000円

(学納金の額の変更)

第35条 学納金の額は、在学中においても変更することがある。

(納付)

第36条 学納金は、その年額を前学期分及び後学期分として等分し、前学期分は4月末日までに、後学期分は10月末日までに納付しなければならない。

(免除)

第37条 学生が、前学期又は後学期を通じて休学を許可された場合は、当該学期分の学納金の納付について、医学研究科においては、授業料を、看護学研究科においては、授業料及び実験実習費を免除することができる。ただし、正課中の事故その他学長が認める特別の事由により前学期又は後学期を通じて休学を許可された場合は、当該学期分の学納金の全部を免除することがある。

2 経済的理由により学納金の納付が困難で、かつ、成績が特に優秀な学生には、授業料の全部又は一部を減免することができる。

3 前項の規定にかかわらず、外国人留学生には、経済的理由により入学金及び学納金の納付が困難である場合に、その全部又は一部を減免することができる。

4 前2項に定める場合のほか、専攻分野、第9条の2の適用の有無等を考慮し、入学検定料、入学金又は学納金の一部又は全部を減免することができる。

(納付猶予)

第38条 学生が、災害その他の止むを得ない事由により第36条に定める納付期限までに授業料を納付することが困難と認められるときは、その前学期分又は後学期分について納付を猶予することができる。

2 前項の規定により納付の猶予の許可を受けようとする者は、事由を詳記した願い書を、第36条に定める納付期限の10日前までに、提出しなければならない。

3 前項により提出された願い書について、学長は、その事由が適当であると認めた場合は、納付の猶予を許可する。

第7章 外国人留学生、特別聴講学生、特別研究学生、大学院研究生

(外国人留学生)

第39条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、外国人留学生として選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人留学生の入学に関し必要な事項は、学長が定める。

(特別聴講学生)

第40条 他の大学院の学生で、本大学院において授業科目を履修し、単位を修得しようとする者があるときは、当該大学院と協議の上、特別聴講学生として履修を許可することができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、学長が定める。

(科目等履修生)

第40条の2 本学の学生以外の者で、1科目又は数科目の授業科目を履修し、単位を修得しようとする者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生の選考方法、履修等に関し必要な事項は、研究科長が定める。

(特別研究学生)

第41条 他の大学院の学生で、本大学院において研究指導を受けようとする者があるときは、当該大学院と協議の上、特別研究学生として受入れを許可することができる。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、学長が定める。

(大学院研究生)

第42条 本大学院において特別の事項について研究しようとする者があるときは、設備の許す限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、学長が定める。

(表彰)

第43条 学生で他の模範となる者については、選考の上、表彰することができる。

(懲戒)

第44条 学生の懲戒については、学長は、研究科長の意見を徴し、審議会の議を経て、これを決定する。

2 前項に定めるもののほか、学生の懲戒に関し必要な事項は、審議会の議を経て学長が定める。

(懲戒の種類、要件)

第45条 懲戒の種類は、訓告、停学及び放学とする。

2 懲戒は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 本大学院の規則に違反したとき。
- (2) 本大学院の秩序を乱したとき。
- (3) 本大学院学生として品位をけがしたとき。
- (4) その他懲戒に値すると認められる行為のあつたとき。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則 (昭和63年4月1日一部改正)

この改正は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年4月1日一部改正)

この改正は、平成元年4月1日から施行する。ただし、この改正は、平成元年度の入学生については、適用しない。

附 則 (平成3年10月1日一部改正)

この学則は、平成3年10月1日から施行する。

附 則 (平成4年2月1日一部改正)

この学則は、平成4年2月1日から施行する。ただし、第20条及び第21条の改正規定は、平成3年7月1日から適用する。

附 則 (平成7年4月1日一部改正)

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年4月1日一部改正)

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年6月1日一部改正)

この学則は、平成12年6月1日から施行する。

附 則 (平成13年1月6日一部改正)

この学則は、平成13年1月6日から施行する。ただし、別表の改正規定は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日一部改正)

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成13年6月1日一部改正）

この学則は、平成13年6月1日から施行する。

附 則（平成14年4月1日一部改正）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年4月1日一部改正）

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成15年5月26日一部改正）

1 この学則は、平成15年5月26日から施行する。

2 この学則による改正後の第37条第3項の規定は、平成15年度に在学する学生から適用する。

附 則（平成16年4月1日一部改正）

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日一部改正）

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年9月1日一部改正）

この学則は、平成16年9月1日から施行する。

附 則（平成16年10月1日一部改正）

この学則は、平成16年10月1日から施行する。

附 則（平成17年6月1日一部改正）

この学則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則（平成18年4月1日一部改正）

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 この学則による改正後の別表第2の規定は、平成18年度看護学研究科入学生から適用する。

附 則（平成18年10月1日一部改正）

この学則は、平成18年10月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日一部改正）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日一部改正）

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この学則による改正後の第3条、第6条及び別表第1の規定は、平成19年度医学研究科入学生から適用する。

3 この学則による改正後の別表第2の規定は、平成19年度看護学研究科入学生から適用する。

附 則（平成20年4月1日一部改正）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年4月1日一部改正）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日一部改正）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年4月1日一部改正）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年4月1日一部改正）

1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

2 この学則による改正後の第6条、第26条、第34条及び第37条の規定は、平成27年度看護学研究科入学生から適用する。

附 則（平成27年4月1日一部改正）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月16日一部改正）

この学則は、平成27年3月16日から施行する。

附 則（平成28年4月1日一部改正）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年4月1日一部改正）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年1月29日一部改正）

この学則は、平成30年1月29日から施行する。

附 則（令和2年4月1日一部改正）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年4月1日一部改正）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和3年4月1日一部改正）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和7年4月1日一部改正）

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

愛知医科大学学位規程

(趣旨)

第1条 愛知医科大学（以下「本学」という。）において授与する学位については、愛知医科大学学則及び愛知医科大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(学位)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とし、次のとおり専攻分野を付記するものとする。

- 一 学士
 学士（医学）
 学士（看護学）
- 二 修士
 修士（看護学）
- 三 博士
 博士（医学）
 博士（看護学）

2 本学の学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

第3条 削除

(課程による者の学位論文等の提出)

第4条 大学院学則第18条第1項により学位論文を提出し、審査を受けようとする者及び大学院学則第18条第2項により当該研究科の研究科委員会（以下「当該委員会」という。）の許可を得て学位論文を提出し、審査を受けようとする者は、次の書類を添え、当該研究科長を経て学長に提出するものとする。

- 一 医学研究科
 - ア 論文審査願
 - イ 論文要旨
 - ウ 履歴書
- 二 看護学研究科
 - ア 論文審査願
 - イ 論文要旨
 - ウ 履歴書

2 前項により提出する学位論文は、1編とする。

3 第1項の学位論文には、参考論文を添付することができる。

(課程による者の課題研究論文等の提出)

第4条の2 看護学研究科において大学院学則第17条第1項ただし書の規定に基づき特定の課題についての研究の成果（以下「課題研究論文」という。）の審査を受けようとする者は、次の書類を添え、看護学研究科長を経て学長に提出するものとする。

- 一 課題研究論文審査願
- 二 課題研究論文要旨

三 履歴書

- 2 前項により提出する課題研究論文は、1編とする。
- 3 第1項の課題研究論文には、参考論文を添付することができる。

(学位論文又は課題研究論文の受理)

第5条 学位論文又は課題研究論文(以下「学位論文等」という。)の受理は、当該委員会の議を経て学長が決定する。

- 2 受理した学位論文等は、当該委員会にその審査を付託する。
- 3 受理した学位論文等は、いかなる事由があっても返付しない。

(審査委員会)

第6条 前条第2項により学位論文等の審査を付託された当該委員会は、構成員の中から3名以上の審査委員を選出し、審査委員会を設ける。

- 2 審査委員会は、必要に応じ、審査委員会の構成員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(審査委員会の任務)

第7条 審査委員会は、学位論文等の審査及び最終試験を行う。ただし、学位論文等の審査の結果が著しく不十分な場合には、最終試験を行わないことがある。

- 2 審査委員会は、学位論文等の提出者に対し、審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(最終試験)

第8条 最終試験は、学位論文等の審査を終了した者に対し、学位論文等を中心としてこれに関連ある科目について、口答又は筆答により行うものとする。

(審査期間)

第9条 学位論文の審査及び最終試験は、学位論文を受理した後1年以内に終了しなければならない。

(審査委員会の報告)

第10条 審査委員会は、学位論文等の審査及び最終試験を終了したときは、それぞれの論文の審査の要旨及び最終試験の成績を、文書をもって当該委員会に報告しなければならない。

- 2 第7条第1項ただし書により最終試験を行わないときは、その旨を文書をもって当該委員会に報告しなければならない。

(当該委員会の議決)

第11条 当該委員会は、前条の報告に基づき、課程修了の可否につき議決する。

(課程によらない者の学位授与の申請)

第12条 大学院学則第21条による博士の学位を請求しようとする者は、学位申請書に学位論文、論文要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書及び研究歴証明書並びに学位審査手数料を添え、医学研究科長を経て学長に提出するものとする。

第13条 削除

(学力の確認)

第14条 第12条による学位申請者に対しては、学位論文の受理にあたり、学力の確認のため、口頭試問又は筆答試問を行うものとする。試問は、外国語(原則として2カ国語)及び専攻学術に関し博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力を有するか否かについて行う。

- 2 第12条による学位申請者が、医学研究科において所定の年限在学し、所定の単位を修得し、かつ、

必要な研究指導を受けた上退学した者で、退学した日から3年以内に論文を提出したときは、前項の試問を免除することができる。

(課程によらない者の審査等)

第15条 第12条による学位申請者の学位論文の受理、審査、試験等については、第5条から第11条までの規定を準用する。この場合において、第7条第1項、第8条、第9条及び第10条中「最終試験」とあるのは「試験」と、第11条中「課程修了の可否」とあるのは「学位論文及び試験（第16条において単に「学位論文」という。）の合否」と読み替えるものとする。

(学位の授与)

第16条 学長は、第11条の議決に基づき、課程修了の可否又は学位論文の合否を決定し、課程修了又は学位論文の合格を決定した者に学位を授与する。

2 課程修了を否決し、又は学位論文の不合格を決定した者には、その旨通知する。

(審査要旨の公表)

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、その学位論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(学位論文の公表)

第18条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

3 前2項の規定による公表は、本学が指定するインターネットの利用により行うものとする。

第19条 削除

(学位授与の報告)

第20条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、所定の様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

(学位の取消)

第21条 本学の修士又は博士の学位を授与された者が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は当該委員会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

一 不正の方法により学位を授与された事実が判明したとき。

二 名誉を汚辱する行為があつたとき。

(学位記)

第22条 学位記は、別記様式第1号から別記様式第6号のとおりとする。

(審査手数料)

第23条 学位審査手数料については、愛知医科大学大学院における学位審査手数料及び入学検定料等に関する規程の定めるところによる。

(委任)

第24条 この規程に定めるもののほか、学位の審査等に関し必要な事項は、当該研究科長が定める。

(細則)

第25条 この規程に定めるもののほか、学位に関し必要な事項は、大学運営審議会の議を経て別に定める。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則（平成4年4月1日一部改正）

この規程は、平成4年4月1日から施行する。ただし、別記様式1及び別記様式2の改正規定は、平成3年7月1日から適用する。

附 則（平成12年4月1日一部改正）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成13年1月6日一部改正）

この規程は、平成13年1月6日から施行する。

附 則（平成17年12月12日一部改正）

この規程は、平成17年12月12日から施行する。

附 則（平成25年9月17日一部改正）

この規程は、平成25年9月17日から施行し、平成25年4月1日以降の博士（医学）学位取得者から適用する。

附 則（平成27年4月1日一部改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年4月1日一部改正）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和7年4月1日一部改正）

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

別記様式第1号（第22条関係）

学士（医学）

第 号	愛知医科大学長 印	年 月 日	学位を授与する	本学医学部医学科所定の 課程を修めて本学を卒業 したことを認め学士（医学）の	年 月 日生	氏 名	公 印 本籍（都道府県名）	卒業証書・学位記

別記様式第2号（第22条関係）

学士（看護学）

第 号	愛知医科大学長 印	年 月 日	学位を授与する	本学看護学部看護学科所定の 課程を修めて本学を卒業した ことを認め学士（看護学）の 学位を授与する	年 月 日生	氏 名	本籍（都道府県名）	卒業証書・学位記	公 印

別記様式第3号（第22条関係）

修士（看護学）

第 号	愛知医科大学 印	年 月 日	授与する	本学大学院看護学研究科の 修士課程を修了したので 修士（看護学）の学位を 授与する	年 月 日生	氏 名	本籍（都道府県名）	学 位 記	

別記様式第4号（第22条関係）

博士（医学）（第4条第1項該当者の場合）

第 号	愛知医科大学 印	年 月 日	授与する	本学大学院医学研究科の 博士課程を修了したので 博士（医学）の学位を 授与する	年 月 日生	氏 名	本籍（都道府県名）	学 位 記	

別記様式第5号（第22条関係）

博士（医学）（第12条第1項該当者の場合）

第 号	愛知医科大学 印	年 月 日	本 大 学 に 学 位 論 文 を 提 出 し 所 定 の 審 査 及 び 試 験 に 合 格 し た の で 博 士 （ 医 学 ） の 学 位 を 授 与 す る	年 月 日 生	氏 名	本 籍 （ 都 道 府 県 名 ）	学 位 記
--------	-------------	-------------	--	------------------	--------	---	-------------

別記様式第6号（第22条関係）

博士（看護学）

第 号	愛知医科大学 印	年 月 日	本 学 大 学 院 看 護 学 研 究 科 の 博 士 後 期 課 程 を 修 了 し た の で 博 士 （ 看 護 学 ） の 学 位 を 授 与 す る	年 月 日 生	氏 名	本 籍 （ 都 道 府 県 名 ）	学 位 記
--------	-------------	-------------	--	------------------	--------	---	-------------

愛知医科大学大学院医学研究科における学位審査委員会委員の選出に関する規程

平成27年4月1日

制定

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知医科大学学位規程（以下「学位規程」という。）第25条の規定に基づき、学位規程第6条に規定する審査委員会（以下「委員会」という。）の医学研究科における委員選出について、必要な事項を定める。

(委員の選出)

第2条 委員会の委員は、次により選出する。

- 一 委員は4名とし、そのうち1名を主査、主査以外の3名を副査とする。
- 二 主査は、学位申請者の研究指導教授以外の研究指導教授の中から選出する。
- 三 副査は、主査を担当する研究指導教授及び当該学位申請者の研究指導教授以外の研究指導教授の中から選出する。
- 四 前2号において、当該学位申請者の学位論文の共著者となっている研究指導教授は主査及び副査として選出しない。

(委員の決定)

第3条 主査及び副査は、医学研究科委員会運営委員会において候補者を選出し、医学研究科委員会の議を経て医学研究科長が決定する。

(細則)

第4条 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行し、平成27年4月以降に受理する学位論文の審査に係る委員会の委員の選出から適用する。

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知医科大学大学院学則（以下「学則」という。）第10条の規定に基づき、医学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目及び単位数並びにその履修方法等について定める。

(授業時間)

第2条 授業時間は、次のとおりとする。ただし、必要に応じ、これらを変更することがある。

1時限	9:00から10:30まで	5時限	16:20から17:50まで
2時限	10:40から12:10まで	6時限	18:00から19:30まで
3時限	13:00から14:30まで	7時限	19:40から21:10まで
4時限	14:40から16:10まで		

(履修計画等)

第3条 学生は、各学年において、所定の履修計画表を指定の期日までに医学研究科長（以下「研究科長」という。）に提出しなければならない。

(履修コース)

第4条 本研究科に、履修コースとして、高度の専門的知識の習得及び研究能力の育成を行う基礎医学専門研究者養成コースを、臨床研究に特有な基本的知識及び態度を育成する先端的臨床研究者養成コース並びにがん専門医療人材を育成する次世代がん医療コースを置く。

2 基礎医学系専攻の学生は、基礎医学専門研究者養成コースを、臨床医学系専攻の学生は、先端的臨床研究者養成コース又は次世代がん医療コースを選択しなければならない。

3 臨床医学系専攻の学生は、当該学生の研究指導教授の承認及び研究科長の許可を得て、選択した履修コースを変更することができる。

(単位数の計算方法)

第5条 講義及び演習については15時間の授業をもって、実験研究については30時間の授業をもって、それぞれ1単位とする。

(授業科目及び修得すべき単位数等)

第6条 授業科目、開講単位数（年次配当）及び修得すべき単位数は、別表のとおりとする。

(選択科目)

第7条 学生は、専攻する授業科目（以下「専攻科目」という。）のほかに、研究上有益と認める科目を選択科目として履修することができる。ただし、次世代がん医療コースを選択した者は、選択科目として、放射線医学、病理診断学、統合疼痛医学、がん治療学及び緩和・支持医療学から、専攻科目と重複しないよう、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位を選択し履修しなければならない。

2 学生は、選択科目を履修しようとするときは、当該学生の研究指導教授の承認を得て、履修しようとする選択科目の担当教授の許可を得なければならない。

3 第1項により選択科目として修得した単位は、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位をそれぞれ超えない範囲で、必修科目に充当することができる。

(特別開設科目)

第8条 授業科目には、必修科目及び選択科目のほか、特別開設科目を開設することができる。

2 特別開設科目の単位は、当該学生の研究指導教授を責任者とするものは必修科目の単位に充当し、その他のものは選択科目の修得単位として充当することができる。

(試験の実施方法等)

第9条 試験は、定期試験のほか、その科目の終了後又は授業担当教員が指示するときに行う。

2 試験の方法がレポートとされた場合は、その体裁等については、授業を担当する教員の指示に従うものとする。

(成績の評価)

第10条 成績の評価は、試験の結果、出席状況及び受講態度等を総合的に勘案して行う。

2 前項の評価は、合格を優，良，可，とし，不合格を不可とする。

(休講)

第11条 やむを得ない理由が発生した場合は、その授業を休講にすることがある。休講の通知は、掲示によって行う。

(休校)

第12条 大学の行事その他やむを得ない理由が発生した場合は、休校にすることがある。休校の通知は、掲示によって行う。

附 則

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 第4条の規定は、平成19年度入学生から適用する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

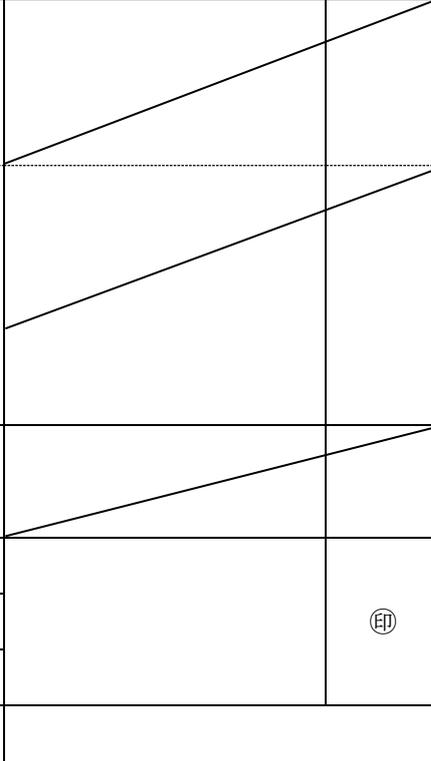
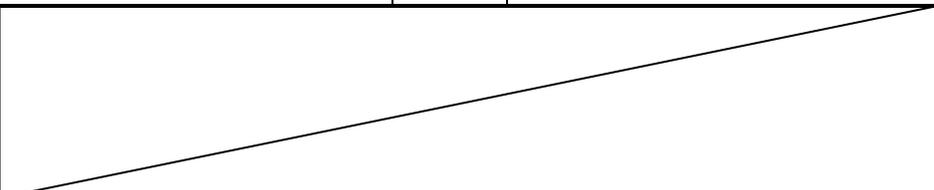
専攻	授 業 科 目	開講単位数		修得すべき単位数	備 考	
		1 年 生	2 年 生			
	研究 方 法 特 論 I	講 義	1	2	原則として、基礎医学専門研究者養成コースを選択した者は研究方法特論 I・II を、先端的臨床研究者養成コース又は次世代がん医療コースを選択した者は臨床医学特論 I・II を履修する。	
	臨 床 医 学 特 論 I	講 義	1			
	研究 方 法 特 論 II	講 義				1
	臨 床 医 学 特 論 II	講 義				1
	共 通 基 礎 科 目	演 習	1	1		2
基 礎 医 学 系	細胞生物学(生物学)	講 義	6	専攻科目のほかに、研究上有益と認める科目を選択科目として履修することができる。 次世代がん医療コースを選択した者は、選択科目として、放射線医学、病理診断学、統合疼痛医学、がん治療学及び緩和・支持医療学から、専攻科目と重複しないよう、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位を選択し履修しなければならない。 選択科目として修得した単位は、講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位をそれぞれ超えない範囲で、必修科目に充当することができる。		
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	解 剖 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	生 理 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	生 化 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	薬 理 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	病 理 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	感 染 ・ 免 疫 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
	衛 生 学	講 義	6			
		演 習	4			
		実 験 研 究	16			
公 衆 衛 生 学	講 義	6				
	演 習	4				
	実 験 研 究	16				
法 医 学	講 義	6				
	演 習	4				
	実 験 研 究	16				

専攻	授 業 科 目	開講単位数		修得すべき単位数	備 考
		1 年 生	2 年 生		
基礎医学系	医学・医療教育学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	加 齢 医 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	神経病態・幹細胞生物学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	分 子 医 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
臨床医学系	内 科 学	講 義	6	専攻する授業科目 (必修科目)の講義6 単位, 演習4単位及び 実験研究16単位	
		演 習	4		
		実験研究	16		
	精 神 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	小 児 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	外 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	脳神経外科学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	整 形 外 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	皮 膚 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	泌 尿 器 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	産 婦 人 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	眼 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	耳鼻咽喉科・頭頸部 外 科 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
	放 射 線 医 学	講 義	6		
		演 習	4		
		実験研究	16		
麻 酔 科 学	講 義	6			
	演 習	4			
	実験研究	16			
総 合 医 学	講 義	6			
	演 習	4			
	実験研究	16			
形 成 外 科 学	講 義	6			
	演 習	4			
	実験研究	16			
救急集中治療医学	講 義	6			
	演 習	4			
	実験研究	16			
リハビリテーション 医 学	講 義	6			
	演 習	4			
	実験研究	16			

専攻	授業科目	開講単位数		修得すべき単位数	備考
		1年生	2年生		
臨床 医学 系	臨床感染症学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	病理診断学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	統合疼痛医学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	口腔外科学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	睡眠医学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	救命救急医学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	輸血・細胞治療医学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	新生児学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	がん治療学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
	緩和・支持医療学	講義	6		
		演習	4		
		実験研究	16		
戦略的先制統合医療・健康強化推進学	講義	6			
	演習	4			
	実験研究	16			
医療安全管理学	講義	6			
	演習	4			
	実験研究	16			
医療薬学	講義	6			
	演習	4			
	実験研究	16			
災害医学	講義	6			
	演習	4			
	実験研究	16			
造血細胞移植・細胞治療情報管理学	講義	6			
	演習	4			
	実験研究	16			
合計				30	

2025年度 履修計画表 (年度入学 学年 年)

愛知医科大学大学院医学研究科

専攻	系学	学籍番号		氏名		㊟
		研究指導教授		氏名		㊟
在学区分		<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 社会人				
コース		<input type="checkbox"/> 基礎医学専門研究者養成コース <input type="checkbox"/> 先端的臨床研究者養成コース <input type="checkbox"/> 次世代がん医療コース				
科目別	授業科目		講義・演習 実験研究別	履修 単位	担当教授	承認印
必修 科目	基礎医学 専門研究者 養成コース	<input type="checkbox"/> 研究方法特論 I <input type="checkbox"/> 研究方法特論 II	講義	1		
	先端的臨床 研究者養成 コース	<input type="checkbox"/> 臨床医学特論 I <input type="checkbox"/> 臨床医学特論 II	講義	1		
	次世代がん 医療コース					
	共通基礎科目		演習	1		
	専攻科目		講義 演習 実験研究			
計						
選択 科目	特別開設科目		演習			㊟
						㊟
						㊟
						㊟
						㊟
						㊟
計						
合計						
研究題目						

※ については、該当にレを付して下さい。

令和7年4月1日

発行 愛知医科大学医学部事務部教務課

〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

電話 <0561>62-3311 (代表)

内線11470・11474

ダイヤルイン <0561>61-5244

F A X <0561>62-6690

印刷 株式会社山菊